岡山市埋蔵文化財センター年報5

2004（平成16）年度

2006年3月

岡山市教育委員会

はじめに

平成16年度は、全国的に展開した平成の大合併に洩れず岡山市も年度末には御津町・灘崎町を加えた市域の拡大が図られました。灘崎町にあっては西日本有数の縄文貝塚として知られた彦崎貝塚、御津町にあっては中世山城の金川城跡等の著名なものは言うに及ばず数多くの埋蔵文化財が所在します。

また、旧町時代には、灘崎町・御津町の文化財保護条例による史跡指定の措置が講じられていた埋蔵文化財が存在するとしても、今回の合併に伴う町条例の失効によってそれらの文化財が宙に浮く恰好となりました。このことは、単に埋蔵文化財に限らず旧町指定文化財の全般に関わる問題として岡山市文化財保護条例に基づく再指定への調査検討が早期に望まれているところです。

平成16年度にあっても岡山市埋蔵文化財センターでは、昨年同様に発掘調査や立会調査、それに伴う出土物の整理・収蔵、発掘成果の展示・公開、調査報告書の刊行等の事業を実施して参りました。また、史跡岡山城跡や賞田廃寺跡の歴史的環境整備事業や岡山市と瀬戸町にまたがる大廻小廻山城跡の史跡指定への取り組みも着実に進展しつつあります。

当センターのこれらの諸活動を通じて埋蔵文化財の保護・保存への理解が進み、加えてその活用にも重点をおいた今後一層の努力を続けて参りたいと考えております。

本年報もはや5冊目をむかえ、平成16年度に岡山市が取り組んできた埋蔵文化財行政の概要報告、やむを得ず記録保存の措置をとった遺跡の速報的な概報や貴重な資料の紹介等が掲載されております。本冊子が学術研究の一助となるだけではなく、広く埋蔵文化財の保護・活用においても役立つことを願っております。

最後に、当センターの運営や活動に対してご支援賜った多くの方々のお力添えに深く感謝申し上げます。

平成18年3月31日

岡山市教育委員会生涯学習部
文化財課　課長　根木　修

例　　言

1　本書は、岡山市教育委員会文化財課・岡山市埋蔵文化財センターが2004（平成16）年度に実施した、埋蔵文化財保護行政の概要報告である。

2　本書の執筆は各担当者が分担し、執筆者名を明記している。なお、執筆者によって表記方法が異なるが、あえて統一していない。

3　「Ⅱ　発掘調査等の概要」は、整理途中のものもあり、正式な報告書刊行の時点で訂正される場合がある。

4　遺物の整理や実測、図の作成にあたっては、多くの方々のご協力を得ております。氏名は省略させていただきますが、関係されました方々には感謝いたします。

5　本書の編集は、埋蔵文化財センター主任　長谷川一英が行った。

目　　次

Ⅰ　埋蔵文化財センターの組織と事業の概要 …… 1
Ⅱ　発掘調査等の概要 …… 9
Ⅲ　大廻小廻山城跡の史跡指定の経緯 …… 36
Ⅳ　埋蔵文化財保護等に関する協議・調整 …… 42
Ⅴ　岡山市南方遺跡出土土器付着物^{14}C年代測定（その２） …… 62

Ⅰ　埋蔵文化財センターの組織と事業の概要

1　岡山市埋蔵文化財センターの概要

設置の趣旨

岡山市内は、さまざまな種類の遺跡が数多く所在しており、全国的に見ても貴重な遺跡が豊富な地域である。また、一方で、各種開発事業も多く、それらとの調整を図りながら埋蔵文化財の保護と保存を行ってきた。その結果、膨大な量の出土物や記録の収蔵とともにそれらの活用を行うことが重要な責務となった。

岡山市埋蔵文化財センターは当市の埋蔵文化財に関する拠点施設として、発掘調査や出土物の整理・保存・収蔵、それらの展示・公開・情報発信などを行い、埋蔵文化財保護や保存、また埋蔵文化財に対する愛護意識の普及を図ることを目的として設置された。

開所年月日

平成12年４月１日

所在地

〒703-8284　岡山市網浜834-1

施設概要

敷地面積　2442.85㎡
建築面積　854.09㎡
延床面積　1895.79㎡

鉄筋コンクリート3階建
１階　747.15㎡
２階　736.35㎡
３階　412.30㎡

駐車場　10台

一階	公開スペース	展示室 165㎡ 収蔵展示室 36㎡ 図書コーナー 6㎡ 計 207㎡	一階	事務スペース	事務室 44㎡ 会議室 49㎡ 計 93㎡
			二・三階	研究スペース	研究室・図面整理室 90㎡ 書庫 81㎡ 写場 27㎡ 計 198㎡
	作業スペース	遺物整理室 105㎡ 水洗室 24㎡ 鉄器処理室 26㎡ 木器処理室 21㎡ 仮収蔵室 18㎡ 計 194㎡		収蔵スペース	特別収蔵室 29㎡ 収蔵室（２・３階） 816㎡ 計 845㎡

2　岡山市埋蔵文化財センターの組織

岡山市教育委員会 ―― 生涯学習部 ―― 文化財課 ―― 岡山市埋蔵文化財センター

文化財課

課長	出宮　徳尚
文化財専門監	根木　　修
主任	福永みどり
文化財保護主事	安川　　満

岡山市埋蔵文化財センター

所長（根木文化財専門監事務取扱）	
文化財副専門監	神谷　正義
主任	扇崎　　由
主任	草原　孝典
文化財保護主事	高橋　伸二
文化財保護主事	河田　健司
文化財保護主事	西田　和浩
嘱託	木村　真紀
嘱託	石井亜希子

3　事業の概要

平成16年度月別来所者数

平成16年度は開所５年目となるが、来所者は平成15年度に比べ200名以上増加した。月平均では71名が来所している。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計（前年比）
21	52	100	135	55	39	111	79	49	39	129	42	851（＋280）

資料の貸出

遺跡名等	資料名	点数	貸出期間	貸出先	事由
	旧鐘撞堂時鐘	1	16．6．10～16．6．14	岡山市長	岡山戦災の記録と写真展
史跡賞田廃寺	発掘調査写真	1	16．7．26～16．9．15	岡山県古代吉備文化財センター	大地からの便り－県内の発掘調査報告会
史跡賞田廃寺	発掘調査写真パネル	4			
史跡賞田廃寺	出土遺物（瓦、瓦塔、鴟尾等）	12			
川入・中撫川（市道２号線）遺跡	発掘調査写真	3			
川入・中撫川（市道２号線）遺跡	出土遺物（弥生土器等）	12			
岡山市立歴史資料館 足守文庫	洗足桶	1	16．9．25～16．11．30	山陽新聞社	平成１６年岡山城秋季特別展　宇喜多秀家没後３５０年記念「豊臣家五大老・宇喜多秀家」
	金盥	1			
花房家資料	宇喜多秀家（久福）父子連署状（花房志摩守宛）	1			
	宇喜多秀家（久福）父子連署状（豊作十宛）	1			
	伝豪姫小袖下布	1			

遺跡名等	資料名	点数	貸出期間	貸出先	事由
花房家資料	前田利家書写	1	16.　9．25～16．11．30	山陽新聞社	平成１６年岡山城秋季特別展　宇喜多秀家没後３５０年記念「豊臣家五大老・宇喜多秀家」
	甲冑（伝花房正成所用・紺糸縅二枚胴具足鎧櫃付）	1			
	宇喜多家侍帳	1			
戸川家歴史資料	槍穂先(伝戸川達安所蔵)	1			
	短刀（懐剣）銘備前国住長船祐定作	1			
	戸川家家譜	1			
岡山城二之丸（中国銀行本店）跡	金箔押し鬼瓦	1			
岡山城本丸中之段	桐文軒丸瓦	1			
	金箔押し桐文鬼瓦	1			
	金箔押し鳥衾瓦	1			
	金箔押し唐草文鬼瓦	1			
富山城	硯	1			
	備前焼徳利・摺鉢・大甕	4			
	天目茶碗片・染付碗片・煎茶碗片	4			
	手あぶり片・石皿	2			
	小柄柄・鐔	4			
	軒丸瓦・軒平瓦	4			
小丸山遺跡	須恵質硯（年号入り）	1	16．10．9～16．11．23	岡山県立吉備路郷土館	企画展「吉備の硯」
ハガ遺跡	羊形硯	1			
ハガ遺跡	獣形硯	1			
妹尾住田遺跡	石硯	1			
清山神社板倉家資料	雉尾指物	1	17．3．12～17．5．16	山陽新聞社	平成17年岡山城春季特別展「備中松山・庭瀬藩主　板倉家名品展」
	板倉重昌辞世	1			
	金采配（板倉重昌所用）	1			
	陣羽織	1			
	甲冑（板倉重矩所用）	1			
	板倉重昌書状	1			
	錦陣羽織 付帷子	1			
	幕府老中書状	1			
	板倉重矩書状	1			
	硯箱（後光明天皇下賜）	1			
	菓子器（後光明天皇下賜）	1			
	花器（明正天皇下賜）	1			
	後陽成天皇宸筆	1			
	後光明天皇宸筆「前」	1			
	清山神社縁起	1			
	板倉勝氏書	1			
	板倉勝弘書	1			
	板倉勝成書	1			
北方長田遺跡	器台・壺	１式	17．4．1～18．3．31	岡山市水道局長	水質試験所展示
造山２号古墳	円筒埴輪	1	17．4．1～18．3．31	岡山県立吉備路郷土館	常設展
南方（済生会）遺跡	剣形木製品	1	17．4．4～17．6．29	滋賀県立安土城考古博物館	平成17年春季特別展「王権と木製威信具」
	線刻板状木製品	1			
	彩文杓子	1			
	ジョッキ形容器	1			
	カップ形容器	1			
	箱	1			

遺跡名等	資料名	点数	貸出期間	貸出先	事由
南方（済生会）遺跡	戈柄	1	17．4．4～17．6．29	滋賀県立安土城考古博物館	平成17年春季特別展「王権と木製威信具」
	儀仗?	1			
	儀仗?	1			
	匙	3			
	フォーク形木製品	1			
	彩文高坏	1			
	コップ	2			
	取手付コップ	1			
	扁平片刃石斧（小）	3			
	扁平片刃石斧（中）	3			
	扁平片刃石斧（大）	3			
	柱状片刃石斧	3			
	剣形木製品写真	1			
	線刻板状木製品写真	1			
	彩文杓子写真	1			
	ジョッキ形容器写真	1			
	カップ形容器写真	1			
	箱写真	1			
	戈柄写真	1			
	儀仗?写真	1			
	儀仗?写真	1			
	匙写真	1			
	フォーク形木製品写真	1			
	彩文高坏写真	1			
	コップ写真	1			
	取手付コップ写真	1			
	扁平片刃石斧写真	1			
	柱状片刃石斧	1			
	遺跡全景写真	1			

掲載許可等

許可日	遺跡名	資料名	点数	依頼主	許可誌等
16．4．6	津島江道遺跡	水田（突帯文期）	1	吉備国際大学社会学部教授	『吉備発－日本の古代史は変わる』
	千足古墳	石室	1		
	千足古墳	石障	1		
16．4．8	牟佐大塚古墳	石室内部	1	落合町教育委員会（平成16年度当時）	『落合町史　通史編』
16．4．30	干拓地沖新田	政田民俗資料	1	株式会社淡交社	『日本民具の造形』
16．5．21	「清山神社板倉家歴史資料」	板倉重昌公所用　金采配	1	株式会社日本アート・センター	『週刊　名城をゆく』第31号「島原城・原城」
16．6．11	岡山市立歴史資料館足守文庫	道中風呂及び洗足桶	1	株式会社 碧水社	学習研究社『よみがえる日本の城岡山城ほか』
16．7．1	史跡岡山城跡	発掘調査状況	4		
	備中高松城跡	現状写真	3		
16．10．8	史跡造山古墳	航空写真	1	株式会社ロム・インターナショナル	『図解　地図とあらすじで読み解く古事記・日本書紀』
16．10．12	史跡岡山城跡	宇喜多期埋没石垣	1	岡山県広報協会	『グラフおかやま』
		岡山城二之丸出土金箔おし鬼瓦	1		
		備前焼　盤	1		
		美濃焼　灰釉皿	1		
	花房家資料	宇喜多秀家父子連署状	1		
16．10．22	史跡高松城跡附水攻め築堤跡	写真	1	株式会社あどりえ　ぼう	『（仮）岡山県の道路情報冊子』
16．11．9	南方遺跡	石鏃嵌入楯	1	文化庁長官	ドイツ連邦共和国開催海外展帰国展「日本の考古－曙光の時代－（仮称）」（奈良国立博物館開催）図録・広報資料

許可日	遺跡名	資料名	点数	依頼主	許可誌等
16. 11. 15	県史跡　藤原成親遺跡	供養塔	1	株式会社アス	『おかやま歴史の旅百選　源平合戦ゆかりの地を訪ねて』
16. 11. 24	南方遺跡	イノシシ下顎骨出土状況	1	株式会社吉川弘文館	門脇禎二・狩野久・葛原克人編『古代を考える　吉備』
16. 12. 2	岡山市立歴史資料館足守文庫	弓法吉田流之系図	1	岡山大学弓道部ＯＢ会	『日置の源流－備中足守藩吉田家弓術文書－』
		吉田葛巻系図	1		
		即交射法図	1		
		的之図	1		
		因射法可知次第	1		
		指南要法	1		
		弓法難問答並弓歌の巻	1		
		日置流弓目録	1		
		独学亭記	1		
		日置流目録、秘歌、無言歌、段々	1		
16. 12. 7	史跡惣爪塔跡	写真	1	株式会社吉川弘文館	門脇禎二・狩野久、葛原克人編『古代を考える　吉備』
16. 12. 16	岡山市指定重要文化財「経誼書院資料」	「経誼書院」看板	1	岡山日日新聞社	岡山日日新聞「ぼっこう横町」
16. 12. 21	大廻小廻山城跡	Ｄ地点壁面の検出状況と内部の列石	1	総社市教育委員会	「鬼ノ城」ガイダンス施設展示・パンフレット
		Ｄ地点第３トレンチ　列石と版築土墨	1		
17. 1. 7	新道遺跡	武家屋敷遺構	1	岡山市立岡輝公民館	岡輝公民館ホームページ
		井戸発掘調査状況	1		
	二日市遺跡（銭座跡）	発掘調査状況	1		
17. 1. 18	大廻小廻山城跡	北土墨	1	株式会社アス	『オセラ』14号「岡山歴史の旅百選　吉備の古代山城を尋ねて」
		土墨に伴う列石	1		
		北谷部列石と版築盛土	1		
17. 1. 31	南方遺跡	石鏃嵌入楯	1	株式会社小学館	『曙光の時代－ドイツで開かれた日本の考古展』
17. 3. 1	史跡造山古墳	航空写真	1	株式会社文藝春秋	『見学できる古代遺跡』
		前方部石棺	1		
17. 3. 11	大廻小廻山城跡	Ｄ地点下段壁面の検出状況と内部の列石	1	総社市教育委員会	「鬼ノ城」ガイダンス施設展示・パンフレット
		一の木戸全景	1		
17. 3. 24	史跡岡山城跡	宇喜多期埋没石垣	1	株式会社新人物往来社	『月刊歴史読本』2005年６月号
17. 3. 29	史跡高松城跡	写真	1	下川オフィス	『全国古戦場　合戦資料館ガイド』
	高松城趾資料館	写真	1		
17. 3. 30	岡山市埋蔵文化財センター	収蔵展示室	1	長崎県教育庁	長崎県ホームページ　冊子「長崎県立埋蔵文化財センター・壱岐市立一支国博物館(仮称)」整備基本計画(案)
17. 3. 30	南方遺跡	出土土器付着炭化物資料等		国立歴史民俗博物館	平成16年度業績報告書、関連報告書

資料調査

年	月	日	所　属	遺　跡　名	資　料　名
16	4	3	丸亀市立資料館	賞田廃寺	石材
16	5	27	個人	岡山城跡	動物遺存体
16	5	31	鳥取大学	南方遺跡	人骨
16	6	18	国立歴史民俗博物館	南方遺跡 川入・中撫川遺跡	土器
16	8	9	京都大学	南方済生会遺跡	琴
16	8	9	個人	川入・中撫川遺跡　ハガ遺跡	中世遺物
16	8	26	筑波大学	南方遺跡	卜骨
16	9	8	明治大学	南方遺跡　百間川沢田遺跡	土器
16	10	14	立命館大学	南方国立病院遺跡　南方済生会遺跡	弥生土器
16	11	9	大阪大学	南方遺跡	石器
16	12	9	岡山大学	造山２号墳　造山４号墳	埴輪
17	2	9	日田市埋蔵文化財センター	南方遺跡	木甲
17	2	15	立命館大学	造山２号墳　造山４号墳	埴輪

視察

年	月	日	氏　名　等	目的
16	4	19	愛知県岡崎市議会議員	行政視察
16	5	27	行政評価局	視察

主な発掘調査

平成16年度に実施した主要な発掘調査は下記のとおりである。なおこれらは、本年度当初の岡山市域内における調査であり、旧御津町分、旧灘崎町分は除いている。

○南坂８号墳　　岡山市下足守字隠地1012
　　平成16年10月12日～12月27日

○一国山城跡・一国山古墳群　　岡山市下足守624ほか
　　平成16年12月13日～平成17年３月25日

○川入・中撫川（市道２号線）遺跡　　岡山市川入～中撫川
　　平成14年より継続。平成16年４月30日まで

○岡山城三之外曲輪（中央中）跡　　岡山市蕃山町６－10
　　平成15年度より継続。平成16年９月30日まで

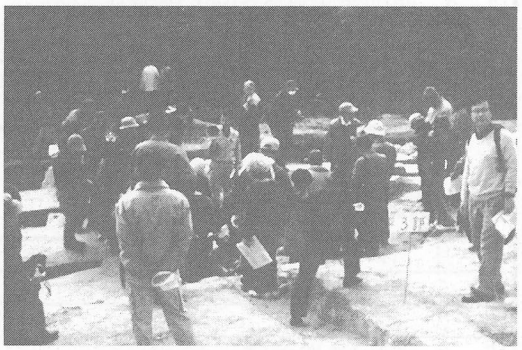
○東岡山（市道）遺跡　　岡山市下248－1ほか
　　平成16年９月28日～平成17年１月28日

現地説明会

平成16年度は三ヶ所の遺跡で現地説明会を開催した。遺跡が辺鄙な場所に位置している場合もあったが、多くの方々の参加を得ることができた。今後もできる限り説明会を開催し、多くの方々が地域の歴史に触れれる機会を設けれるよう努めたい。

○南坂８号墳
　平成16年12月18日　　参加者約20名
○東岡山（市道）遺跡
　平成17年１月22日　　参加者約400名
○一国山城跡・一国山古墳群
　平成17年３月19日　　参加者約150名

東岡山（市道）遺跡



一国山城跡・一国山古墳群

埋蔵文化財発掘調査速報展

平成３年度より、文化の日を中心とする文化財保護強調週間（11月１日～11月７日）に合わせて、前年度の調査成果を紹介する埋蔵文化財発掘調査速報展を開催している。毎年多くの方々の観覧があり、市民の間に定着してきた感がある。平成16年度は13回目の速報展を開催した。

期間　平成16年10月27日（水）～平成16年10月29日（金）
場所　岡山市役所１階市民ホール
内容　川入・中撫川（市道２号線）遺跡、賞田廃寺跡、清水廃寺跡、岡山城二之丸（市道16号線）跡、岡山城三之外曲輪（中央中）跡

埋蔵文化財発掘調査報告会

期日　平成16年10月30日（土）
場所　岡山市埋蔵文化財センター
内容　速報展で展示した遺跡のスライド写真による報告と出土遺物の解説

職場体験学習の受け入れ

当センターでは、市内の中学校で実施されている職場体験学習に伴い、生徒の受け入れを行っている。平成16年度は、岡山市立高松中学校の生徒が来所し、出土遺物の整理作業などを体験した。

報告書等の刊行

『赤田東遺跡－吉備中枢地における集落遺跡の発掘調査報告－』
『史跡賞田廃寺跡－史跡環境整備事業に伴う発掘調査報告』
『南方（済生会）遺跡－木器編－』
『岡山市埋蔵文化財センター年報４　2003（平成15）年度』

ホームページの公開

ホームページの公開と更新状況

岡山市埋蔵文化財センターのホームページは平成13年度に開設された。内容の更新は、「今月の一品」はほぼ毎月、「発掘調査情報」は調査の進展に伴い行っている。また、「現地説明会資料」「速報展資料」はかなり充実してきており、近年のものはほぼ掲載されている。

ホームページの構成と掲載情報

ホームページは、埋蔵文化財センターの施設や業務などを紹介するページと、発掘調査や収蔵品等の考古学情報を紹介するデータベース的なページとで構成されている。

●センターの案内
「来館案内」　センターの位置や開館情報を掲載。
「施設案内」　センターの建物や、施設・設備を紹介。
「展示案内」　センター展示室の様子を紹介。岡山市のネットミュージアム「リットシティミュウジアム」で公開しているセンター展示室の3D映像へのリンクも設けている。

（ＵＲＬ）http://www.city.okayama.okayama.jp.museum.maizou/

●センターの仕事
「センターの業務」　センターの業務内容の紹介。
「出 版 物 案 内」　センターおよび岡山市教育委員会文化財課が刊行している、発掘調査報告書等の文化財関係出版物の紹介と案内。

●もっと知りたい

「Ｑ＆Ａコーナー」　センター等に寄せられた質問等に回答するページ。

「リンクのコーナー」岡山市教育委員会文化財課や文化財関連施設、県内の発掘調査機関等のサイトへのリンク集。

★発掘調査情報

「発掘調査情報」　現在実施中の発掘調査の情報。平成16年度は下記の遺跡の調査を紹介した。

○岡山城三之外曲輪（中央中）跡　岡山市蕃山町
○東岡山（市道）遺跡　岡山市下
○一国山遺跡　岡山市下足守

「現地説明会資料」　これまで開催した発掘調査の現地説明会資料等をＨＴＭＬ形式で掲載している。平成16年度は下記の遺跡を掲載した。一部にＰＤＦ版もある。

○岡山城三之外曲輪（中央中）発掘調査ニュース

「速報展資料」　岡山市役所１階市民ホールで開催した、平成16年度埋蔵文化財発掘調査速報展の資料を掲載した。

★収蔵品紹介

「今 月 の 一 品」　収蔵品等の中から紹介している。平成16年度は下記の11件を掲載した。

第38回 百間川沢田遺跡出土　土器棺
第39回 造山古墳石棺
第40回 吉備型甕
第41回 かわらけ
第42回 縄文時代前期の土器
第43回 紀年銘付陶硯
第44回 庄内吉備型甕
第45回 陽刻軒丸瓦
第46回 窯道具
第47回 刻骨
第48回 泥塔

★岡山市の主要古墳（試作版）　岡山市域に所在する主要な古墳32基を紹介している。

★岡山市の発掘調査　岡山市教育委員会が1968年以降実施した発掘調査のリスト。

（ＵＲＬ）http://www.city/okayama.okayama.jp/kyouiku/maibun/

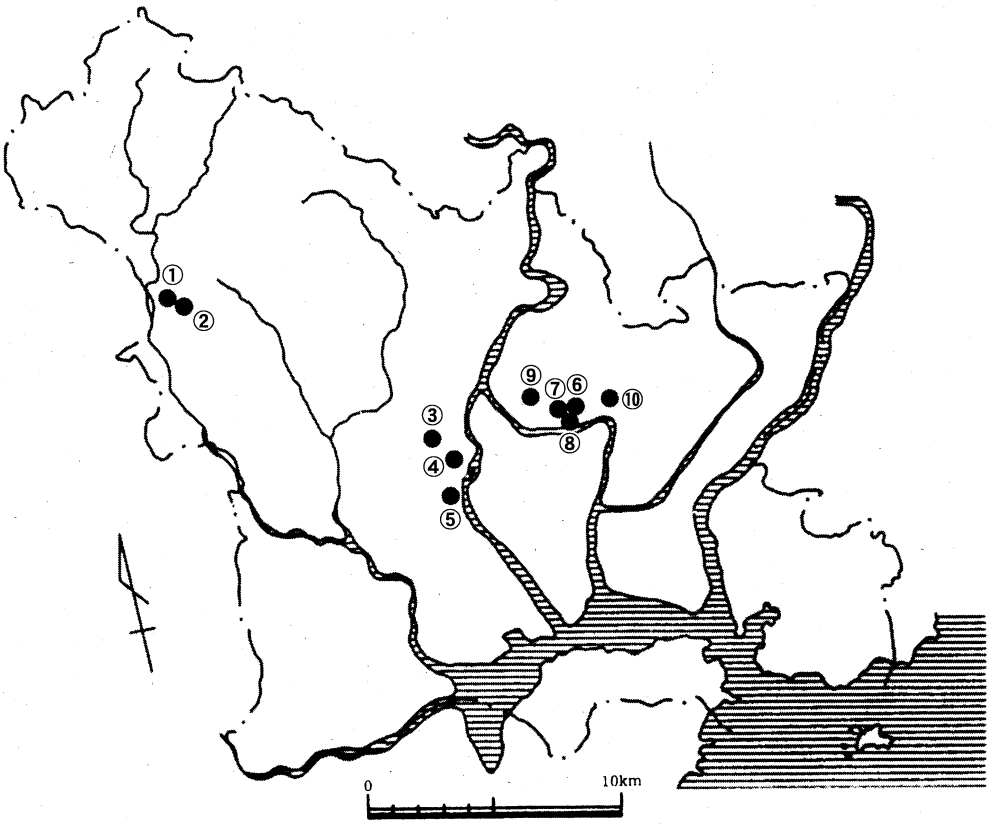
全国公立埋蔵文化財センター連絡協議会

平成13年度に入会した。平成16年度は下記の会議等に出席した。

平成16年度総会	平成16年５月27日・28日	鹿児島県姶良郡隼人町
中四国九州沖縄ブロック会議	平成16年９月16日・17日	鳥取県米子市
第17回研修会	平成16年10月28日・29日	大阪府大阪市

Ⅱ　発掘調査等の概要

① 一国山城跡・一国山古墳群・・・・・・・・・・・・・・・10
② 南坂８号墳・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
③ 絵図遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
④ 岡山城三之外曲輪（中央中）跡・・・・・・・・・・・・18
⑤ 天瀬遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
⑥ 兼基遺跡（平成17年１月）・・・・・・・・・・・・・・23
⑦ 兼基遺跡（平成16年７月）・・・・・・・・・・・・・・24
⑧ 兼基遺跡（平成16年４月）・・・・・・・・・・・・・・26
⑨ 赤田西遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
⑩ 東岡山遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32



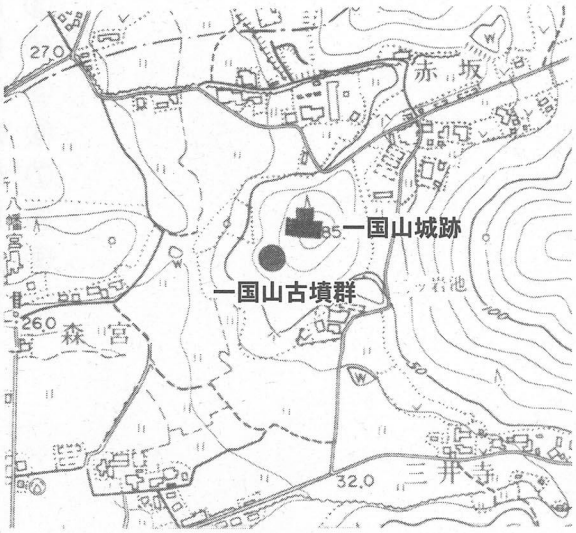
（市域は平成16年度当時のものです）

一国山城跡・一国山古墳群

所 在 地　岡山市下足守624ほか
調査原因　土砂採取
時　　代　弥生時代・古墳時代・中世
調査期間　041213～050325
調査面積　1000㎡
担 当 者　神谷正義・河田健司・西田和浩

調査の概要　調査地点は、「一国山」と呼称する、標高約85mの独立丘陵上に位置している。この地点は「改訂岡山県遺跡地図」（岡山県教育委員会 2003）によれば、「城?」とされている。しかし「中国兵乱記」には天正十年（1582）、冠山城攻防戦の折り、織田信長方が「一国山の峰」に「人数を揃え」た記述が見られ、何らかの城郭施設が存在することも予想された。

調査前は、草木が繁茂しており４郭が何とか確認できる状況であった。まず、城郭の範囲と想定される部分及び、遺構の存在が想定される南西にのびる尾根上に、トレンチを設定し試掘調査を行った。その結果を踏まえ、遺構の存在する可能性の高い城内４つの郭及び、箱式石棺が検出された城郭の西側にのびる尾根上を対象に本調査を行った。

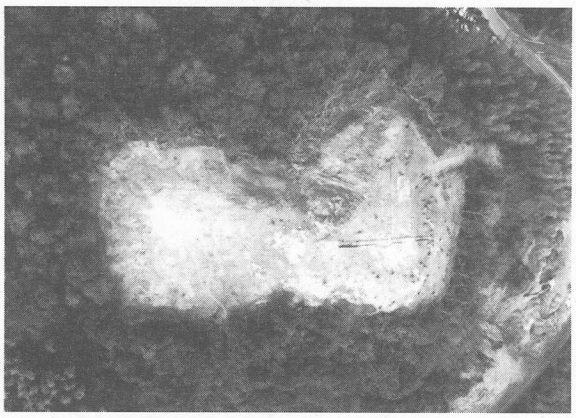


第１図　調査位置図

一国山城跡の概要　第１郭は一国山頂上の平坦面で、城の主郭に相当すると考えられる。標高は約84ｍを測り平面形はいびつな台形である。郭の北側を中心に縁辺部に60～70cmの盛土造成を行っており、平坦面を拡張する工事がかなり大規模に行われていたと考えられる。郭の北側～東側には土塁が残存しており、高さは約50cmを測る。第４郭に面する斜面は、急角度に造成されており、「切岸」が造られている。郭端部には、土止め施設と考えられる石を並べた遺構が数カ所認められた。西端付近には、地面が被熱した部分や、底部に木炭が集積し、一辺約３ｍ、深さ約0.5mを測る土壙が確認されている。しかし前者は遺物が認められず、後者は郭盛土造成土を掘り込んでいるため城郭に伴う遺構かどうかは不明である。

盛土造成土中には、中世および弥生時代の遺物が多く含まれている。また西南端部の造成盛土以前の地表面からは、中世及び弥生土器を伴うピットが確認された。これらのピットは、１郭が構築される以前、一国山山頂に営まれていた遺構であり、築城時に削平されたものと考えられる。

１郭から南西にのびる尾根上、１郭より約５ｍ下った位置に、平面形がいびつな台形を呈する第２郭が所


第２図　一国山城跡航空写真

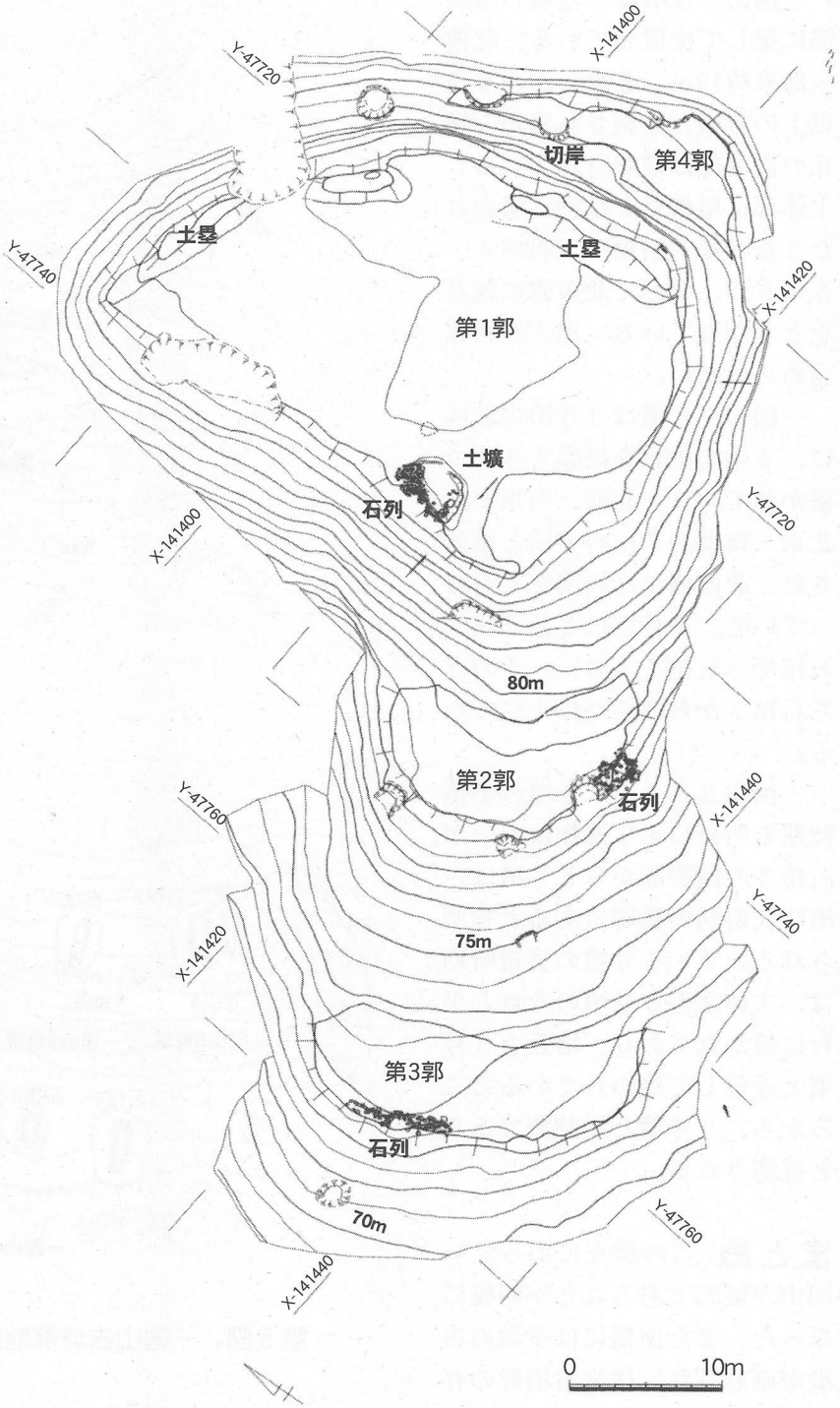
第３図　一国山古墳群調査風景（北東から）

在する。基本的に盛土造成は行っておらず、基盤を整形していると考えられる。城郭関連と思われる遺構は、南側端部に土止めと考えられる石列が所在する。

第２郭から約６ｍ下った位置に、平面がいびつな長方形を呈する第３郭が構築されている。第２郭同様、基盤を整形して構築されており、盛土造成はおこなっていない。西側端部に土止めと考えられる石列が所在する。

第３郭から南西部には後述する一国山古墳群が広がっており、第３郭上にも一国山１・２号墳が所在している。

第１郭の東側の２ｍほど下がった斜面上にも、若干の盛土造成をおこない平坦面が築かれている（第４郭）。城郭関連の遺構は確認できなかった。



第４図　一国山城跡地形測量図（Ｓ＝１／500）

一国山古墳群の概要

一国山古墳群は、一国山城跡の南西斜面上に位置しており、一部は第３郭と重複している第３郭上には１・２号墳が、そこより約15ｍ南西には３・４・５号墳が所在している。

一国山１号墳は、東西約７ｍ、南北９ｍ以上の方墳であり、北側には周溝をともなっている。主体部は２基の箱式石棺である（石棺１・２）。石棺１からは、鉄刀、ガラス玉、勾玉、管玉が、また石棺２の墓壙内からは胡籙が出土した。周溝内からは須恵器・土師器が複数出土しており、築造時期はこの須恵器・土師器の年代から５世紀後半と推測される。

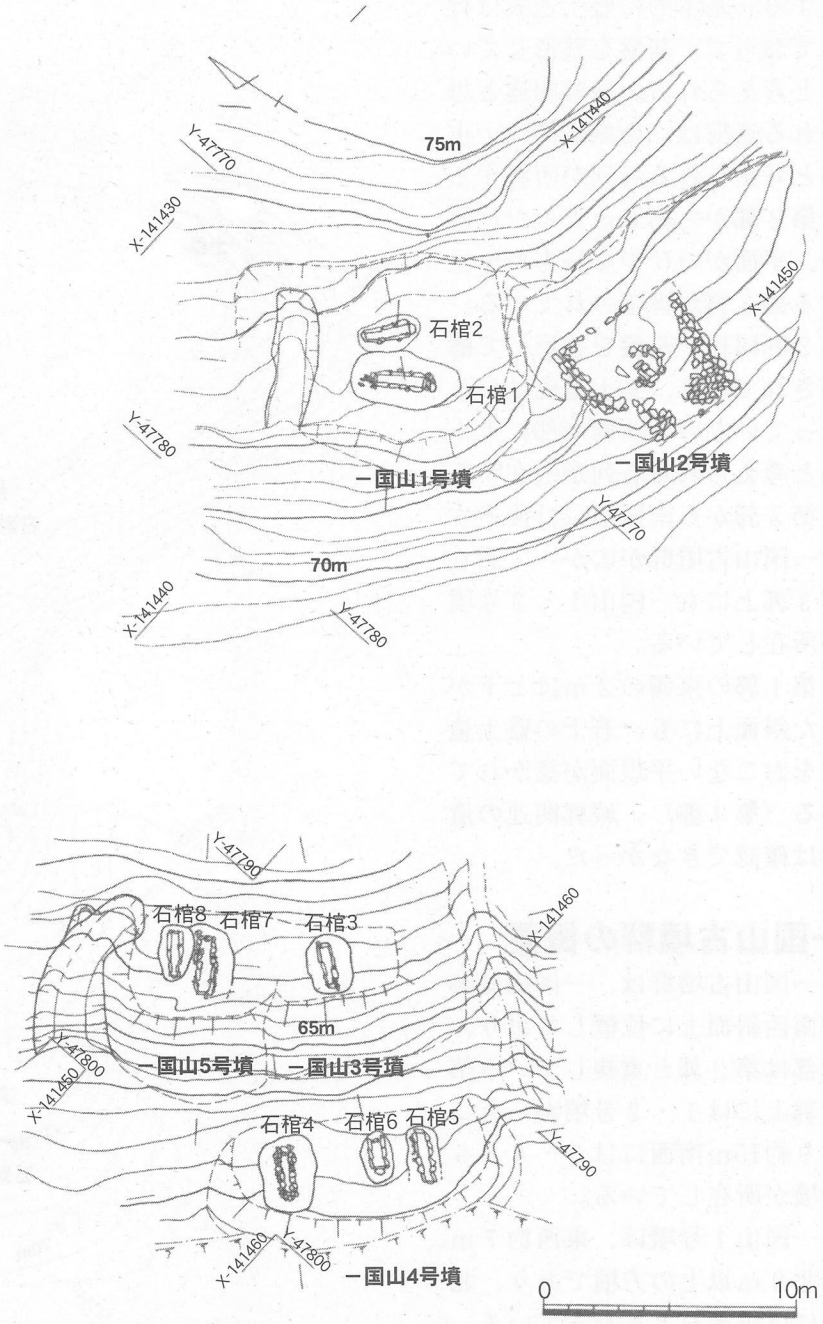
一国山２号墳は、１号墳の南東に隣接する一辺５ｍ程の方墳である。周囲には外護列石が方形に巡る。主体部は、長さ約1.3ｍ幅約１ｍの横口式石槨と推測されるが、かなり破壊されている。床面には敷石が認められ周囲に鉄釘が残存していることから、木櫃のようなものが納められていたと推測される。築造時期を明確に示す遺物は出土していないが、主体部内の流入土中から出土した土器細片や、墳丘の構造から終末期の古墳と推測される。

一国山３号墳は、北東－南西5.8ｍ、北西－南東８ｍ以上、高さ約1.6ｍの方墳であり、主体部は尾根筋に平行して築かれた箱式石棺である（石棺3）。石棺内からは破鏡や管玉、石杵が出土した。

一国山４号墳は３号墳の南西部に接して位置している。北西－南東約12m、北東－南西５ｍ以上の方墳と推測されるが、墳丘の南西部は破壊されている。主体部は尾根筋と平行に築かれた３基の箱式石棺で（石棺４・５・６）、すべて北東側に枕石をともなっている。出土遺物は認められない。

一国山５号墳は３号墳の北西に、３号墳墳丘を拡張する形で築かれている。北西－南東８ｍ、北東－南西約７ｍの方墳と推測され、北西側には周溝をともなっている。主体部は２基の箱式石棺で（石棺７・８）、そのうち石棺７からは鉇が出土している。

一国山３・４・５号墳の築造時期を明確に示す遺物はないが、石棺３の副葬品から３号墳は古墳時代前期の範疇にあると推測される。４・５号墳の築造時期は、主体部が３号墳のそれと平行に築かれており、墳丘も３号墳と近接して築かれているところから、３号墳と同時期であると推測される。



第５図　一国山古墳群地形測量図（Ｓ＝１／300）

まとめ　この調査によって一国山が城郭であることが明確になった。また南側には多数の古墳が確認され、従来古墳群の存在が不明であった一国山においても、南坂８号墳の所在する南側の山塊や、東側の山塊と同じく古墳が複数構築されていることが確認された。一方一国山城跡第１郭付近の、城郭築造以前の様相については、弥生時代及び中世段階において、人の営みが伺えるものの、城郭築造時の地形改変が著しく、内容は明確にできなかった。

（河田健司）

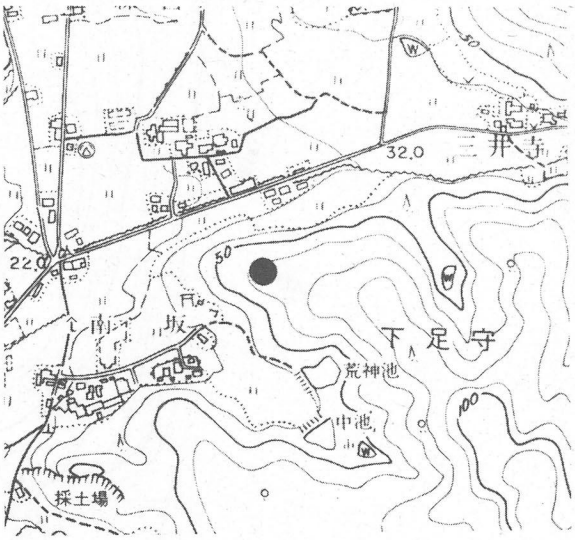
南坂８号墳

所 在 地　岡山市下足守字隠地1012
調査原因　土砂採取
時　　代　弥生時代・古墳時代
調査期間　041012～041227
調査面積　600㎡
担 当 者　河田健司・西田和浩

調査の概要　南坂８号墳は、岡山市下足守地区内の、西側に足守平野を見下ろす、西へ突出した標高約62mの尾根上に立地している。この尾根は、西から東へと入り込む谷地形の入り口付近に位置しており、この谷の両側には多くの古墳が所在している。これらの古墳のうち、谷の入り口付近、南側の尾根筋上の一群は南坂古墳群と呼称され、調査対象である南坂８号墳はその中の１つである。

当古墳は山土採取事業に先立ち、平成14年度にすでに確認調査がおこなわれており、今回は本調査を実施したものである。

以下、今回の調査により、新たに確認された遺構を中心に概略を述べる。



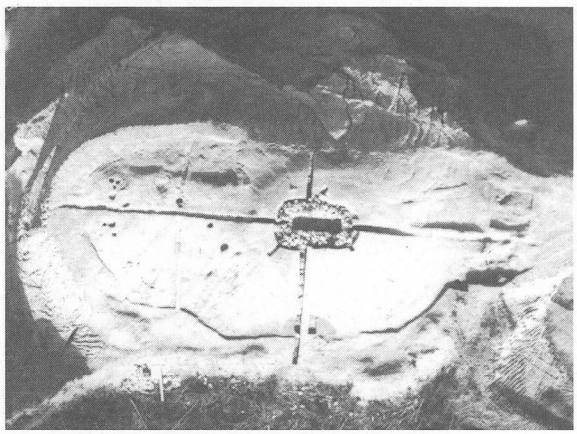
第１図　調査位置図

遺跡の概要　調査の結果南坂８号墳は全長約27m、後方部長約15m、幅14m以上高さ約２m、前方部長約12m、幅約９m、高さ約0.8mの前方部を北西に向ける前方後方墳であることが判明した。

本古墳の主体部は、後方部中央に構築された長さ約3.7m幅約1.2m、高さ約1.1mの竪穴式石室である。石室床面には円礫が敷かれ、内部より管玉１点が出土した。また石室の北西端部からは墳丘南側のくびれ部へとのびる暗渠状の排水溝も確認された。この竪穴式室は、墳丘築造前の地表面を掘りくぼめ、１～２段石を積み、排水溝を作りつけた後、周囲から中央に向けて盛土を行いながら、側壁を積み上げて造られており、いわゆる「構築墓壙」と呼ばれるものである。当古墳の築造時期は、平成14年度の調査において墳丘上で確認された土器棺墓の時期から、古墳時代前期と推測される。

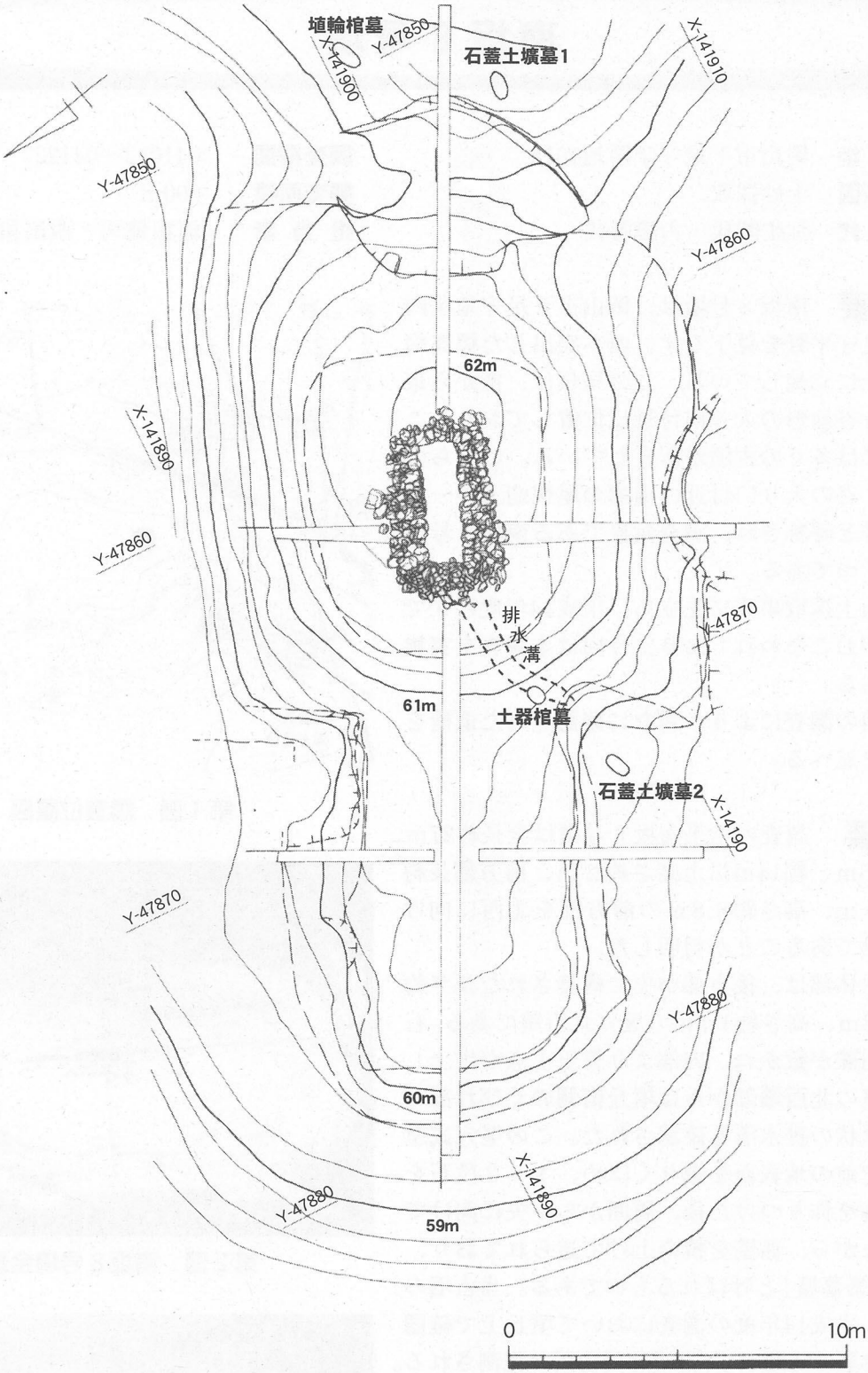
当古墳の後方部南東側墳端の５m程東側からは、埴輪棺墓が1基確認された。約1.3m×約0.5mの土壙の中に３個体の円筒埴輪を組み合わせて棺としており、埴輪の時期から、築造は５世紀末～６世紀初頭と考えられる。

さらに後方部南東側墳端より約５m東、埴輪棺より約５m南西からは、石蓋土壙墓が１基確認された。約１m×0.6m程の土壙上に２石が置かれ、須恵器の坏蓋



第２図　南坂８号墳全景

第３図　埴輪棺（南西から）

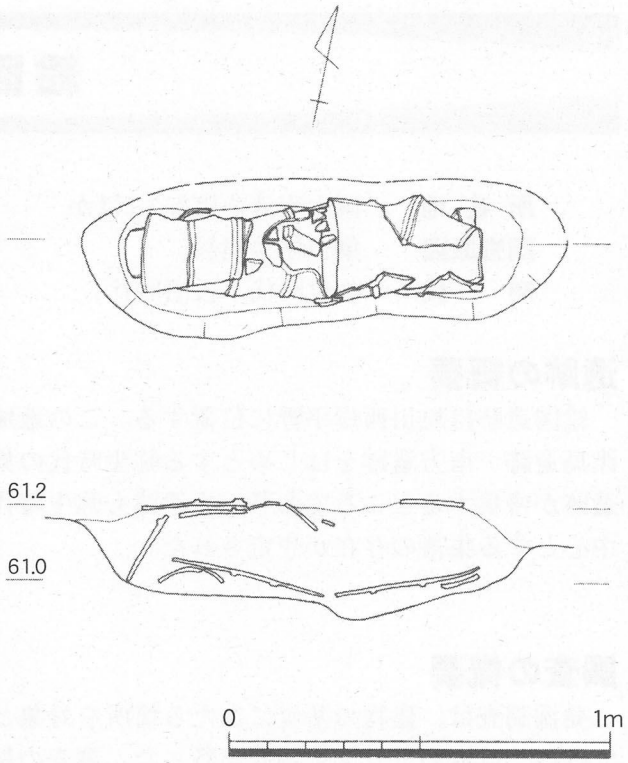


第４図　南坂８号墳墳丘測量図（S＝１／200）

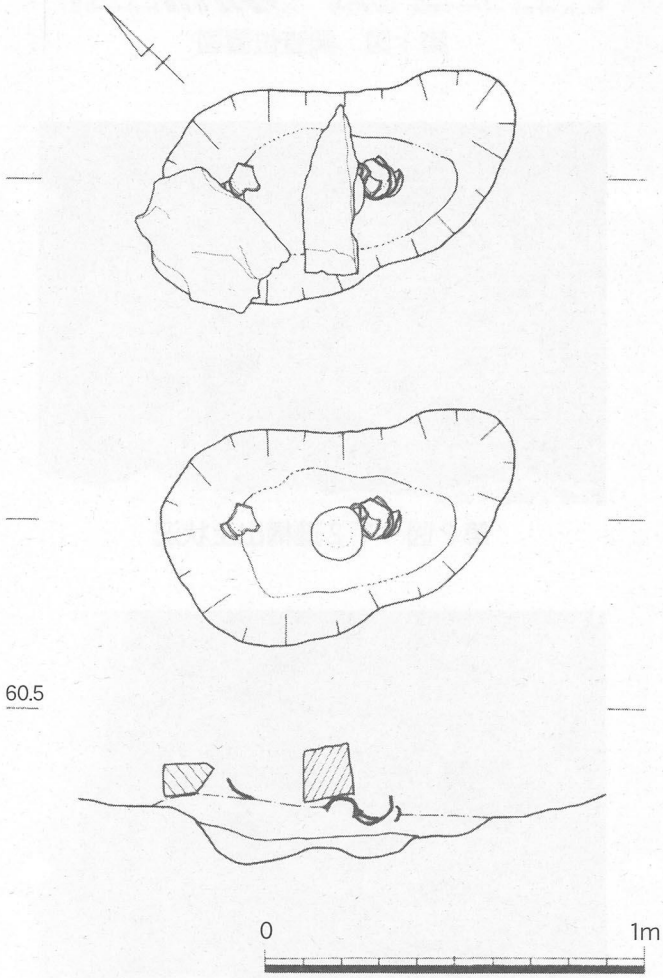
と坏身が副葬されている。築造は、須恵器の時期から６世紀中葉と考えられる。

本古墳の墳丘盛土の下からは、多くのピットが検出された。ピット内には、弥生時代後期後半や弥生時代中期後半の土器を伴っているものも認められる、しかし大半は、埋土の様子から人為的なものとは考えにくく、風倒木痕である可能性が高い。

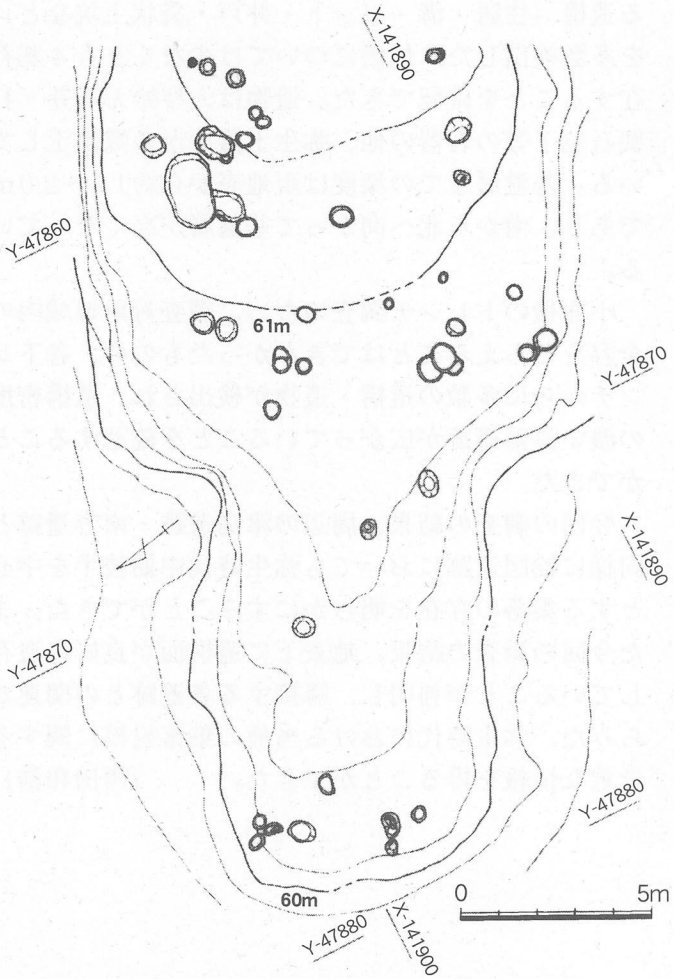
まとめ　本古墳が所在する尾根上は、弥生時代中期後半から人の居住が推測されるが、該期の遺構の状況から集落本体ではないと考えられる。古墳時代に入り、本古墳が築かれてから後は、人が居住した痕跡は認められない。当古墳の墳丘上および周辺には、７世紀初頭までに平成14年度に確認されたものも合わせて、５基の埋葬施設が構築されている、このことからこの尾根上は、古墳時代前期以降墓域として利用されたと推測される。　（河田健司）



第５図　埴輪棺（S＝１／20）



第６図　石蓋土壙墓１（S＝１／20）



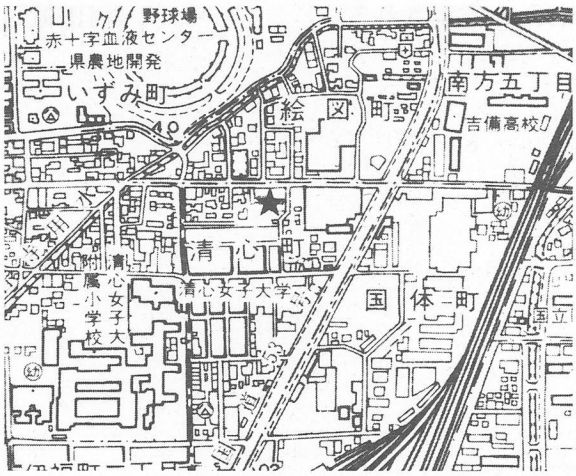
第７図　弥生時代遺構面（S＝１／200）

絵図遺跡

所在地	岡山市清心町357-7ほか	**調査期間**	041118～041201
調査原因	集合住宅建設	**調査面積**	123㎡
時　代	弥生時代・古墳時代	**担当者**	神谷正義・扇崎　由・高橋伸二 草原孝典・安川　満・西田和浩

遺跡の概要

絵図遺跡は旭川西岸平野に位置する。この地域は津島遺跡・南方遺跡をはじめとする弥生時代の集落遺跡が密集するところであり、当遺跡も弥生時代を中心とする集落の存在が想定された。



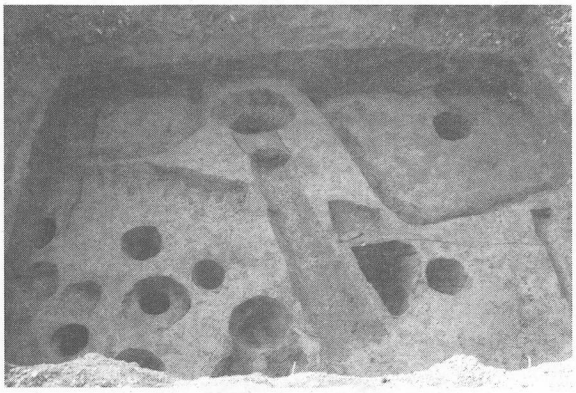
第１図　調査位置図

調査の概要

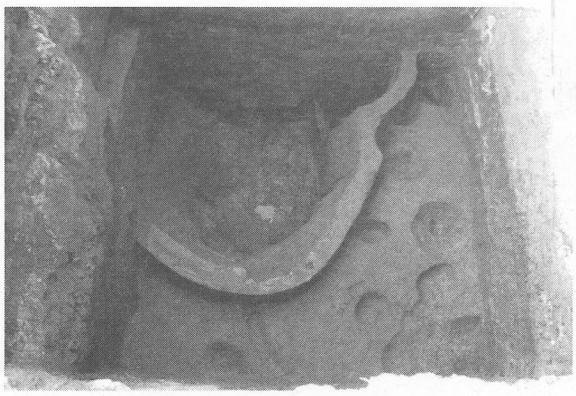
発掘調査は、建物の基礎にあたる箇所を対象として行い、計17のトレンチ調査を行った。調査の結果、弥生時代および古墳時代の遺構・遺物を検出し、とりわけ基盤層上面から弥生時代中期後半を中心とする遺構（住居・溝・ピット・井戸・袋状土坑など）を多数検出した。住居については少なくとも４基存在することを確認できた。遺物は太型蛤刃石斧・打製石包丁等の石器の他、弥生土器片が多数出土している。基盤層までの深度は現地表から約1.5～2.0ｍであり、南から北へ向かって基盤層が高くなっている。

小面積のトレンチ調査のため、調査対象地域内の全容をとらえることはできなかったものの、各トレンチからは多数の遺構・遺物が検出され、遺構密度の濃い集落遺跡が広がっていることを確認することができた。

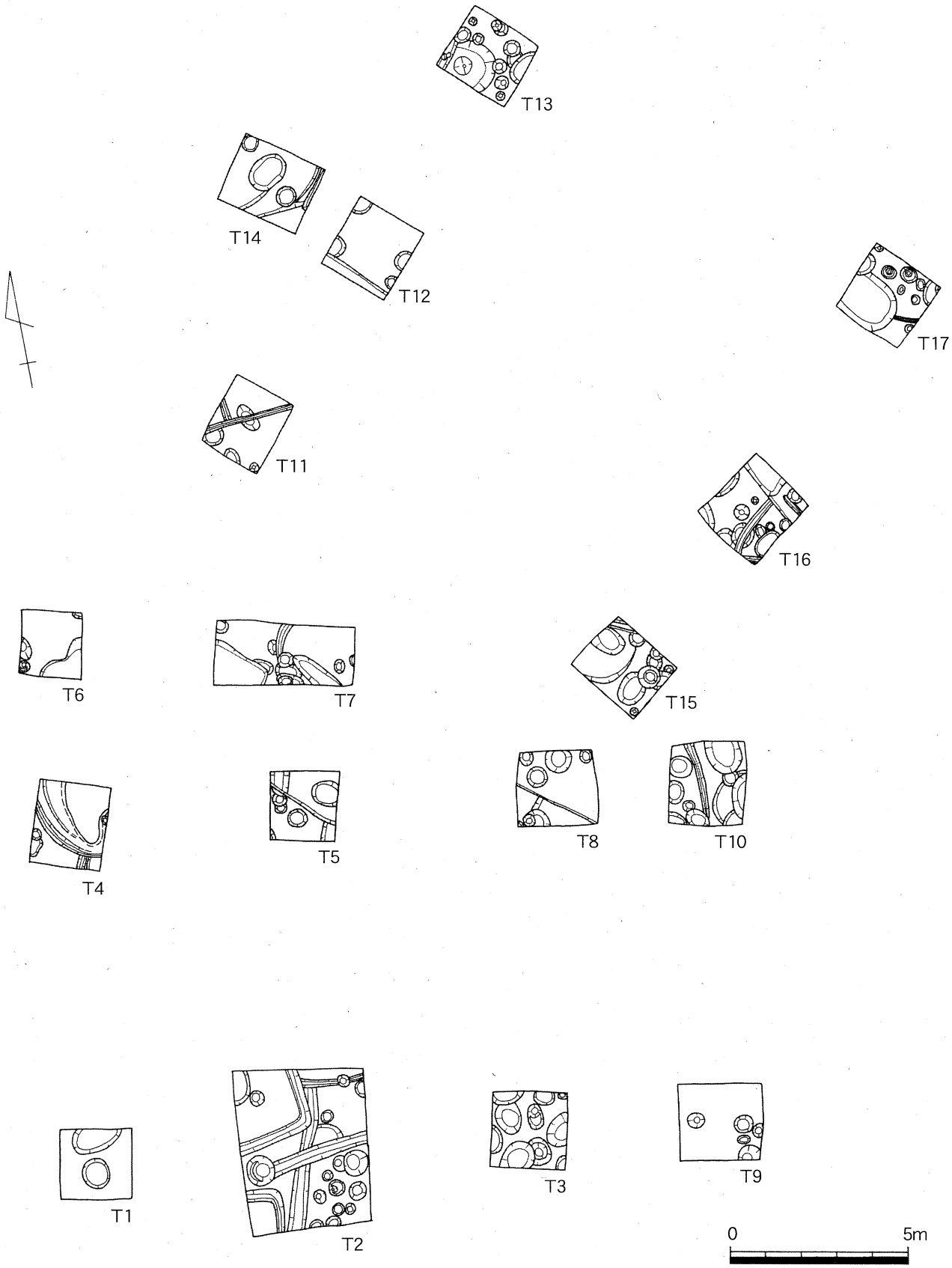
今回の調査の結果、周辺の津島遺跡・南方遺跡と同様に絵図遺跡においても弥生時代中期後半を中心とする集落の存在を明らかにすることができた。また今回の調査の結果、地表下に遺構面が良好に遺存していることが判明し、隣接する各遺跡との関連からみた、弥生時代における当地の集落規模に関する貴重な情報を得ることができた。　（西田和浩）



第２図　Ｔ２遺構出土状況



第３図　Ｔ６遺構出土状況

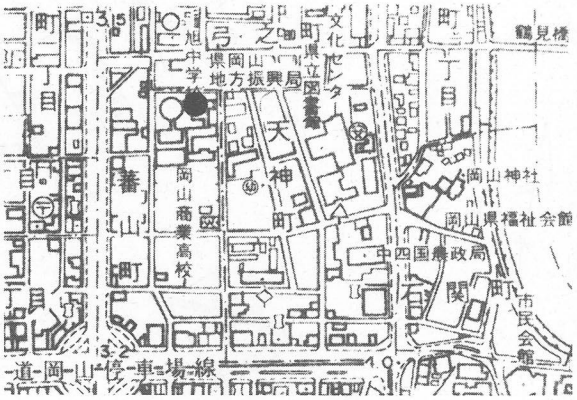


第４図　絵図遺跡遺構平面図（S＝1／160）

岡山城三之外曲輪（中央中）跡

所 在 地　岡山市蕃山町6-10
調査原因　中央中学校校舎増築工事
時　　代　古墳時代・古代・近世
調査期間　040401～040930
調査面積　600㎡
担 当 者　神谷正義・河田健司・西田和浩

遺跡の概要　岡山市立中央中学校は、岡山城の北西部、三之外曲輪に位置している。同校の校地は、平成11年に岡山市立丸の内中学校と統合した旧岡山市立旭中学校のものを使用しており、その旭中学校は、昭和20年の空襲で焼失した、旧岡山藩藩学跡地に相当し、現在でも敷地の南東隅には、藩学の泮池が残存している（国指定史跡）。また運動場を中心として、藩学関連の遺構が埋没していると考えられている。本調査地点は史跡範囲外であり、近世を通じて武家屋敷地であったと考えられるが、絵図等から一時期藩学の敷地に組み込まれていた可能性も指摘されている。

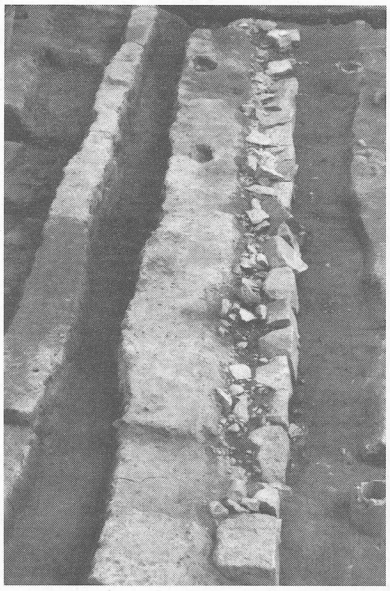


第１図　調査位置図

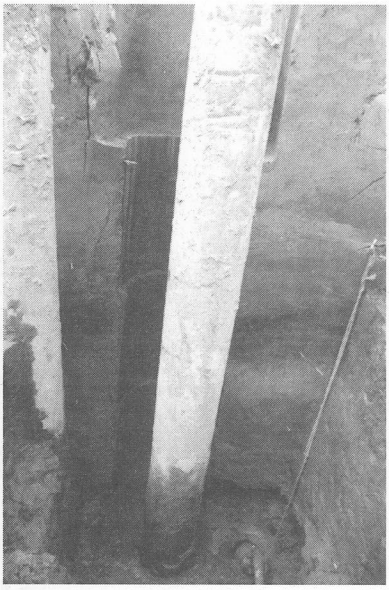
調査の概要　本調査は校舎新築に伴い、平成15年度から実施しており、調査区西半部から、近世の遺構を中心として、ゴミ穴、瓦溜まり、石列などが検出されている。今年度は引き続き西半部の調査を実施し、調査終了、埋め戻し後、７月15日より東半部の調査を実施した。

○近世　近世の遺構は、旧旭中学校、及び戦前の岡山県女子師範学校の校舎の基礎に上面を切られる形で検出された。主な遺構には、前年度に検出された東西方向へのびる道路の側溝と思われる石列、それに直交し、西側の外堀へ続くと思われる石組みの溝、井戸、ゴミ穴、礎石を抜き取ったと思われるピットなどがある。遺物は近世全般のものが出土しているが、中心となるのは18世紀後半～19世紀の遺物である。

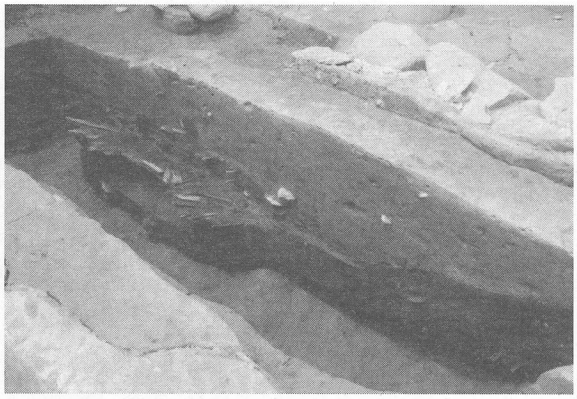
石列　東西方向へ約９ｍにわたってのびる。幅40～50cm、高さ15～30cmの割石を用いて構築されている。


第２図　石列（南から）

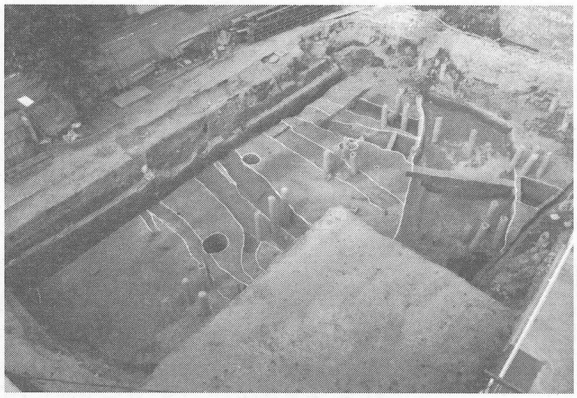
第３図　石組み溝（西から）


第４図　井戸４（北から）

割石は西側に面を揃えて築かれ、東側背後には、ぐり石が認められる。１段しか残存していないが、石材の高さ、ぐり石の高さ等から本来２段以上積まれていたと推測される。両端は上からの攪乱により破壊されているが、かつては調査区を南北に横切っていたものと考えられる。文久三年（1861年）に完成した「備前岡山地理家宅一枚図」（以下「絵図」とする）には、本調査区の中央付近を南北に横切る道路が描かれている。また石列の東側には、周囲の土層とは異なる砂質土の薄い平らな層が数層重なり、道路面と推測されることから、本遺構は道路の護岸石垣あるいは道路側溝の石垣と考えられる。本遺構から約３ｍ離れて平行に走る溝２が一条検出されており、道路幅は約３ｍと考えられる。本遺構の下には17世紀の遺物を伴うゴミ穴が検出されており、ぐり石内には18世紀の遺物が認められることから、本遺構は18世紀以降構築されたものと推測される。



第５図　ゴミ穴断面（東から）



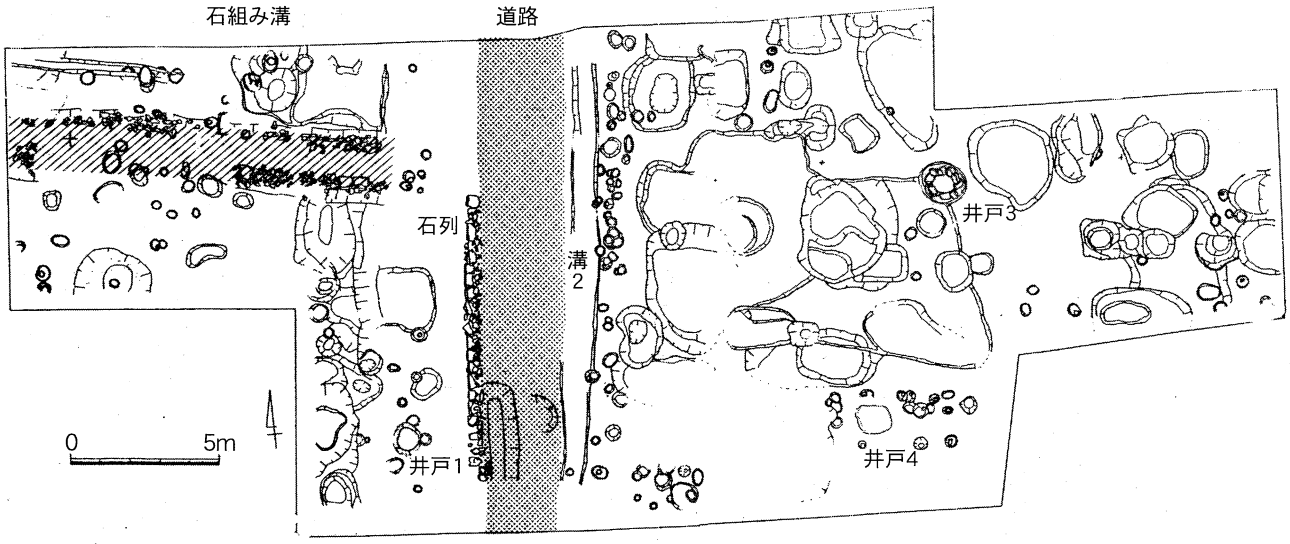
第6図　古代・古墳時代遺構面（西半部・西から）

石組み溝　調査区西半部北側に検出された。長さ40～50cm、高さ20～30cmの四角い割石で築かれているが、ほとんど抜き取られており、掘り方および背後のぐり石が約12mの長さにわたって残存している。推定される水路の幅は50～60cmである。上記の絵図には本遺構に該当する箇所に道路に直交し外堀へとのびる水路が描かれている。本遺構は東側が攪乱により消滅しているが前記の石列にほぼ直交すると推測されるところから、絵図に描かれた水路と同一のものと推測される。本遺構は近世末期の瓦を含む多量の瓦で埋められており、近代以降石材を抜き取られた後埋められたと考えられる。「岡山古図」（寛永九〔1632〕年）、「岡山内曲輪絵図」（宝永五〔1708〕年）、および「岡山古図」（寛政十二〔1800〕年）には該当個所に水路は描かれていないため、本遺構は19世紀以降の築造と考えられる。しかしこれら３点の絵図には、水路自体がほとんど描かれておらす、一方該当個所付近に屋敷境が描かれているため、19世紀以前から存在していた可能性もある。

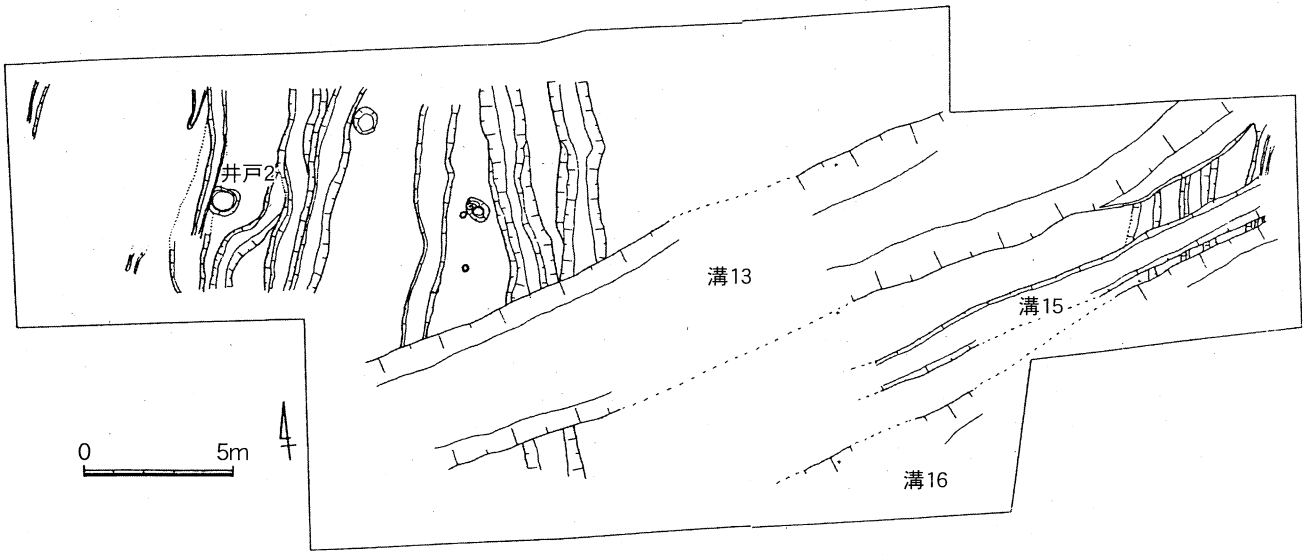
井戸　調査区内に３基検出され、前記の石列を挟んで西に１基、東に２基位置している。いずれも円筒形の掘り方の中に径50～80cm、高さ約90cmの底を抜いた木桶を逆さまにして３つ重ね井戸側としている。３基とも底は標高－0.6ｍ付近である。井戸３には桶の上面にさらに三寸角ほどの角材を四角に組み、その上に割石を積んだ高さ80cm程度の井戸側を造っている。井筒は残存していないが井戸３の埋土の中から円筒形の豊島石製井筒の破片が出土している。いずれの井戸も少なくとも幕末頃まで使用され、人為的に埋められたと考えられるが、井戸３は近代以降も使用されていた可能性もある。

ゴミ穴・瓦溜まり　瓦が多量に捨てられた上記石組み溝上部以外には、調査区東半部北側、西半部南側に多く認められる。特に東半部北西部分は多数集中して切り合い、10ｍ×６ｍの大規模なゴミ穴を形成している。出土遺物から大半は18世紀後半～19世紀のゴミ穴であるが、上記の石列と溝２との間には、南北に細長く石列に平行する軸を持つ17世紀のそれも所在している。ゴミ穴は、①有機質を多量に含むが、陶磁器・瓦類をあまり含まないもの、②陶磁器類を多量に含むもの、③瓦類を多量に含むものの３種に大別され、掘削された目的・使用方法を反映しているものと推測される。

ピット　調査区全体に 認められ、径・深さとも様々である。調査区西半部など、岡山県女子師範学校や旧旭中学校の基礎に破壊されていない部分からは、直径50～80cm、深さ20～40cmで不整形な楕円形を呈する複数のピットが検出されている。内側には小円礫や角礫が充填してあり、平らに敷き詰めら



第７図　近世遺構面（S＝１／250）

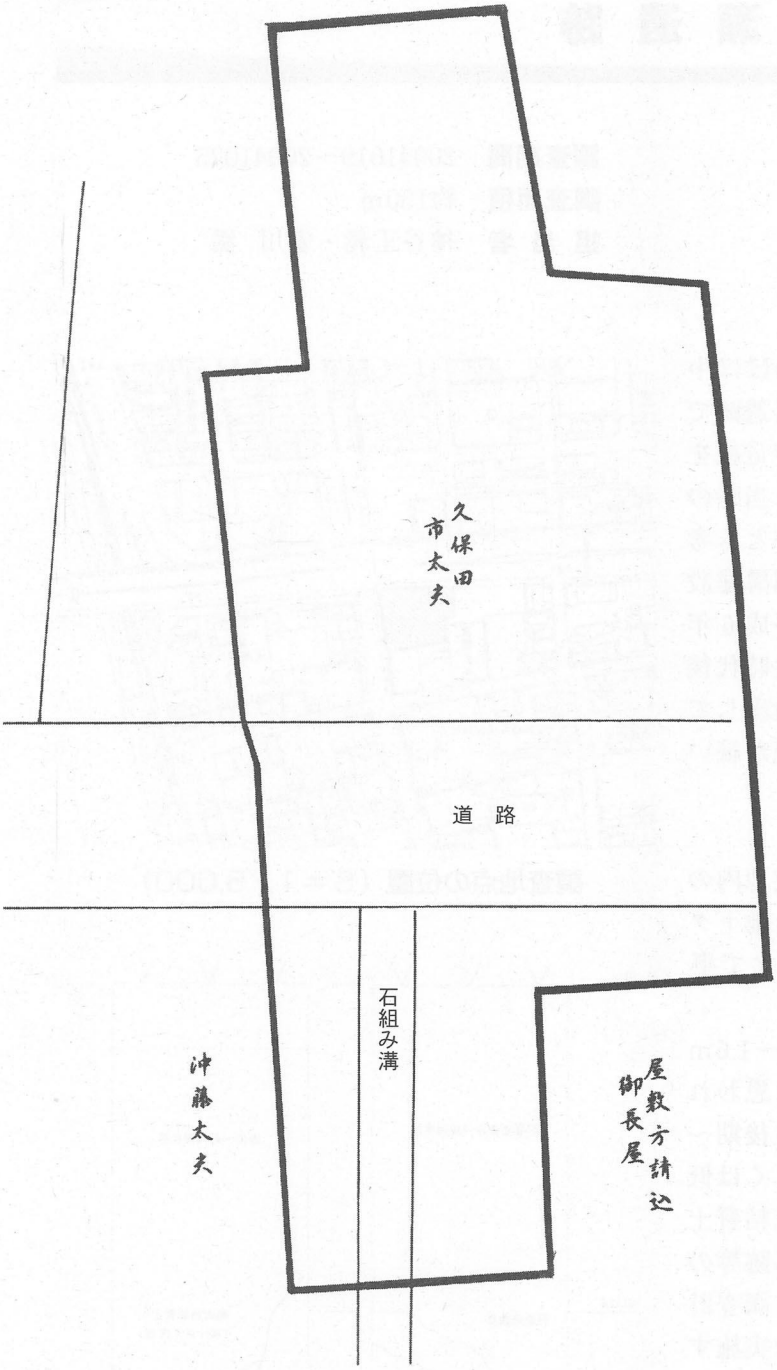


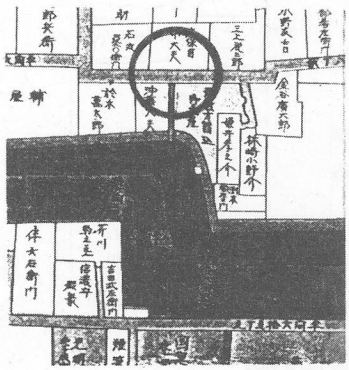
第８図　古代・古墳時代遺構面（S＝１/250）

れているものや、漏斗状に中央が落ち込んでいるものがある。これらは礎石を抜き取った痕跡であり、中の礫は礎石の下に敷かれていた根石であると考えられる。また溝２の東岸および井戸４の北側には径・深さともに20～30cmのピットが多数検出されている。柱痕を伴うものもあり、多数が切り合いながら、前者は南北に、後者は東西にのびている様子が認められる。これらのピットは、前者は屋敷地の境界、後者は屋敷内の区画の塀であろうと推測される。

○古代　近世遺構面下には、主として中世の遺物を伴う、数層の水田層が認められ、さらにその下、標高約2.0～2.2m付近から、３本の溝が検出された。溝13は幅約４m、深さ約80cmを測り、断面形は深皿状を呈する。溝13・16とも深さから、北東方向へ流れていたと推測される。溝16は調査区南端で切られているため規模は不明である。溝15は幅１m程度で非常に浅い。埋土中からは、古代の土師器の細片が、わずかに出土している。溝13と16の時期差は明確ではないが、ほぼ同じ埋土で埋没しているところから、同時期に存在した可能性がある。また、両者はほぼ平行に位置し、遺物もほとんど認められないところから、自然河道ではない可能性もある。

○古墳時代　調査区西半部より井戸および溝が数条確認されている。また調査区東半部東端付近から





（左が北）

第9図　備前岡山地理家宅一枚図（文久三年）上の推定調査範囲

も、３条の溝が検出されている。いずれも標高1.7～1.9m付近から検出されている。溝は幅1.0～1.5m、深さ0.2～0.8mである。深いものは断面が逆台形状を呈し、人為的に掘られた可能性がある。井戸は素掘りで、径約0.9m、深さ約１mを測る。溝及び井戸の埋土中からは古墳時代前期の土師器が出土しており、これらの遺構はこの時期の範疇に属すると推測される。調査区中央～東半部西側にかけては、地形が両側から緩やかに下がり、暗褐～黒灰色粘土が堆積している、沼沢地の状況を呈している。

まとめ　本調査地点の位置する中央中学校の校地の南には、寛文九年（1669年）岡山藩主池田光政によって開設された、岡山藩藩学跡が所在する。近世各期の絵図によると、現在の中央中学校の校地の大部分は岡山藩藩学の敷地に含まれている。寛文期に描かれたとされる「岡山　藩学校古図」によれば、当調査地点も17世紀末、一時期藩学敷地の北端を占めていたと考えられるが、今回明らかに藩学に関連すると思われる遺構や、藩学設立以前の城下町に関連する遺構は確認できなかった。この地点は17世紀末一時期をのぞいて、道路や水路に区切られた３つの武家屋敷地の境界付近に位置しており、今回確認された遺構や遺物は、主に18世紀後半～19世紀の武家屋敷に関連するものと推測される。そして道路遺構と推測される石列と、石組み溝は絵図上道路や水路に相当する遺構と考えられる。

城下町形成以前の当調査地点は、中世においては水田が営まれており、古代、古墳時代前期においては複数の溝や井戸が所在し、一部には沼沢地も見られるという、全体として微高地縁辺の村はずれといった景観を呈していたと推測される。本調査地点周辺は近世以降、城下町建設後急速に市街化していったと考えられる。

（河田健司）

天瀬遺跡

所在地　岡山市天瀬3-7ほか
調査原因　店舗建設（地下タンク）
時　代　弥生～古墳時代
調査期間　20041019～20041025
調査面積　約150㎡
担当者　神谷正義・安川　満

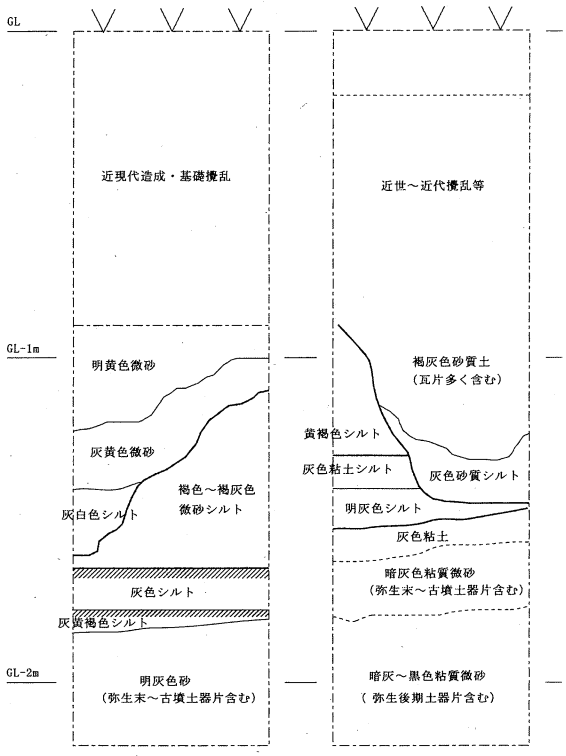
遺跡の概要　天瀬遺跡は旭川西岸平野のほぼ中央に所在する弥生時代後期を中心とする集落遺跡である。岡山市民病院の建設に伴う発掘調査で竜紋を施した器台など多量の土器が出土しており、当時の旭川河口に近い立地から港湾に関係する遺跡とも考えられている。本調査地点は平成6年の共同溝建設に伴う調査地点南調査区の西隣にあたる。平成6年の調査では、80㎡ほどの調査範囲ながら弥生時代後期～末の土壙墓、住居跡など多数の遺構を検出している。本調査地点においても、こうした状況が続いていることが予測された。

調査地点の位置（S＝1／5,000）

調査の概要　先述の予測から、事業予定地内のうち構造上、埋蔵文化財の現状保存が困難な地下タンク部分約150㎡を発掘調査の対象とすることで事業者側と合意した。

発掘調査では、表土掘削の際に、GL－1.4～1.6m付近までは近世以降の攪乱、城下町造成土と思われる土層、GL－1.5～1.8m以下は部分的に弥生後期～古墳時代の土器を多く含むものの、河道もしくは低湿地堆積とみられる明灰色砂層や灰色～黒色粘質土層であることがわかり、当初予想された集落跡等の状況は確認できなかった。以上の状況から、調査計画を地下タンクの2次掘削に際し立会調査を実施するものと変更し、地下タンク部分全体に同様の状況が続くことを確認するとともに、河道内に堆積した土器類の回収に努め、10月25日調査を終了した。

河道内の土器類は弥生後期末頃のものが大半を占め、調査範囲南側の一部ではより下層から弥生後期前半～中頃と見られる土器が出土している。これらは南側から流入したものとみられ、風化や摩滅もほとんどしていない状況であった。　（安川　満）

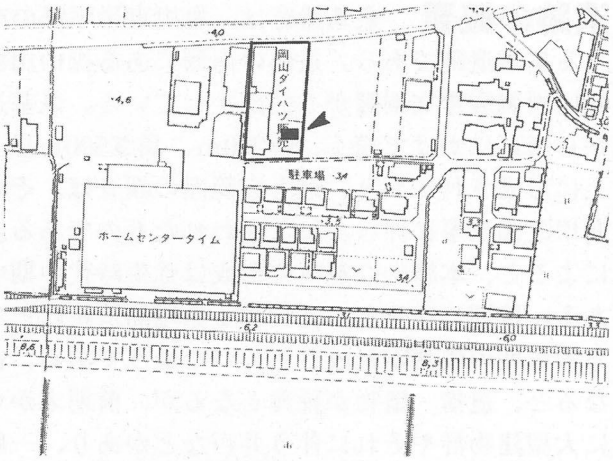


土層柱状図

兼基遺跡

所在地　岡山市兼基50番地ほか
調査原因　店舗建設（浄化槽）
時　代　弥生～古墳時代
調査期間　20050124
調査面積　約15.5㎡
担当者　安川　満

遺跡の概要　調査地点は百間川兼基遺跡の北側にあたり、周辺ではこの年報で報告している字四反地90ほか地点、字黒中52地点のほか、平成４年の店舗建設、平成９年のマンション建設に伴う調査などで弥生時代中期を中心とする集落跡や弥生時代末～古墳時代の水田跡などが確認されている。特に、字黒中52地点は本調査地点のすぐ西隣にあたっており、調査中の所見で東側に微高地基盤が高くなっていくことが予測されたため、本調査地点では集落遺跡により近い状況となっている可能性が高いものと思われた。



調査地点の位置（S＝1／5,000）

調査の概要　建設計画は建物部分は基礎が浅く、埋蔵文化財包蔵層への影響はないものと思われたので、確認調査等を実施することなく、浄化槽部分約15.5㎡を調査対象とした。

発掘調査では、地表下約1.4mまでは花崗岩風化土の造成土であり、その下、地表下2.0mまで現代耕作土及び洪水砂の堆積であった。地表下約2.0～2.6mの間は灰白色～明灰色粘土ないし粘土シルト層で、酸化鉄の沈着層が幾筋も観察でき、中世～近世の水田層と考えられる。これより下層は低湿地堆積層と見られる灰色～暗灰色の粘土シルト層となっており、土器の微細片が極まれに含まれるものの、器種や時期の判別し得るような破片はなく、遺構も確認できなかった。

なお、地表下2.7m以下は、浄化槽の掘削深度を超えるため、一部で土層を確認するに留めている。

（安川　満）

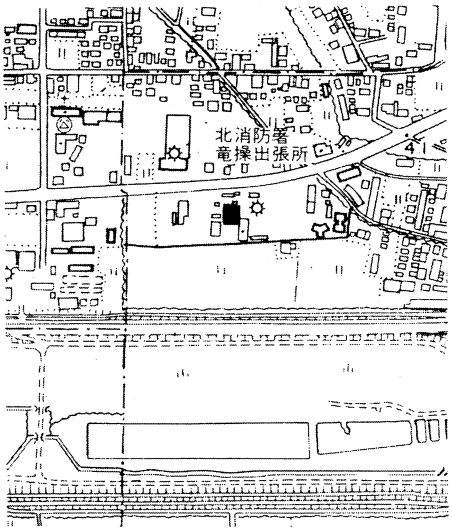
土層堆積状況

兼基遺跡

所在地　岡山市兼基黒中52　　**調査期間**　040712
調査原因　店舗の改修　　**調査面積**　634.30㎡
時　代　弥生時代　　**担当者**　安川　満　　草原孝典

遺跡の概要　兼基遺跡は、旭川東岸平野の南半に位置する集落遺跡である。遺跡の南側にある操山山塊からは、6区画袈裟襷文銅鐸が3個出土している。兼基遺跡は北西から南東にかけて続く、幅200m、長さ500m以上の微高地上に形成されており、最も広範囲の調査は、その南半で百間川改修工事に伴っておこなわれたものである。その知見によると、本格的な遺構の形成は弥生時代中期中葉からである。後期になると、近接する原尾島遺跡ほどではないが、ある程度の集落が形成されていたようである。古墳時代になると、遺構・遺物が稀薄となるが、前期末から中期初頭に大型建物群やそれに伴う井戸などがあり、一般集落とは少し意味の異なる遺跡であった可能性が高い。

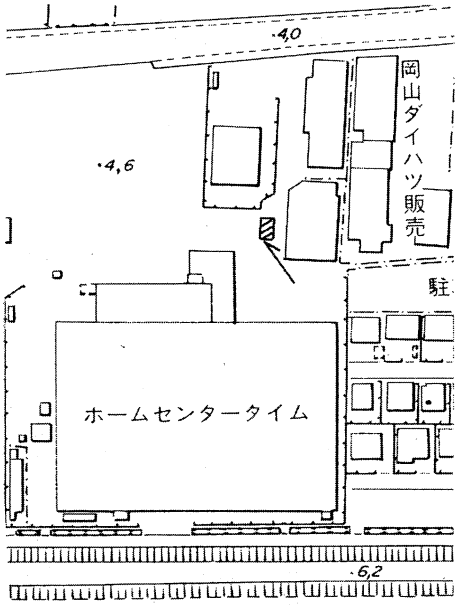
今回の調査地点は兼基遺跡の北半にあり、南半での様相が微高地全体とどのような関係にあるのかを検証する事例になるものといえる。調査は掘削が埋蔵文化財包含層に達する浄化槽部分について発掘調査を実施した。



第1図　調査位置図（S=1/10,000）

調査の概要　調査区の層序は現地表面から1.2mほど造成土がある。現水田層の下部には近世の時期と推測される洪水砂層（②層）、近世以前と推測される水田層（③層）があり、その下部に弥生時代の包含層が広がる。ただし、この包含層はやや粘質の強いグライ化した微高地基盤層の上に形成されたものであり、この地点が微高地端部に相当することを示唆している。そのため包含層も斜面堆積的な性格が強いものといえる。包含層に含まれる遺物は、数的には中期中葉に属するものが多いが、後期に属するものも認められることもそのことを示している。

溝2は調査区北半で検出され、幅0.6m、深さ3cmの小規模なもので微細な土器片が出土した。溝1は幅1.5m以上、深さは10cm以上である。この溝は調査区外の南側へも続くものであるが、基盤層の様相からもいわゆる微高地の端部に相当するかもしれない。埋土には土器がかなり含まれていたが、いずれも小片になっている。包含層と同じで中期が主体で若干後期が認められる。

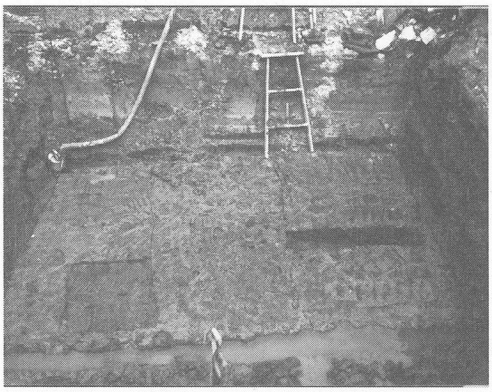


第2図　調査区位置図（S=1/2,500）

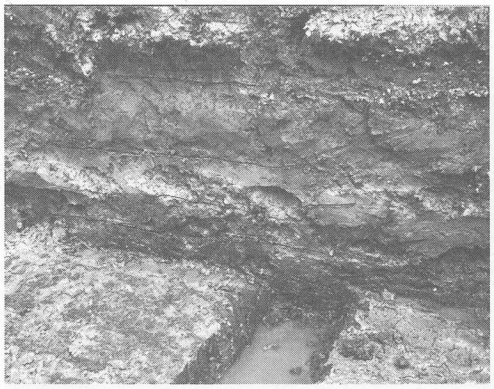
まとめ　明確な中期の遺構は検出できなかったが、出土

した遺物の量から考えると、付近に比較的大きな中期中葉の集落が形成されていることが推測される。さらに、後期の集落も存在しているといえる。これらのことは兼基遺跡南半の様相と合致しており、百間川改修に伴う調査の効果が兼基遺跡全体の様相を反映させていることを示唆しているといえる。

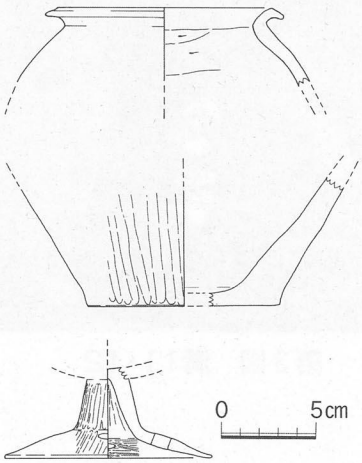
（安川　満）



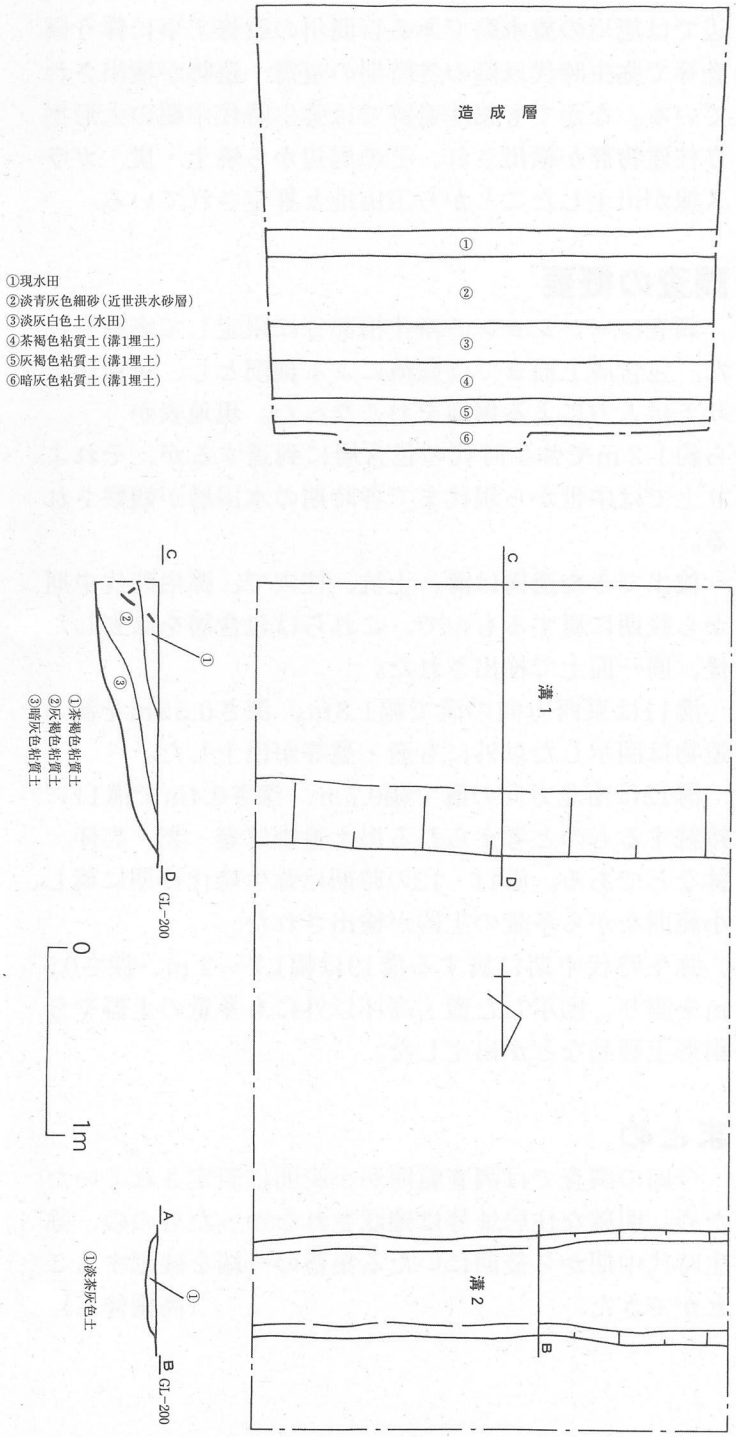
第３図　全景写真



第４図　断面写真



第６図　溝１出土遺物



第５図　遺構配置図

兼基遺跡

所在地　岡山市兼基字四反地90ほか
調査原因　マンション新築工事
時　代　弥生時代
調査期間　040413～040423
調査面積　85㎡
担当者　高橋伸二

遺跡の概要

兼基遺跡は旭川東岸の平野に位置する。調査地点周辺では旭川の放水路である百間川の改修工事に伴う調査等で弥生時代以降の各時期の遺構・遺物が検出されている。なかでも兼基遺跡では弥生時代中期の大形掘立柱建物群が検出され、その周辺から焼土・炭・ガラス塊が出土したことから工房址と推定されている。

調査の概要

調査はマンションの浄化槽部分に限定して実施された。包含層上面までは機械による掘削とし、包含層より下は人力による掘削をおこなった。現地表から約1.2ｍで弥生時代の包含層に到達するが、それより上では中世から現代まで各時期の水田層が観察される。

検出できた遺構は溝、土坑、柱穴で、弥生時代中期から後期に属するもので、これらは包含層を除去した後、同一面上で検出された。

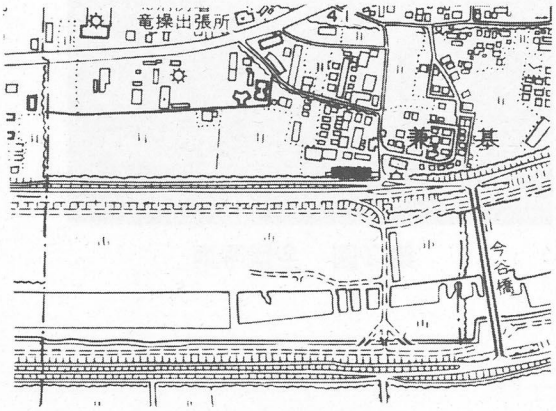
溝11は東西方向の溝で幅1.8ｍ、深さ0.55ｍを測る。遺物は図示した以外にも壺・甕等が出土した。

溝12は南北方向の溝で幅0.7ｍ、深さ0.4ｍで溝11に接続するものと考えられる出土遺物は壺・甕・高杯・鉢などである。溝11・12の時期は弥生時代後期に属し、小範囲ながら多量の土器が検出された。

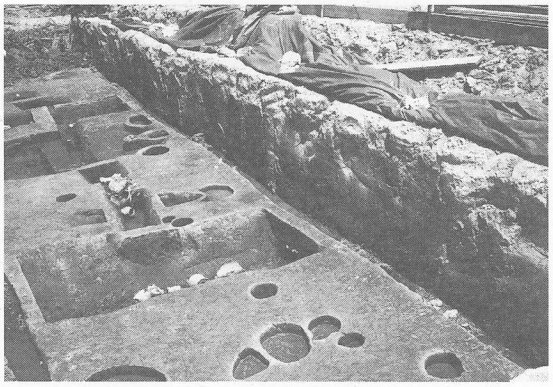
弥生時代中期に属する溝19は幅1.7～２ｍ、深さ0.5ｍを測り、図示した壺・高坏以外にも多量の土器や分銅形土製品などが出土した。

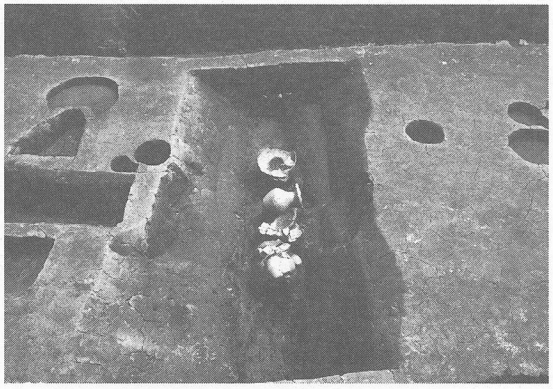
まとめ

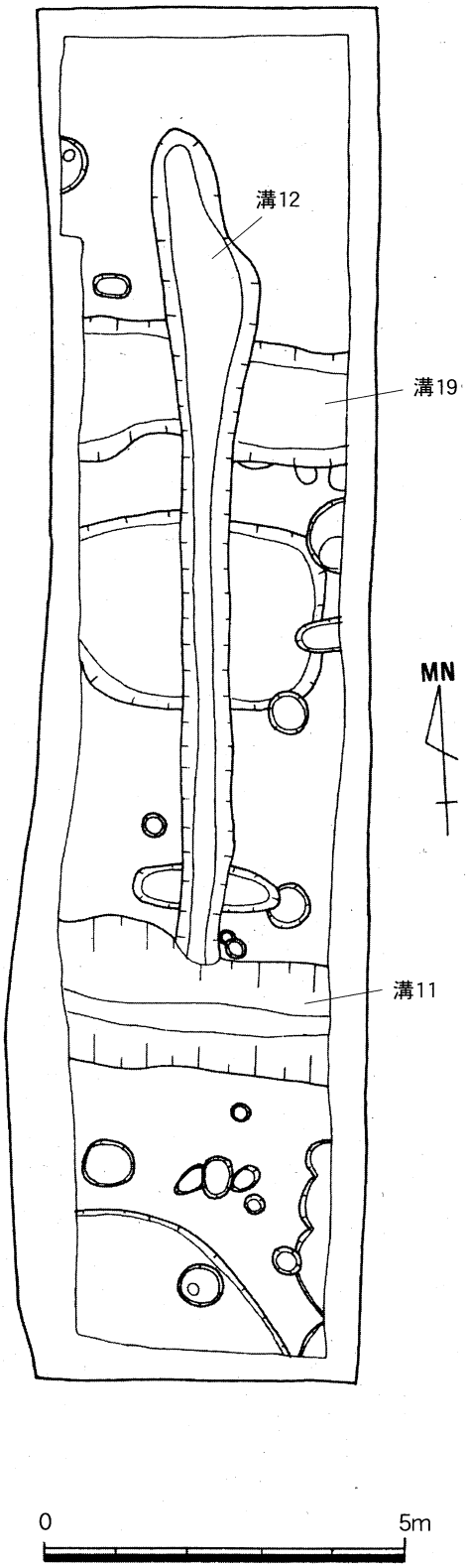
今回の調査では調査範囲が小範囲に限定されていたため、明確な住居址等は確認されなかったものの、弥生時代中期から後期にいたる集落の一端を確認することができた。　（高橋伸二）



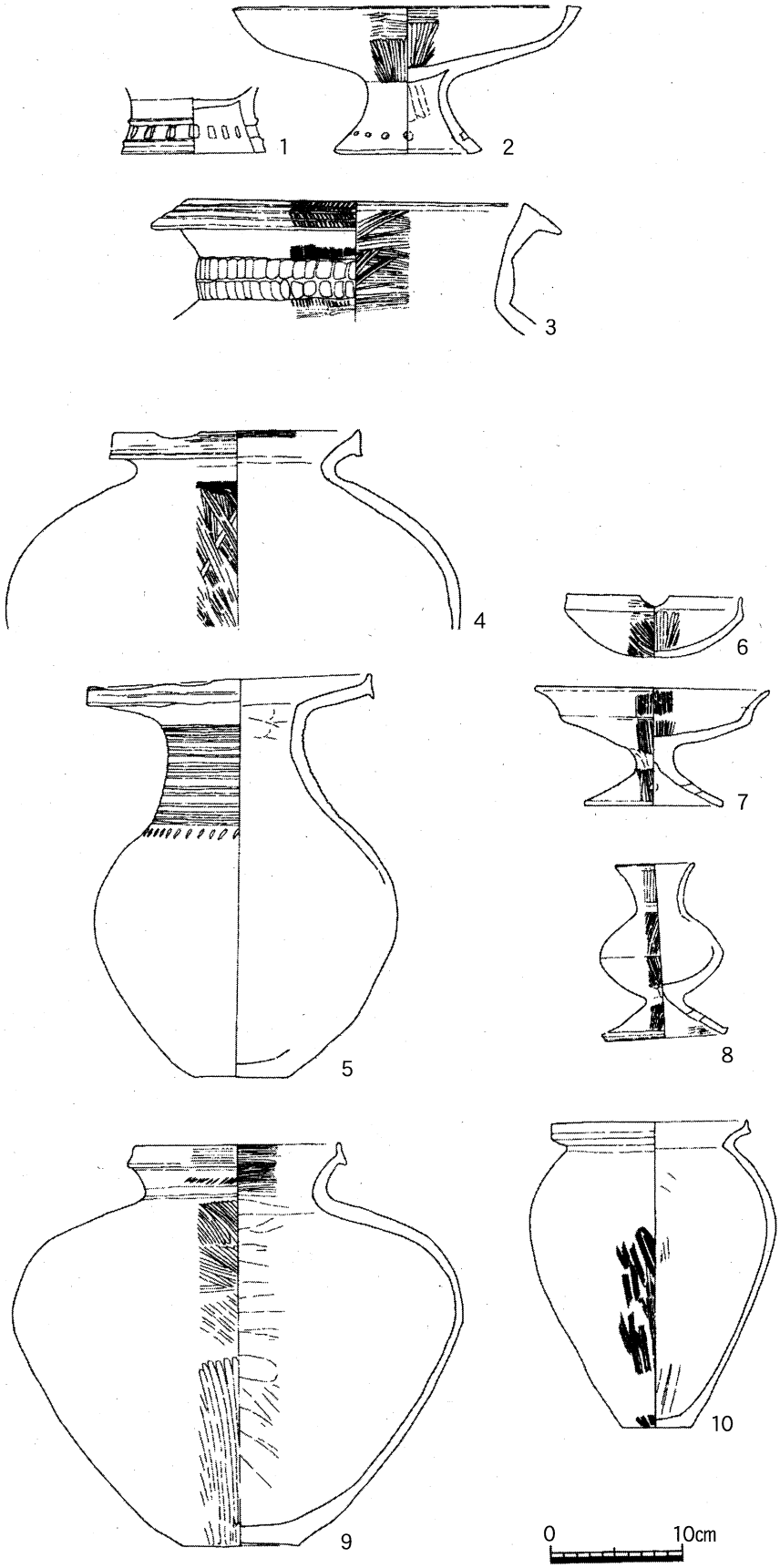
第１図　調査位置図


第２図　調査区全景


第３図　溝11・12



第４図　兼基遺跡調査区平面図



1～3 溝19
4・5 溝11
6～10 溝12

第５図　出土遺物

赤田西遺跡

所在地　岡山市赤田字シモク田　　**調査期間**　040601
調査原因　共同住宅の建設　　**調査面積**　30㎡
時　　代　弥生～古墳時代　　**担当者**　草原孝典

遺跡の概要　赤田西遺跡は、旭川東岸平野の中央付近に位置し、その東隣には白鳳期創建の古代寺院である幡多廃寺がある。幡多廃寺の直接的なバックグラウンドになる集落遺跡の可能性が高い。幡多廃寺の発掘調査では、下層から古墳時代や弥生時代の遺構や遺物が出土している。

岡山市赤田字シモク田で、２棟並立する共同住宅の建設が計画された。建物本体の基礎掘削深度は遺構面まで達しないが、それに伴う浄化槽２基については、全面発掘調査をおこなった。北側の棟に伴う浄化槽部分については北調査区、南側の棟に伴う浄化槽については南調査区と呼称する。

調査の概要

【北調査区】　湧水による壁面の崩落により、全体の２／３程度しか調査できなかった。検出された遺構は方形の平面形と推測される竪穴住居が１軒と、その東側で柱穴と推測される小ピットが１基のみである。南調査区と比較すると、微高地基盤層は砂質が強くなっており、脆弱な土質といえる。おそらく、南調査区と比較すると、微高地端部に位置するためと推測され、そのため遺構数も少ないのではないかと思われる。

竪穴住居１

竪穴住居１は、調査区の南西コーナー付近で検出された。一辺が２ｍ以上の方形の平面形を呈し、幅0.2～0.3ｍの壁帯溝が外周をめぐる。柱穴等は検出されなかったが、床面上で角礫が１点出土した。そのほか埋土中からは、須恵器の甕と土師器の小片が出土した。幡多廃寺の下層からは古式の須恵器がまとまって出土しており、該期に相当する集落が存在する可能性が高いが、竪穴住居１から出土した須恵器の小片には、それ程古い特徴は認められない。古墳時代後期の範疇に入る可能性が高いように思われる。

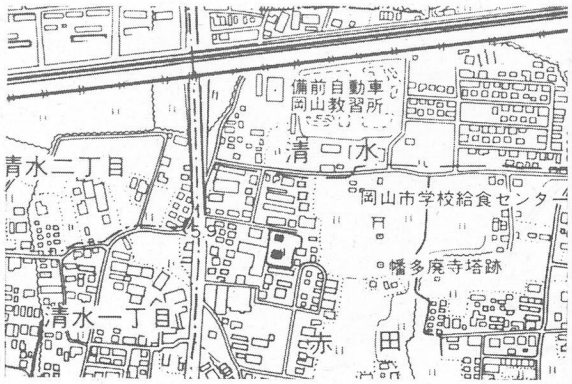
【南調査区】　基本層序は現水田の直下に中世～近世の耕作土と考えられる淡灰色細砂層（③層）があり、その下は厚さが50㎝にも及ぶ、包含層が認められる。包含層は調査区の範囲のなかで、西端付近からややレベルが上がってきており、より安定した微高地部分が調査区の西側に存在している可能性を示唆している。そういった意味で、調査区を南北に横切る溝１は、微高地上の傾斜変換点に位置する可能性が推測される。わずかな範囲の調査であるため、明確でないことではあるが、現況では溝１の流路方向は南から北のようで、これは北調査区が微高地端部により近いと推測したことと矛盾しない。

Ｐ１（第８図）

調査区西端で検出された土壙で、径0.7ｍの円形の平面形を呈する。深さは検出面から0.3ｍで、断面形は逆台形、もしくはＵ字形である。埋土は３層ある。中間層である②層は炭層である。焼土面等が確認されなかったことから、ここで火を焚いた結果、形成された炭層ではないようである。遺物は③層からのみ出土した。図化できたものは一点（第6図−1）だけで、弥生時代後期後半の時期である。

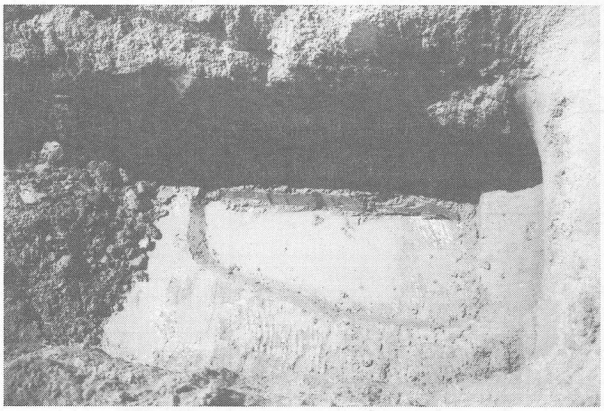
その他のピット

Ｐ１のほかに７基ほどピットが検出された。そのうち２基は径0.3ｍほどの規模で、おそらく柱穴と考えられるが、ほかは径0.5ｍを越えるもので、断面形からも土壙と考えられる。土壙は検出面からの深さは0.2～0.3ｍほどで、埋土に炭を含むものはなかったが、形状はＰ１と似ている。時期は出

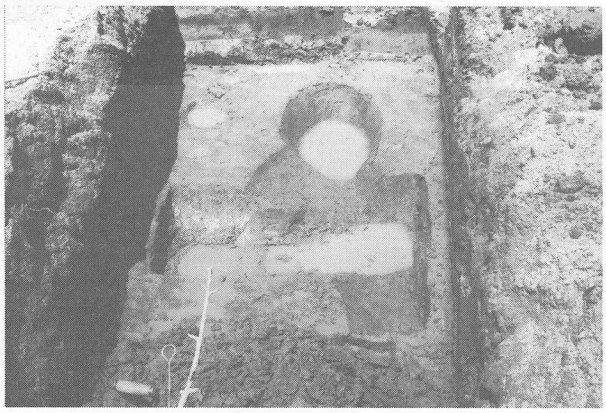


第１図　調査位置図

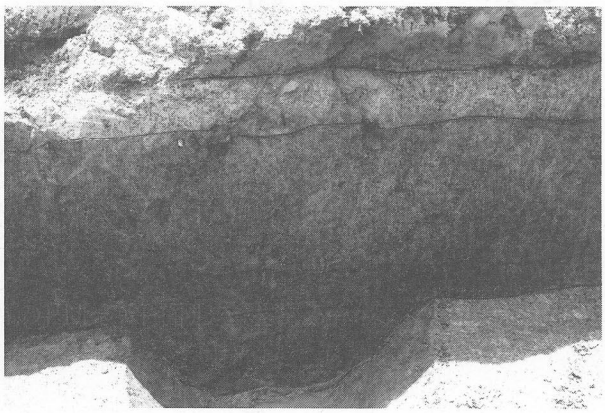
第２図　調査区位置図



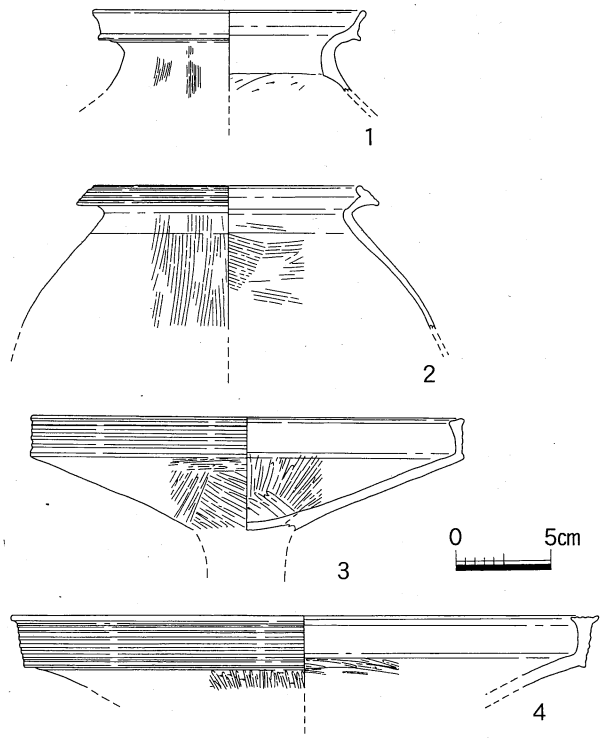
第３図　北調査区



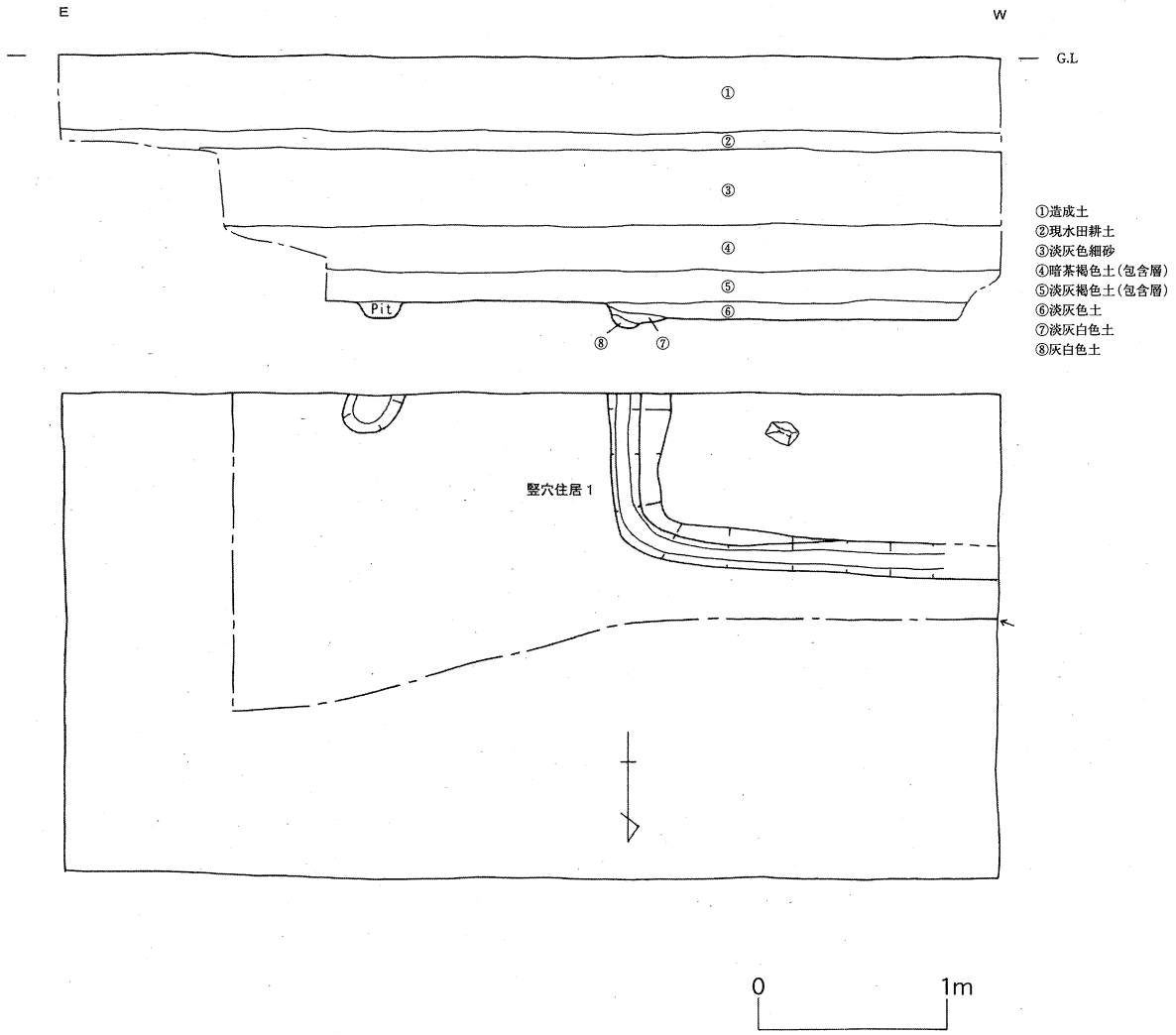
第４図　南調査区



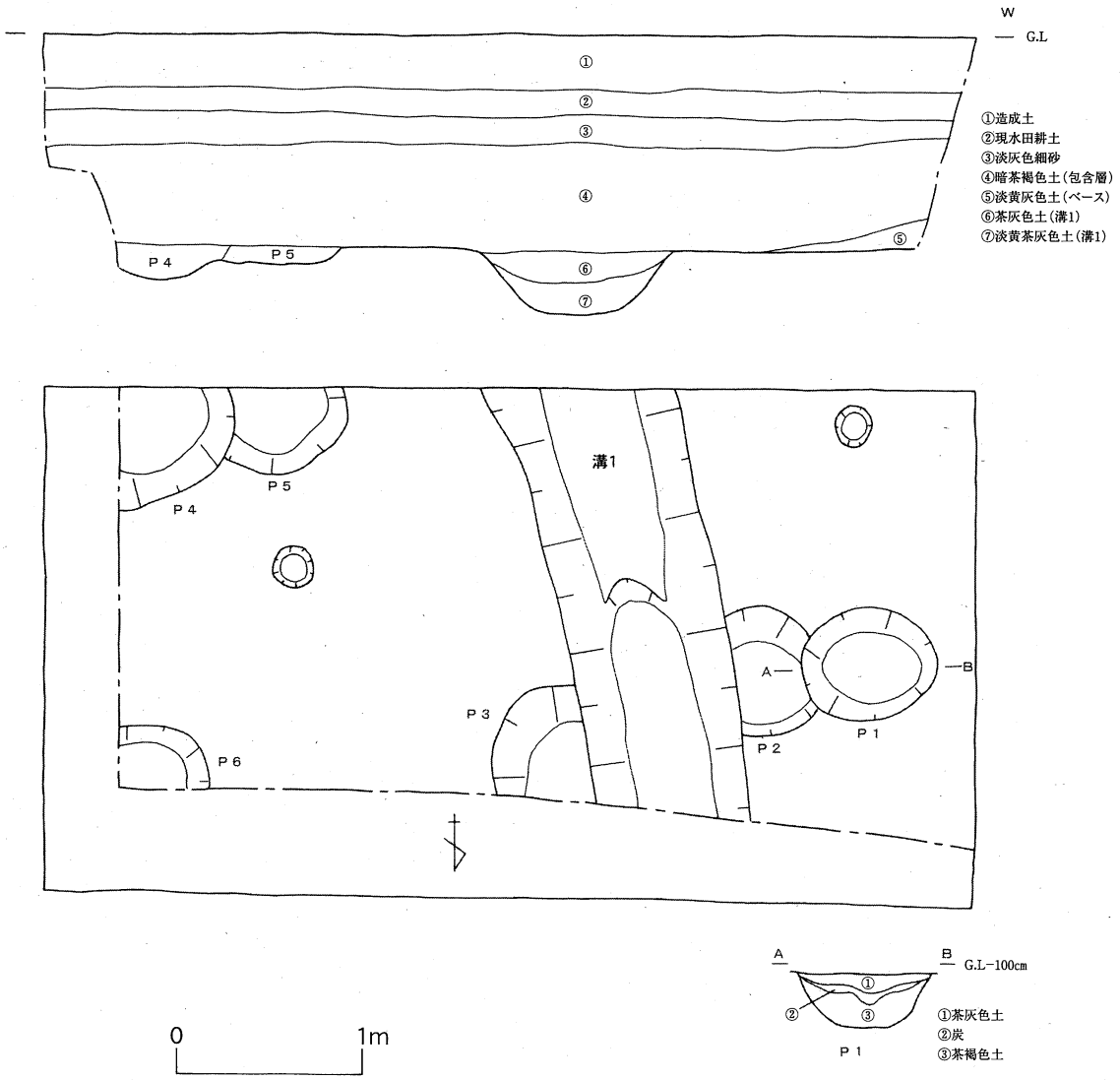
第５図　南調査区南壁



第6図　出土遺物



第7図　北調査区遺構配置図



第8図　南調査区遺構配置図

土した遺物からＰ１と同じといえる。

溝１

調査区中央付近を南北に横切る溝で、幅0.9ｍ前後、深さは検出面から0.3ｍである。断面形は逆台形で、埋土は２層である。遺物は上層（⑥層）でまとまって出土したが、それらは南壁に近い部分に限られており、溝全体に同じ様な状況で土器が埋没している可能性は少ないと思われる。まとまって出土した土器は高杯の杯部と甕の比較的大きな破片であった（第６図－２・３・４）。かつての調査では、高杯の杯部を蓋にした甕棺が出土しており、溝１はそういった遺構を掘削したためにそれらの遺物が含まれたのではないかということも推側されたが、他の時期の遺物が認められないこともあり、弥生時代中期末の遺構で、同期の遺物が埋没していたと考えるのが妥当のようである。

まとめ　包含層から出土する土器は、基本的には弥生時代中期末と同後期後半の時期で、該期の集落が主体的であることがうかがわれる。一方、幡多廃寺に関係する遺物や遺構は全く検出されなかった。微高地の地形は北側に向かって下がっており、西側については、より高位部が続くようである。

極めて小面積の調査ではあったが、当地における遺跡の概要と、微地形の様子を解析するための手掛りが得られたといえる。

（草原孝典）

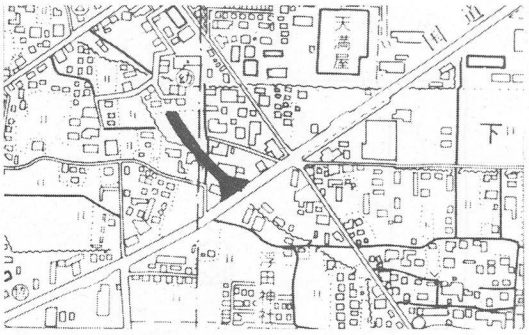
東岡山遺跡

所在地　岡山市下248－1
調査原因　市道建設
時　代　弥生～江戸時代
調査期間　040921～050128
調査面積　1500㎡
担当者　草原孝典

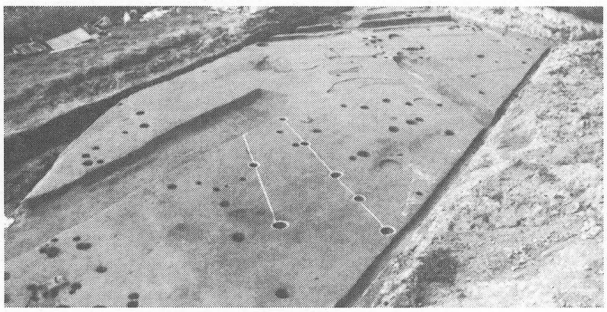
遺跡の概要　東岡山遺跡は、旭川東岸平野の東端に位置する。付近には弥生時代後期の遺構が広汎に認められる雄町遺跡や、弥生時代中期の遺構や遺物が認められる乙多見遺跡などがある。さらに、北側の丘陵上には、古墳時代前期の中規模墳である宍甘山王山古墳もある。東岡山遺跡については発掘調査がおこなわれたこともなく、かつて土器片が採集されたことと、微地形的な観点から遺跡の範囲が把握されていただけであった。今回の調査は市道建設に起因するもので、結果として東岡山遺跡の東端付近に南北方向のトレンチを設定したものといえる。

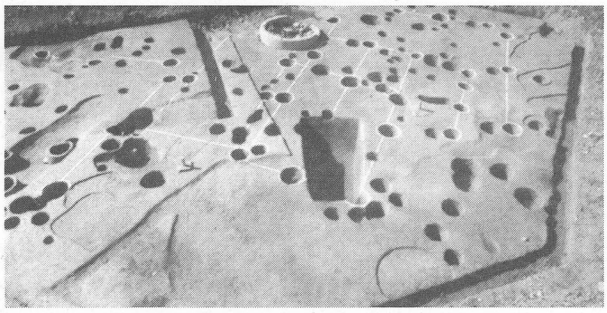
調査の概要　調査区は用水路や道路の影響により、北からⅠ・Ⅱ・Ⅲの３区に分けておこなった。まず、Ⅰ区は古代末から中世にかけて形成された比較的新しい微高地で、それ以前は湿地であった。13世紀の遺構もわずかながら認められるが、本格的な遺構の形成は15世紀からで、それは幅約５ｍの水路の掘削を伴っていた。この水路は現在でも調査区の縁辺を流れている山手川用水である。17世紀前半には現在の位置に水路が移動し、それとともに集落も形成されなくなる。

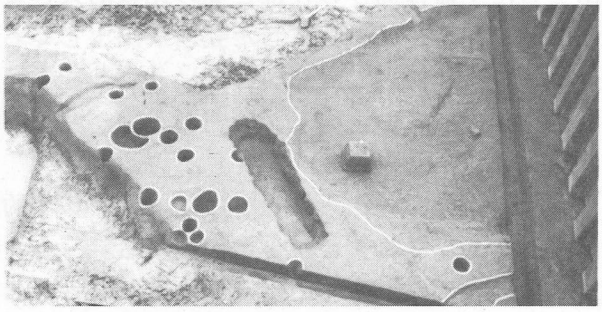
Ⅱ区は強固な微高地基盤に相当し、弥生時代前期前半の遺構も認められる。ただし、弥生時代の遺構は中期以降は認められない。中期には乙多見遺跡へ集落が移動したことも想像させられる。古墳時代前期には竪穴住居が認められ、同中・後期の溝等も認められるが、遺構・遺物の量や密度が急激に増加するのは15世紀以降である。15世紀の集落はⅡ区の西側で、その裾部を検出しただけで、集落端部を流れる溝が調査区の大半であった。溝からは備前焼・土師器・中国陶磁器などが多量に出土した。17世紀前半になると、溝を埋めてその上にも柱穴や墓が形成される。Ⅰ区で検出された用水路の延長部分がⅡ区でも検出されているが、

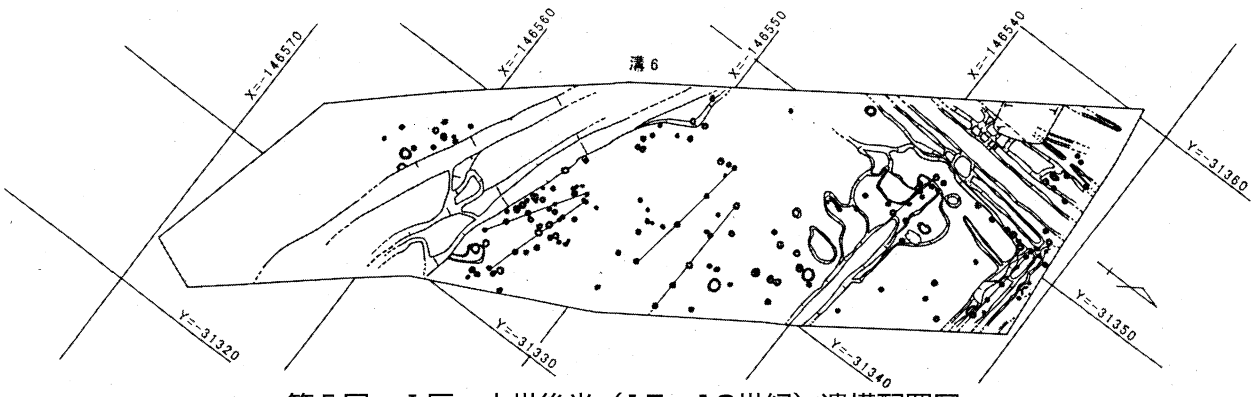


第１図　調査位置図

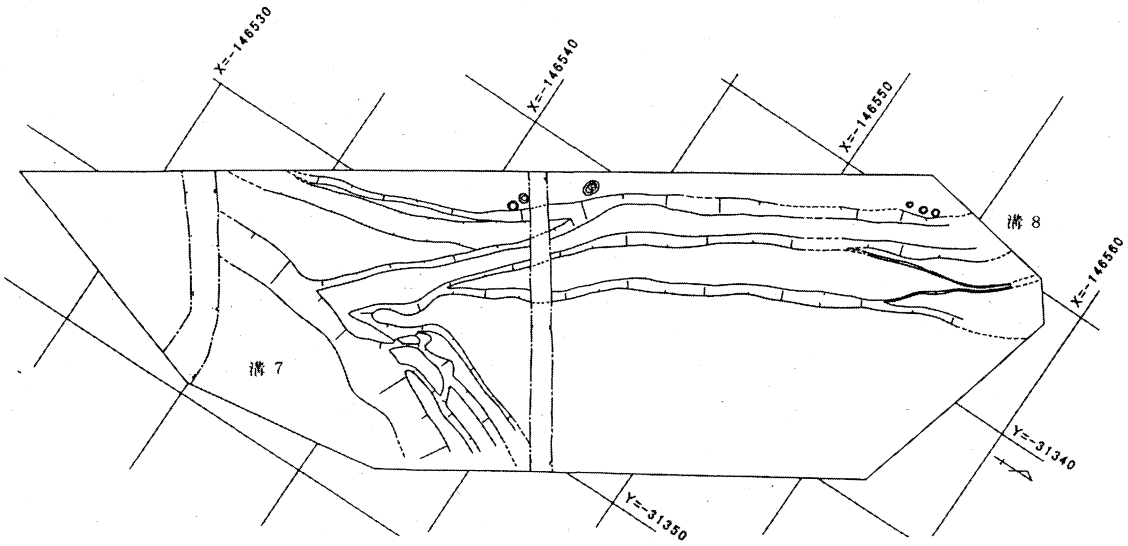

第２図　Ⅰ区15・16世紀


第３図　Ⅱ区15・16世紀

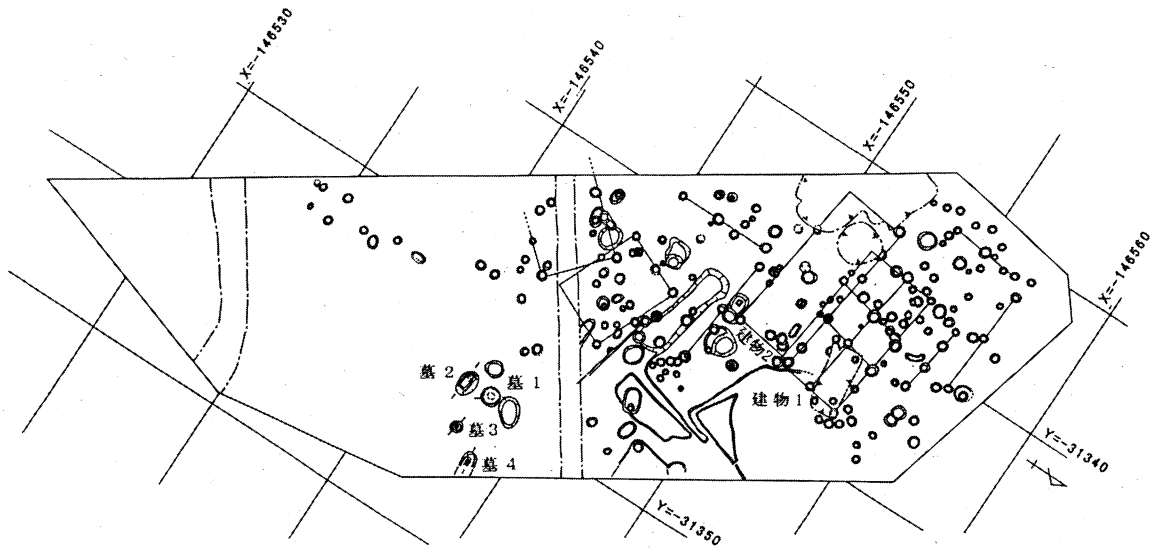

第４図　Ⅱ区17世紀



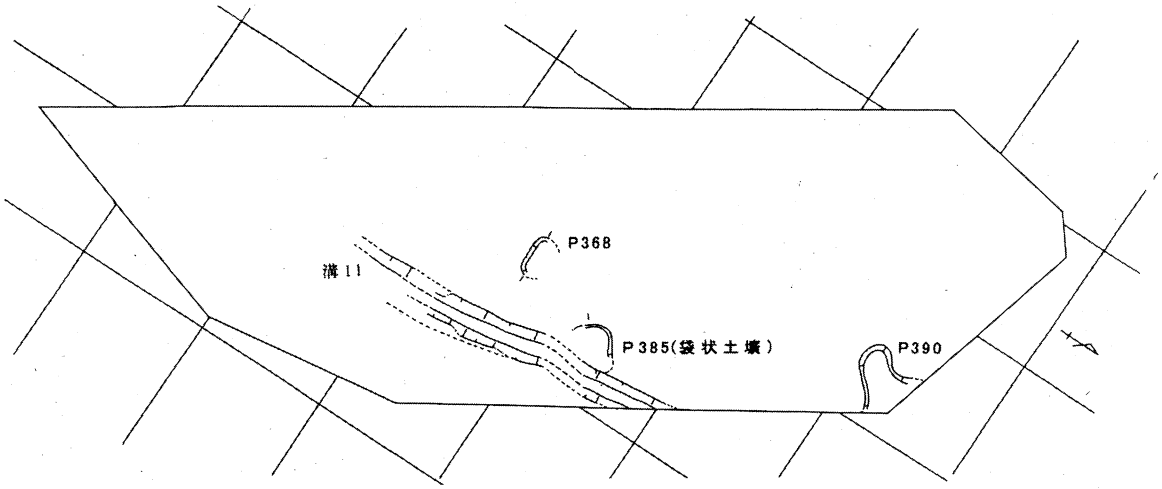
第５図　Ⅰ区　中世後半（15～16世紀）遺構配置図



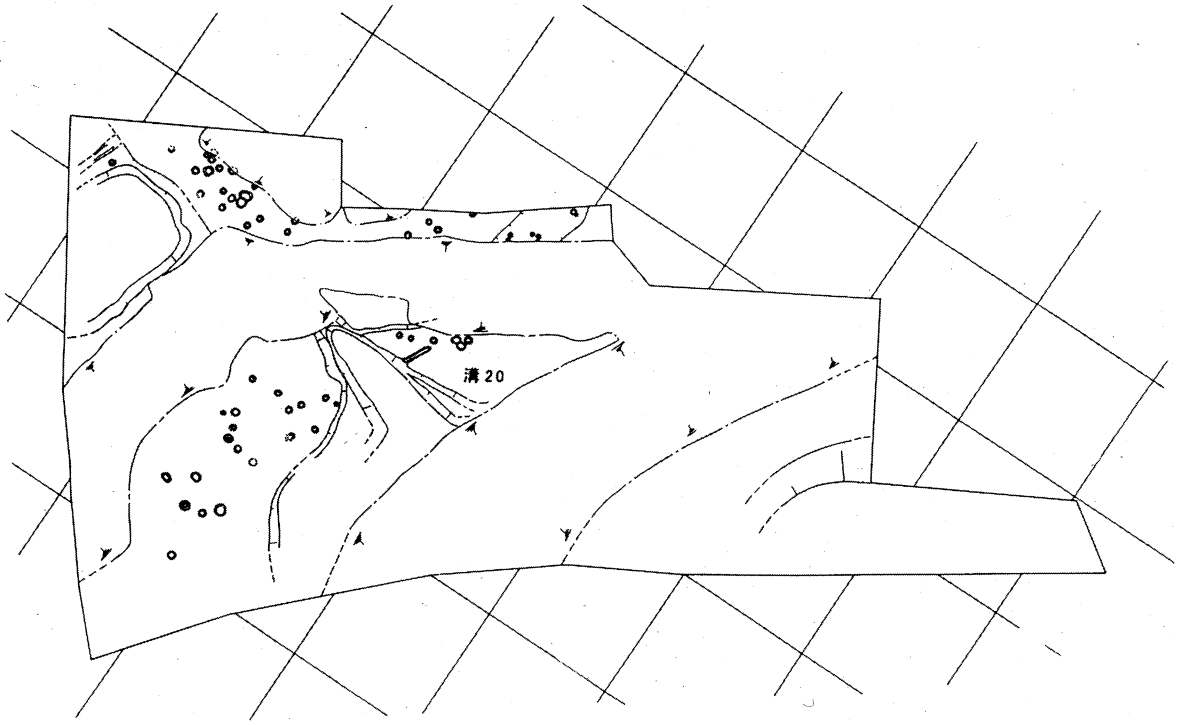
第６図　Ⅱ区　中世後半（15～16世紀）遺構配置図



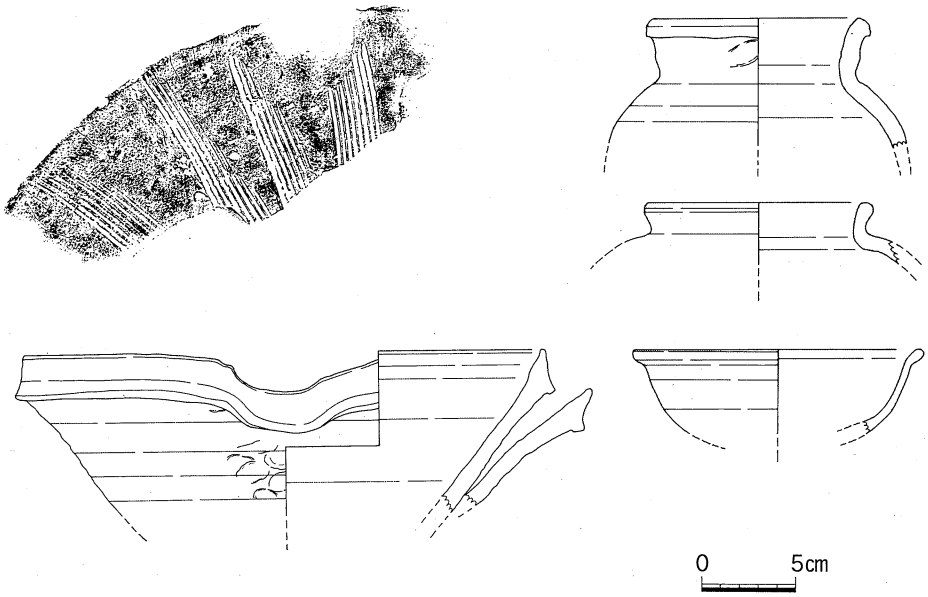
第７図　Ⅱ区　近世初頭（17世紀前半）遺構配置図



第8図　Ⅱ区　弥生時代前期遺構配置図



第9図　Ⅲ区　中世後半（15・16世紀）遺構配置図



第10図　Ⅰ区溝出土遺物

その部分を埋め立てた地点は甕棺・木棺・骨蔵器・土壙墓などがまとまる墓域となっており、その北側には掘立柱建物が認められることから、屋敷墓の可能性も考えられる。特筆されるのは、備前焼大甕を用いた甕棺で、掘り方周囲には初期伊万里焼大皿を割って差し込んでいた。この集落の性格を考える上で興味深い点である。いずれにせよ、この集落が現在まで踏襲されていると言える。

Ⅲ区はⅡ区の微高地の南端に相当するが既存の水路によって寸断されており、調査できたのは全体の2／3ほどの範囲であった。Ⅱ区と内容的には共通する部分が多いが、17世紀前半の遺構はほとんどなく、該期においてⅡ区付近への集村化がおこなわれたことを示唆している。このほか、古墳時代前期後半の井戸が3基認められ、いずれも微妙な時期差があることから、小規模ながらも安定的な集落が形成されていたことをうかがわせる。前期前半は南北方向の溝が数条検出されており、微高地端部から広がる水田への給水を目的とした用水路と考えられる。前期後半の井戸はこの溝を削平しており、該期において水田域に変更が生じたか、もしくは集落域が拡大された可能性があるように思われる。弥生時代前期の遺構は調査区の南西コーナー付近に土壙が1基検出されただけで、出土した遺物も極めて少なかった。

まとめ　今回の調査によって、調査例の少ない中世後半から近世初期の集落の動向を明らかにできたのは大きな成果であった。15世紀における大規模開発と新たな集落の形成がおこなわれた背景を明らかにすることは、今後の遺物整理をおこなう上で大きな課題といえる。文献的には中世から近世にかけては、農村における重層的な土地の所有関係が太閤検地によって統一され、17世紀前半に至ると郷・庄などの農村の基本的な単位は領主における農民支配の単位である村に再編されたといわれる。今回の調査における集落の動向は、この時期の集落の激動の歴史の一端を示していると考えられる。また断片的ではあるが、弥生時代前期の遺構や遺物が検出され、しかも前半に遡るものがあることは、隣接して中期の比較的大きな集落と考えられる乙多見遺跡があるだけに、旭川西岸平野の津島遺跡と南方遺跡の関係と対比できる可能性も考えられる。　（草原孝典）

Ⅲ-1　大廻小廻山城跡の史跡指定の経緯

岡山市教育委員会文化財課　出宮徳尚

大廻小廻山城跡は、岡山市草ヶ部に所在し、西日本に展開している古代山城の一つであるが、存在が注目され出したのは昭和44年頃からで、昭和46年に所在地が旧上道町から岡山市に合併された後、岡山市教育委員会が昭和48年に踏査を実施して外周土塁総延長約3.5kmの城郭全域を確認し、古代山城遺跡の存在が明らかとなった。城跡は、北側から西側にかけては土塁の天端（肩部分）が瀬戸町との境界となっており、岡山市と瀬戸町にまたがって存在する状態となっている。

① 大廻小廻山城跡の城内（岡山市草ヶ部字小廻り）部分は、戦後までは国有林であったものが、昭和20年代前半の農地拡大の施策によって開拓地（一部が農地となる）となった。

② 昭和45年頃（旧上道町時）に開拓地一帯をゴルフ場に開発する計画が持ち込まれ、地権者（農業従事者）の多くがそれに応じる情勢であったが、全員の賛成の得られるまでには至っていなく、この状態で岡山市に合併となった。

③ 岡山市教育委員会（文化課・以下同じ）は、ゴルフ場開発計画の進展にともない昭和48年に城跡一帯の遺跡確認の踏査を行い、城跡全体を確認した後に、開発当事者との遺跡保存の協議に取り組む。

④ その後、ゴルフ場開発計画は、開拓地の地権者全員の賛同の得られないことや、当該地が農地法の適用と県の灌漑水利受益地であること、さらに岡山県がゴルフ場開発の規制の施策を採ったこと、遺跡保存など諸要素の条件整備の図れないままに、立ち消えとなった。

⑤ 昭和50年代の中頃から、農業生産を取り巻く情勢の変化と開拓入植世代の世代交代、ゴルフ場開発計画への対応の後遺症などから、農地と山林の転売や離農が五月雨的に進行し、昭和58年には土地を購入した地元企業から開発についての打診を岡山市教育委員会が受ける状況となった。

⑥ 岡山市教育委員会は、こうした状況を受けてこの城跡の実態を明らかにして保護保存を図るため、昭和59～63年度に国庫補助事業により、城跡の一部の発掘調査を実施し、この城跡が古代山城の一種である「神籠石系（こうごいしけい）山城」の城郭構造に一致することを明らかにした。

⑦ 西日本に展開していて遺構の明確な古代山城跡は、大多数が国指定史跡となっている状況に鑑みて、大廻小廻山城跡の国指定史跡への指定が行政・歴史研究者ともに思慮する情勢となった。

⑧ 平成元年１月の最後となった発掘調査対策委員会において、史跡指定についても検討がなされ、指定域ついて

Ａ：城内と外周遺構を含む城外の地番を全て指定対象域とする。

Ｂ：城内と外周遺構を含む城外の地番の遺構から一定の幅（20～50m）までを指定対象域とする。

Ｃ：城内だけの岡山市域分（字小廻り部分）だけとする。

の三案が提議された。

この席上で、Ａ・Ｂの案では２市町にまたがるため、県教育委員会と岡山市・瀬戸町の教育委員会による指定の協議連絡会の必要性も提議された（対策委員会に県教育委員会文化課文化財保護係担当者は出席していた）。

⑨ 岡山市教育委員会は、平成元年12月に発掘調査の成果の報告を文化庁文化財保護部記念物課に赴いて行い、上記の史跡指定三案についても生の資料を添えて検討を要請した。

⑩ その後、文化庁からの史跡指定に向けての具体的な行政指導や指示が、岡山市教育委員会や岡山県教育委員会になされないままの状態が続く。

⑪ 岡山市教育委員会は、大廻小廻山城跡の史跡指定の取り組みについて文化庁（記念物課）に赴いた節には担当の調査官に要請を行っている。

⑫　平成７年１月に文化庁記念物課の史跡の担当の調査官の現地視察を受けるも、指定についての具体的な指導指示は得られなかった。その後の１～２年に至って文化庁記念物課の関係の調査官が岡山出張の折りに大廻小廻山城跡の視察を行い、現況や対応状態を尋ねる状況になった。また、県教育委員会文化課からも指定に関する資料の提供を要請されるようになる。

［この間の遺跡の現状変更にかかる動静］

ⅰ　昭和50年代の中頃から城跡の東に隣接する谷間に産業廃棄物が投棄されるようになり、産廃捨場となった。→大廻小廻山山塊の一部に本格的な産廃が持ち込まれた。

ⅱ　昭和60年頃から開拓農地の入植者（地権者）の一部に、所有山林を私的にゴミ捨て場とするようになる。→産業廃棄物・開発・遺跡保護の各面から規制できる状態にまでは至っていなかった。

ⅲ　発掘調査の終了した平成元年度以降に開拓農地の地権者（農業従事者）の一部が、農地の基盤改良と称して谷間を産業廃棄物や残土で埋め立て、大幅な地形変更をきたすようになったが、遺跡保護の要請に対して、文化財保護法施行以前からの農地の既持権行使として続行し、辛うじて遺構の一部の保存に考慮を示した。→現在農地として使用中。

ⅳ　平成５年頃までに開拓農地の地権者（農業従事者）の世代交代等に伴う離農により土地が転売さていき、建設業関係の新所有者による残土処分やゴミ投棄が五月雨的に進行していった。

ⅴ　平成８年に産業廃棄物処理関連業者の所有地となっていた城内の一部の土地に、開発行為（土砂採取）に伴う届けが出されたことにより、岡山市教育委員会文化課への合議がなされた。→文化課は、文化財保護法の規定する発掘届の提出と遺跡保護の観点に立った開発行為を要請し、こうした観点に沿った開発行為の発掘届の内容となるように行政指導を行っている

※こうした発掘届の提出に対しては、受理者の岡山県教育委員会から届出者に注意施工の通知が出されて、施工されているのが実情である。

ⅵ　平成９年末か10年の初めに城内の産業廃棄物処理関連業者の所有地で廃棄物等の流失が生じ、山麓の地域住民から城内のゴミ捨て場や廃棄場を危惧する観点が出されるようになり、城跡の保存と史跡指定の課題をも絡めて、問題提起されるに至った。

⑬　平成11年１月20日に文化庁記念物課岸本技官が現地調査に訪れ、史跡指定に向けて埋蔵文化財班として対応するとの方向性を示す。→２月中旬に県文化課長から市文化課長に指定はＡ案で行うので、取り組みをするようにとの指示があった（電話）。

⑭　６月４日に文化庁記念物課磯村調査官が現地調査に訪れ、Ａ案で史跡指定を行うので、取り組みをするようにとの指導があった。

⑮　⑭の指導に基づいて県文化課・市文化課・瀬戸町教委の三者で指定への取り組みの協議会を設ける。→対象地の選定と地籍及び土地状況等の調査並びに問題点の提起。

⑯　平成13年６月に磯村調査官が岡山市を訪れ、県文化課・市文化課・瀬戸町教委に指定手続きに向けての具体的作業の実施の指示をおこなう。

⑰　平成14年７月に磯村調査官が岡山市長と瀬戸町長を訪れ、Ａ案での史跡指定の方針を伝え、了解を得る。→地元小廻町内会との説明・意見交換・協議調整を重ねるとともに、地元中学校区単位での城跡説明の講演会を開催。

⑱　平成15年度からは小廻町内会と指定承諾の具体的調整を行うとともに、城跡の土地所有企業との指定承諾の要請折衝を行い、10月には指定対象地全地権者に史跡指定の連絡を行い、11月には小廻町内会を除く地元町内会での史跡指定の説明会を開催。年末に小廻町内会全員の指定同意を得る。

⑲　平成16年１月に指定対象地全地権者に指定承諾を依頼。

⑳　平成16年７月に岡山市長と瀬戸町長が史跡指定申請を行う。

市＝570,082.36㎡・178筆・地権者78名（城内に7,596㎡11筆７名の非指定地あり）

町＝189,886.77㎡・59筆・地権者33名（城壁接続地に20,890㎡５筆１名の非指定地あり）

計＝759,969.17㎡・237筆・地権者111名

㉑　平成16年11月に国の文化審議会長が史跡指定の答申を行う。

㉒　平成17年３月２日に史跡指定となる。

【 史跡の概要 】

(1)　名　　称　　大廻小廻山城跡（おおめぐりこめぐりさんじょうあと）

(2)　指定年月日　　平成17年３月２日

(3)　所　在　地　　岡山市草ヶ部
岡山県赤磐郡瀬戸町観音寺　同笹岡

(4)　指定面積　　岡山市域570,082.36㎡／178筆　　瀬戸町域189,886.77㎡／59筆
全体759，969．13㎡／237筆

(5)　指定理由　　西日本で確認されている22箇所の古代山城跡の一つで、東アジア情勢が緊迫の度を増した７世紀頃に築造されたと推定されており、発掘調査の結果、列石や版築を含む城壁構造や谷部に築かれた水門を伴う石塁等の遺構が確認された。これら古代山城跡の遺構の存在が判明したことは、当山城跡が古代山城の研究に不可欠のものであるとともに、日本古代の歴史を考える上で重要である。

(6)　遺跡の概要　　岡山市の北東部で瀬戸町と境界を接する標高約200ｍの大廻山小廻山に所在する古代山城跡で、城跡は、土塁築成の城壁が3.2㎞にわたり山頂部から谷部まで取り囲み一周しており、３箇所の谷部には水門を伴う石塁が所在する。
また、城壁の外側下端部には神籠石状列石が伴っていることも確認されている。

[今後の取り組み]

◎岡山市事業主体者

・国庫補助事業での指定地公有化事業の施行（国80%　県6.6%　市13.4%）

・国庫補助事業での城郭遺構確認の発掘調査事業の実施（国50%　県16.6%　市33.4%）

・国庫補助事業での史跡環境整備事業の実施（国50%　県16.6%　市33.4%）

Ⅲ-2　大廻小廻山城跡の概要

岡山市デジタルミュージアム　乗岡　実

この遺跡は岡山市北東部の岡山市草ヶ部から赤磐郡瀬戸町宿億、観音寺、笹岡にかけて所在する古代山城跡である。古代の備前地区の三大中枢である、砂川中流の盆地を北に、旭川東岸の平野を南西に、吉井川東岸の平野を南東に控えた要の位置に立地する。日本書紀などの官撰史書には記載がなく、神籠石系古代山城に分類される。

昭和59年度から昭和63年度にかけて城壁に沿った6地区、延1210㎡に及ぶ岡山市教育委員会が発掘調査を実施した。

城跡のある丘陵は上部がなだらかで、最高峰は標高199mの小廻山である。また、小廻山の北約300mにはほぼ同高の大廻山がある。城壁はこうした丘陵の上部を一周3.2㎞にわたって取り込み、城内面積は38.6haに及ぶ。城壁は原則が土塁であるが、城壁線が谷渡りする3ヶ所では石塁に置き換わる。

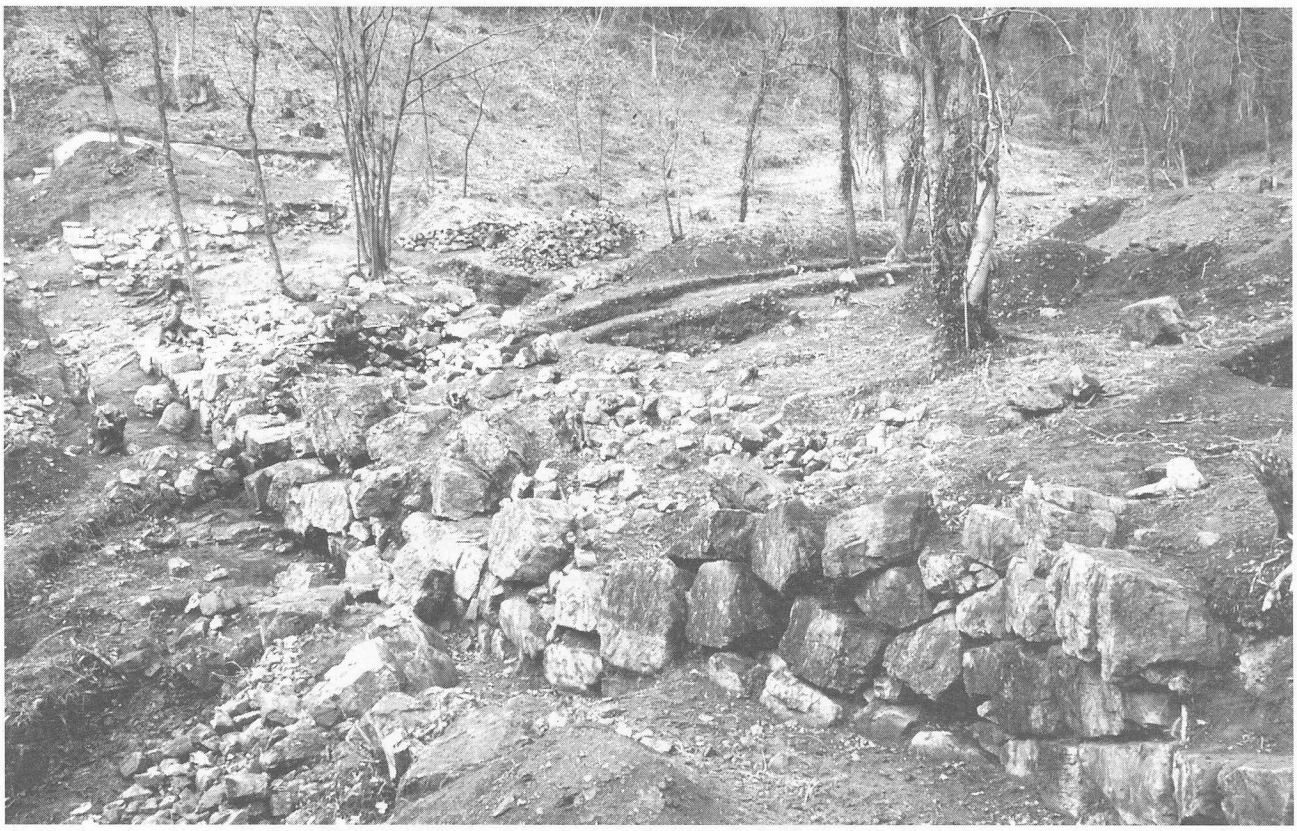
一般部の城壁は、城外側のみに壁を持つ土段形で、版築盛土による下段に対して、その斜面上方に地山削り出しの上段を伴ってたいてい二段造りになっている。

下段城壁の高さは現状で1.5～3.0mで、裾部には地山で採れる砂質ホルンフェルスや花崗斑岩を緻密に組み立てた列石を必ず伴っている。石材は長辺数10cm、厚さ20～30cmの長方体で、これを一段一列に寝かせ置く。特に列石の上角は丁寧に揃えられ、あたかも水糸を張って石材を配していった如く直線で延び、また一定の角度の折れ部をもつ。こうした列石は城壁の裾部にあるとはいえ、版築層に覆い隠され、壁面には露出していなかった事が明らかである。こうした列石は、版築盛土の土木的基礎や防湿を成すものであり、また背後の城壁の構築時の基準線となるものであった。したがって、版築による城壁線自体も、直線と折れを持って丘陵を伸展することになる。城壁裾の列石は神籠石系古代山城に特有なものであるが、切石使用で曲線で伸展する有明湾沿岸のものとは最も対照的で、版築時の堰板を支えるためのものとされる列石前面の柱穴列も確認されなかった。版築による城壁の上方は武者走り状の平坦地となっているが、版築盛土上を雨水が伝わないように城壁に平行に延びる溝が掘られている。地山削り出しによる上段を含めて、人為的な造作の及ぶ範囲を基準に考えると、城壁幅は12～25mある。

一の木戸の石塁は、城跡の中央から西に抜ける最大の谷を城壁が渡る位置にある。城外向きの石垣は長さ24.0mで南端付近に折部を持つ。この石垣の両端は版築盛土中に埋め込まれた列石に続くが、石材は列石より遥かに大きく、長辺が1mを越えるものもある。最大で4段、高さ2.4mが残るが、元は上に土塁が乗っていたとみられ、城壁としての復元高は5mに達する。城外向きの石垣と平行して城内側を向く石垣が構築され、石塁幅の6.2mを画している。両石垣の間にはグリ石が充填され、また石塁の基底には、石塁の軸線とは斜交しつつも谷筋に沿って、内法0.7m四方ほどのトンネル式の通水口が貫いている。こうした石塁の構造は、谷水を貯えるダムではなく、谷部に堅固な城壁を設けつつ谷水を円滑に城外に排水する仕組みである。

一の木戸の南西にある二の木戸の石塁も部分的に発掘調査を行ったが、石塁の長さは11m、外側石垣の高さは3mほどに見積もれる。やはり城内向き石垣を伴い石塁幅は6.4mを測るが、トンネル通水溝は無く、石材の隙間から水を抜く仕組みであった。

城門は積極的な遺構として確認できなかったが、里道が今でも通過する一の木戸北縁と、城跡東部の大廻山と小廻山の間の鞍部が最大の候補地である。また、城内で行われた戦後の開発時に礎石建物の存在を匂わす石材を見たとの証言もあるが、遺構としての城内建物も未確認である。



一の木戸石塁発掘状況写真

小廻山地区の列石と城壁発掘状況写真

史跡 大廻小廻山城跡の位置と指定範囲（1/2,500）

Ⅳ　埋蔵文化財保護等に関する協議・調整

埋蔵文化財保護行政の動向

埋蔵文化財に関する業務のうち、調査や出土物の収蔵・管理等以外の埋蔵文化財包蔵地の照会、埋蔵文化財に関する事前協議、調整、届出等の事務などを文化財課が窓口となって行っている。

埋蔵文化財保護行政においては、全国的には文化財保護法第57条の２、第57条の３の届出・通知の件数、発掘調査の件数などは減少傾向にあるようだが、岡山市ではむしろ増加傾向にある。これは、景気の回復基調とともに、市内、特に市中心部でのマンション等集合住宅建設が活発になっていることが原因のひとつにあげられるが、平成15年度以来「鑑定評価基準」の見直しにより、埋蔵文化財の照会、開発事業の把握と協議の機会が増加していることの影響が大きいものとみられる。特に、埋蔵文化財存在状況の照会は激増している。

今後は、「岡山市埋蔵文化財緊急調査受託要綱」などと共に、埋蔵文化財の「取扱要綱」等の制定が課題である。さらに、平成17年３月22日付けで御津郡御津町、児島郡灘崎町との合併が行われ、市域の拡大と共に、両町の蓄積してきた埋蔵文化財情報、出土物、調査資料等を引き継ぐこととなった。特に、出土物や調査資料は保管場所はともかくとしても、保管状況や内容等を把握し、一元的に管理する必要もあり、今後の大きな課題となる。　（安川　満）

	57条 調査の届出	57条の2 発掘の届出	57条の3 発掘の通知	57条の5・6 発見の届出通知	58条の2 調査の通知	試掘確認調査	59・61条 出土物鑑査	80条 記念物現状変更	総計
平成６年度	1	16	9	7	4	29		6	72
平成７年度	3	29	26	9	8	29		7	111
平成８年度	2	36	24	2	6	16		4	90
平成９年度	4	22	26	8	12	21	18	16	127
平成10年度	6	46	25	5	10	23	15	15	145
平成11年度	5	44	36	11	10	16	14	13	149
平成12年度	6	29	40	1	5	12	10	24	127
平成13年度	5	30	31	0	6	14	11	21	118
平成14年度	2	37	41	0	11	13	9	23	136
平成15年度	2	64	54	1	7	21	10	15	174
平成16年度	1	75	66	1	6	16	9	27	201

※　出土物鑑査は平成9年度から中核市に権限委任

埋蔵文化財届出等件数表

埋蔵文化財保護事務事業

1）埋蔵文化財存在状況照会

平成16年度の埋蔵文化財存在状況等の照会件数は1,127件にのぼる。うち、鑑定評価など不動産の調査が527件と約47%を占め、開発申請に伴うもの32件、建築確認申請に伴うもの12件を大きく上回っている。また、計画段階での照会も532件とかなりの割合を占めるが、照会者が一定の建築コンサルタント、設計会社などに固定化する傾向にある。

2）開発事業等に対する意見

文化財保護法以外の法令等に伴う申請、届出に対し文化財保護の観点から意見を付している。

建築基準法第59条の２第１項に係る許可申請に対する意見

日付	申請場所	申請者	施設の概要	意見
H16.7.28	岡山市駅元町503-1・503-2	株式会社　天満屋 代表取締役社長　伊原木隆太	事務所(鉄骨造地上13階地下1階) 建築面積 835.33㎡	当該地には現在のところ、埋蔵文化財は確認されておりませんので、文化財保護法上は当該事業の実施には支障ないものと思われます。 ただし、埋蔵文化財の性質上、工事中新たに発見される場合もありますので、その際には文化財保護法に定める手続きをとるとともに、その保存方について文化財課とご協議ください。

都市計画法第32条（公共施設の管理者の同意等）に係る意見

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H16.4.8	岡山市小山字田中469番2・470番・471番・472番・474番・472番地先水路、市道・474番地先水路	岡山市三和1000番地45 トヨタホーム岡山株式会社 代表取締役　末長範彦	分譲住宅地 面積 5,188.14㎡	小山馬揃遺跡の範囲内～隣接地にあたっており、事業実施に際しては事前に「埋蔵文化財発掘の届出」(法第57条の2)の提出が必要。掘削深度等は浅く、遺跡への影響は軽微と思われるため、擁壁等の掘削に際し文化財課職員が立ち会うなどの対応が求められる。
H16.4.19	岡山市赤田字シモク田102番1・103番1・103番2・103番6の一部	個人	共同住宅(２棟) 面積 1,865.13㎡	赤田西遺跡の範囲内にあたり、事前に「埋蔵文化財発掘の届出」(法第57条の2)の提出が必要。埋蔵文化財の保護について文化財課と協議。
H16.8.26	岡山市伊福町3丁目847-2・847-3・849-2・850	岡山市柳町2丁目4番23号 山陽地所株式会社 代表取締役　大山忠淳	分譲住宅地 面積 1,451.00㎡	津島遺跡、上伊福遺跡の範囲内にあたっており、事業実施に際しては事前に「埋蔵文化財発掘の届出」(法第57条の2)の提出が必要。造成済み地点の分譲地造成であるため、遺跡への影響は軽微と思われるが、下水道の引き込み等の掘削に際し文化財課職員が立ち会うなどの対応が求められる。
H16.10.21	岡山市赤田字クルシ免164-5、字下中田167-1・167-12・167-13・167-14の一部・167-15・167-17・168-1	岡山市赤田85番地 有限会社　永代開発 代表取締役　古原鶴二	分譲住宅地 面積 1457,77㎡	小山馬揃遺跡の範囲内～隣接地にあたっており、事業実施に際しては事前に「埋蔵文化財発掘の届出」(法第57条の2)の提出が必要。掘削深度等は浅く、遺跡への影響は軽微と思われるため、擁壁等の掘削に際し文化財課職員が立ち会うなどの対応が求められる。

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H16. 11. 25	岡山市小山字棚橋9-1・9-4・10-1・10-4・11-1・12-1・13-1・13-2・13-3・13-4・14-1・14-2・14-3・15・16・17-2・18-1・19-1・20-1・21-1・23-2、及び農道、水路	高松市円座町1001番地 株式会社マルナカ 代表取締役　中山芳彦	店舗建築 面積 11,653.67㎡	小山馬揃遺跡の隣接地にあたり、埋蔵文化財の存在する可能性が高いため、事前に試掘調査を実施し埋蔵文化財の存在状況を確認する必要がある。
H16. 12. 24	岡山市小山字棚橋18-3・19-2・20-2、字渡り323-2・324-2・325-3、及び農道	倉敷市茶屋町早沖431-3 株式会社　サンタカ 代表取締役　小銭和明	共同住宅 面積 3,719.21㎡	小山馬揃遺跡の隣接地にあたり、埋蔵文化財の存在する可能性が高いため、事前に試掘調査を実施し埋蔵文化財の存在状況を確認する必要がある。
H16. 12. 24	岡山市芳賀1691番29外52筆、道路、水路	倉敷市福田町福田字砂割上2395-4 株式会社　倉敷組 代表取締役　信定　浩	分譲住宅地 面積 127,355.22㎡	当該地は平成10年に試掘確認調査を実施しており、支障ない旨回答。隣地には芳賀新池古墳が存在するが、計画範囲には係わらない。
H17. 2. 24	岡山市高屋字広町123番1	個人	共同住宅 面積 2,188.61㎡	中井遺跡等の隣接地にあたり、隣接する都市計画道路の建築に際し、包蔵地が確認され発掘調査の対象となっている。そのため、事前に「埋蔵文化財発掘の届出」(法第57条の2)の提出が必要。また、埋蔵文化財の保護について文化財課と協議。

岡山県環境影響評価等に関する条例第６条の環境影響評価計画書に係る周知計画書に対する意見

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H16. 8. 31	岡山市箕島～倉敷市茶屋町・早島町早沖	岡山市駅前町2丁目1番7号 瀬戸大橋高速鉄道保有会社 代表取締役社長　西川直輝	宇野線・本四備讃線(岡山～児島間)輸送改善事業	特に意見ありません。

岡山県環境影響評価等に関する条例第６条第１項の環境影響評価計画書に対する意見

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H16. 9. 13	岡山市箕島～倉敷市茶屋町・早島町早沖	岡山市駅前町2丁目1番7号 瀬戸大橋高速鉄道保有会社 代表取締役社長　西川直輝	宇野線・本四備讃線(岡山～児島間)輸送改善事業	特に意見ありませんが、当該路線には宇野線開業時(明治43年)の煉瓦積み橋台が良好に残されています。指定文化財等法的な規制があるものではありませんが、この地区の歴史的景観に大きな位置を占めるものでもありますので、その保存にご配慮ください。

岡山県環境影響評価等に関する条例第13条の環境影響評価準備書に係る周知計画書に対する意見

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H15. 5. 24	岡山県邑久郡長船町服部地内	長船町長　清家隆宣	長船町中央浄化センター建設 面積約　20,300㎡	特に意見ありません。

岡山県環境影響評価等に関する条例第13条第１項の環境影響評価準備書に対する意見

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H16.5.26	岡山県邑久郡長船町服部地内	長船町長　清家隆宣	長船町中央浄化センター建設 面積約　20,300㎡	【埋蔵文化財について】 「埋蔵文化財包蔵地とはなっていない・・」(3-7)とするが、1985年刊の遺跡地図に基づいており、2003年刊行の『改訂　岡山県遺跡地図』では計画地の隣地まで埋蔵文化財包蔵地（服部廃寺・丸山遺跡）となっている。事前に試掘調査等を実施し埋蔵文化財の存在状況を確認する必要があるのでは。 【天然記念物アユモドキについて】 評価では「河川改修を伴わない」「水質は改善される」ことからアユモドキへの影響は少ないものとされていますが、工事中の排水等の影響も無視できません。 吉井川流域では近年、邑久町の千町川流域、瀬戸町、岡山市の倉安川など広い範囲で確認されてきており、工事中の濁水・排水の影響も十分評価することが求められます。
H16.8.26	岡山県邑久郡長船町服部地内	長船町長　清家隆宣	長船町中央浄化センター建設 面積約　20,300㎡	「環境影響評価準備書についての意見の概要及び当該意見についての事業者の見解」(平成16年8月20日付け長船建発第125号)に対する、前回意見の追加・修正 【埋蔵文化財について】 「埋蔵文化財包蔵地とはなっていない・・」(3-7)とするが、1985年刊の遺跡地図に基づいており、2003年刊行の『改訂　岡山県遺跡地図』では計画地の隣地まで埋蔵文化財包蔵地（服部廃寺・丸山遺跡）となっている。岡山県教育委員会と協議の上、事前に試掘調査等を実施し埋蔵文化財の存在状況を確認する必要があるのでは。 なお、直接遺跡に影響を与えない工事であっても、工事用の仮設道路等をそのまま町道等として整備する等の場合は発掘調査の対象となりますのでご注意ください。 「開発事業に伴う埋蔵文化財の取扱い基準について」（平成13年1月4日付け教文埋第1335号） 【天然記念物アユモドキについて】 調査により天然記念物アユモドキの生息が確認されており、その生息、生存に十分留意してください。 評価では「河川改修を伴わない」「水質は改善される」ことからアユモドキへの影響は少ないものとされていますが、工事中の排水等の影響も無視できません。工事中の濁水・排水の影響も十分評価することが求められます。 なお、生息調査、一時的な保護を含むアユモドキの一時捕獲には文化庁長官の許可が必要です。生息調査、保護のための一時捕獲は岡山県教育委員会教育長の権限委任許可事項にあたりますので、その可能性のある場合は「現状変更許可申請書」を町教育委員会をつうじて提出しなければなりません。緊急の場合も町教育委員会、県教育委員会とご相談ください。建設工事においても水域に影響がある場合には対応を町教育委員会、県教育委員会にご相談ください。

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第14条の2第3項の報告書に対する意見

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H17.1.13	岡山市草ヶ部字小廻1815番地14外1筆	兵庫県姫路市花田町加納原田395番地の1 株式会社　篠崎建材 代表取締役　関口眞由美	産業廃棄物選別施設の設置	当該地は古代山城・大廻小廻山城跡の城内にあたり、平成16年11月19日に国史跡指定の答申が文化審議会から出されている、史跡指定候補地の一部です。史跡指定申請にあたり、(株)篠崎建材とは当該地の取り扱いについて協議してきており、①事業実施については遺跡へ影響を与えない範囲のものとする。②土地の公有化及び史跡整備の実施については別途協議とすることで合意しております。 本件につきましては掘削等を伴わないこととするなど調整を図ったものであり、遺跡への影響はありません。また、平成16年12月22日付けで「埋蔵文化財発掘の届出」(文化財保護法第57条の2)が提出されております。 なお、史跡指定につきましては、本年度中の官報告示を経て効力を発効する見込みです。史跡指定後は現状での使用や日常的な管理を超える事業等(「現状変更」)については文化庁長官(軽微なものについては岡山市教育委員会教育長)の許可が必要になります。(文化財保護法第80条)

岡山市土採取等規制条例第５条第１項の届出に対する意見

日付	申請場所	申請者	目的等	意見
H17.2.25	岡山市宮浦字越鉾在280外19筆	個人	土採取等の計画変更 面積　9,074㎡	計画変更前の意見（現状では埋蔵文化財は確認されていないが、工事中新たに発見された場合は文化財課に連絡し、文化財保護法を遵守すること）と同じ。

３）岡山市教育委員会の通知等

開発事業との調整等の円滑化を図るため、平成16年４月９日付け岡教文起第17号で「周知の埋蔵文化財包蔵地等における土木工事について」を庁内の開発担当部署等に依頼した。

岡教文第17号
平成16年４月９日

各所属長様

文化財課長　出宮徳尚

周知の埋蔵文化財包蔵地等における土木工事について（依頼）

周知の埋蔵文化財包蔵地内で土木工事を行う場合は、事業計画の策定にあたって「埋蔵文化財発掘の通知」（文化財保護法第57条の３）の提出が必要です

つきましては、事業計画、実施にあたっては下記について留意し、対応に遺漏ありませんようお願いします。

記

●本年度以降に周知の埋蔵文化財包蔵地内もしくはその周辺で土木工事等の事業計画がありましたら、できる限り早めに教育委員会文化財課に照会、協議してください。
・工事の内容によっては、発掘調査などかなりの期間・費用等を要する対応が必要になる場合があります。
・当課の発掘調査スケジュール、職員の配置等の調整もありますので、すぐに発掘調査等を実施できるかどうかはわかりません。
●工事に伴い新たに埋蔵文化財が発見された場合は、速やかに文化財課に連絡してください。
・「遺跡発見の通知」（法第57条の６）の提出とともに、その保存方について協議してください。
●民間の開発事業についても「埋蔵文化財発掘の届出」（法第57条の２）の提出等必要になります。管下の民間開発事業等ありましたら注意を喚起するよう努めてください。
●史跡名勝天然記念物の現状変更についても、ごくささいなものであってもできる限り早めに教育委員会文化財課に照会、協議してください。
・国指定史跡等の場合、文化庁長官、県指定史跡等の場合、県教育委員会教育長の許可が必要になります。国指定史跡等の現状変更の場合、軽微なものであれば岡山市教育委員会教育長が権限委任により許可できますが、それ以外については許可までに何ヶ月も要します。
・現状変更の内容によっては、発掘調査等の対応が必要であったり許可されない場合もあります。

いずれも事業計画自体に大きな影響がある可能性がありますので、できる限り早い段階で文化財課にご相談下さい。

４）文化財保護法等に基づく提出書類
なお、平成16年度に当教育委員会が取り扱った文化財保護法等に係る提出書類は以下の通りである。

・埋蔵文化財発掘調査の届出（第57条）	１件
・埋蔵文化財発掘の届出（第57条の２）	75件
・埋蔵文化財発掘の通知（第57条の３）	66件
・埋蔵文化財発見の届出・通知（第57条の５・６）	１件
・埋蔵文化財発掘調査の報告（第58条の２）	６件
・埋蔵文化財試掘確認調査の報告（第57条・第58条の２）	16件（確認14件、試掘２件）
・埋蔵文化財発見通知（第59条）	８件
・埋蔵文化財監査（第61条）	１件
・記念物現状変更申請（第80条）	27件（うち16件は権限委任）
・その他の届出・申請	10件

埋蔵文化財発掘調査の届出（第57条）　1件

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	調査主体者	担当者	岡山県文書番号 日　付
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	50	岡山大学（鹿田）立体駐車場整備工事	20041012 ～20041029	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター 助手　高田貫太	教文埋第670号 20040917

埋蔵文化財発掘の届出（第57条の２）　75件

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
集落跡 小山馬揃遺跡	岡山市小山字田中469番2、470番、471番、472番、474番	5188.14	保育園園舎増築	20040420 ～20040630	岡山市三和1000番地の45 トヨタホーム岡山株式会社 代表取締役　末永範彦	・立会調査	教文埋第89号 20040419
集落跡 上伊福遺跡	岡山市伊福町一丁目18-21番地先ほか	749.0	電力供給用引込管路埋設	20040419 ～20040930	岡山市青江二丁目6番51号 中国電力株式会社岡山営業所 所長　藤岡清人	・慎重工事 ・20040419立会調査。道路造成土中。	教文埋第93号 20040419
城館跡 岡山城三之外曲輪	岡山市中山下一丁目3-101、3-102、3-103	1364.47	集合住宅建設	20040427 ～20060331	岡山市中山下一丁目5-27 スカイパーキング２階 株式会社鴻池組アーバンビュー岡山中山下現場 代理人　船田秀孝	・確認調査の上協議 ・20040706確認調査。既存建物により破壊。 ・20041202二次掘削に伴い立会	教文埋第168号 20040506
散布地 名称未定 （岡山市2102）	岡山市納所字納所55番1	332.9	宅地造成及び個人住宅	20040610 ～20042120	個人	・立会調査 ・宅地造成時に立会。支障なし。	教文埋第167号 20040506
集落跡 乙多見遺跡	岡山市乙多見152番1、152番4	1621.24	集合住宅建設	20040520 ～20050320	個人	・立会調査	教文埋第172号 20040511
社寺跡 矢望城廃寺 （富原廃寺）	岡山市富原字新屋敷739番5	401	宅地造成及び個人住宅	20040510 ～20040610	個人	・立会調査 ・20040515立会調査。遺構・遺物確認できず。	教文埋第195号 20040518
集落跡 上伊福西遺跡	岡山市京山二丁目1362-4,1362-5	637.74	事務所兼用個人住宅	20040515 ～20041215	個人	・立会調査	教文埋第196号 20040518
散布地 名称未定 （岡山市1492）	岡山市学南町三丁目738番16	996.34	分譲住宅地造成	20040607 ～20040903	岡山市野田一丁目1-32 株式会社ナカタホーム岡山 代表取締役　半田正己	・慎重工事 ・20040629立会調査。影響なし。	教文埋第197号 20040518
散布地 津島福居遺跡	岡山市津島本町2851番8	約60	宅地造成	未定	個人	・慎重工事	教文埋第199号 20040518
集落跡 赤田西遺跡	岡山市赤田字シモク田102-1、103-1、103-2、103-7	1865.13	集合住宅建設	20040701 ～20040928	個人	・確認調査の上協議 ・20040601浄化槽部分について発掘調査実施。	教文埋第256号 20040531
集落跡 吉野口遺跡ほか	岡山市吉備津字薬師1339番1、1340番1	2823.39	分譲住宅地造成	20040525 ～20040630	岡山市吉備津1403番地3 ベルデ企画有限会社 代表取締役　片岡　憲	・慎重工事	教文埋第271号 20040602
集落跡 川入遺跡	岡山市川入字中橋上366-1、495-1、496-3	2671	分譲住宅地造成	20040614 ～2004073	岡山市青江一丁目13番65号 有限会社岡山土地 代表取締役　西家憲一	・慎重工事	教文埋第246号 20040531
散布地 津寺遺跡ほか	岡山市加茂字加茂宮1254番1	249.49	宅地造成及び個人住宅	20040915 ～20041215	個人	・立会調査 ・20041208立会調査。わずかに土器片散布	教文埋第288号 20040608
城館跡 岡山城三之外曲輪	岡山市弓之町13-127	267.54	集合住宅建設	20040610～ 200506下旬	倉敷市茶屋町早沖431-3 株式会社サンタカ 代表取締役　小銭和明	・確認調査の上協議 ・20040621確認調査。ゴミ穴もしくは堀内の状況。基礎掘削時に立会調査。	教文埋第287号 20040608
集落跡 絵図遺跡	岡山市清心町357-7他	540.63	展示場（モデルルーム）建設	20040607 ～20040731	岡山市浜二丁目1番3号 株式会社中山工務店 代表取締役　中山時男	・慎重工事	教文埋第289号 20040608
集落跡 雄町遺跡	岡山市雄町250-7	3236.51	工場新築	20040701 ～20041130	岡山市乙多見489番地 中原鉄工株式会社 代表取締役　中原成始郎	・立会調査 ・20040707基礎掘削に伴い立会調査。遺構・遺物確認せず。	教文埋第316号 20040614

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
集落跡・生産遺跡（水田） 兼基遺跡	岡山市兼基字黒中52	634.30	店舗改装（浄化槽埋設）	20040705 ～20040730	岡山市野田二丁目4番1号 日本技研建設株式会社 代表取締役　藤澤純造	・発掘調査 ・20040712浄化槽部分発掘調査。	教文埋第358号 20040629
散布地 北方遺跡	岡山市中井町一丁目5-11	459.5	集合住宅建設	20040623 ～20041020	岡山市岩田町7番11号 株式会社共栄運送店 代表取締役　定本陽子	・立会調査 ・無届けで着手しているのを発見、厳重注意の上届出提出を指示。 ・20041001浄化槽掘削に伴い立会調査。包蔵層確認せず。	教文埋第422号 20040714
集落跡 中井遺跡	岡山市中井275番1、275番4、275番5の一部、275番8の一部	662.70	分譲住宅地造成	20040715 ～20040830	岡山市中島69番地の3 株式会社八代不動産 代表取締役　八代武利	・立会調査	教文埋第426号 20040714
城館跡 岡山城二之丸跡	岡山市丸の内二丁目7-6、9-4	173.61	店舗改装	20040810 ～20041130	個人	・立会調査 ・20040823擁壁等掘削に伴い立会。幕末？～近代ごみ穴、洪水砂等。	教文埋第442号 20040716
集落跡 川入遺跡	岡山市中撫川字上符田525番12、525番15、525番16、525番17	308.76	宅地造成及び個人住宅	20041020 ～20050320	個人	・立会調査	教文埋第480号 20040730
散布地 名称未定 （岡山市2281）	岡山市大供二丁目138-1	725.20	事務所ビル建築	20041101 ～20051031	広島市中区土橋町1-18 ホシザキ中国株式会社	・立会調査 ・平成14年に地下埋設タンクを撤去。包蔵層確認せず。	教文埋第488号 20040804
集落跡 津島江道遺跡	岡山市学南町三丁目953-1の一部	519.75	集合住宅	20041001 ～20050228	個人	・確認調査の上協議。	教文埋第520号 20040817
散布地 名称未定 （岡山市781）	岡山市和井元字大池52番地3	395.93	宅地造成及び個人住宅	200410上旬 ～	個人	・立会調査	教文埋第599号 20040901
集落跡 津島岡大遺跡	岡山市津島中一丁目1番1号	650	公共下水道接続工事	20040921 ～20041126	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	・立会調査 ・岡山大学調査研究センター職員が立会。	教文埋第600号 20040901
集落跡 南方遺跡	岡山市国体町287番1の一部	762.11	展示場（モデルルーム）建設	20040901 ～30041031	福岡市博多区大博町2番7号 作州商事株式会社 代表取締役　城戸辰徳	・慎重工事	教文埋第602号 20040901
城館跡 岡山城二之丸跡	岡山市内山下二丁目10-110	248.13	個人住宅	20040824 ～20040827	個人	・立会調査 ・20040825無届けで着手しているのを発見。厳重注意の上、届出提出指示。	教文埋第609号 20040902
散布地 北方遺跡	岡山市中井町一丁目367-1	103	ガソリンスタンド跡地土壌改良（地下タンク部分）	20040720 ～20040820	広島市南区上東雲町4番10号 大成石油株式会社 代表取締役　玉木昌士	・立会調査 ・無届けで着手しているのを発見。厳重注意の上、届出提出指示。	教文埋第619号 20040908
集落跡 広瀬遺跡	岡山市広瀬町3-13	1026.02	教会建設	20040701 ～20041220	東京都新宿区市谷砂土原町一丁目1番地 宗教法人日本ルーテル教会 代表役員　山之内正俊	・立会調査 ・20040825無届けで着手しているのを発見。厳重注意の上、届出提出指示。	教文埋第621号 20040908
集落跡 天瀬遺跡	岡山市天瀬22、22-2、22-6、22-7、23	1274.24	店舗（ガソリンスタンド）建設	20040920 ～20041210	玉野市日比五丁目9番7号 玉野石油株式会社 代表取締役　木村容治	・発掘調査 ・20041019地下タンク部分を発掘調査。河道内。	教文埋第633号 20040913
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	4,000	岡山大学（鹿田）立体駐車場整備その他工事	20040920 ～20050228	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	・発掘調査	教文埋第668号 20040917
官衙跡 ハガ遺跡	岡山市国府市場字二本木151-1ほか	776	宅地造成及び個人住宅	20041101 ～20050331	個人	・立会調査	教文埋第672号 20040917
官衙跡 備前国府関連遺跡	岡山市国府市場字西千在	1613	宅地造成及び個人住宅	20041101 ～20050331	個人	・立会調査	教文埋第674号 20040921

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
官衙跡 備前国府関連遺跡	岡山市国府市場字西千在332番6	157	宅地造成及び個人住宅	20041101 ～20050331	個人	・立会調査	教文埋第676号 20040921
官衙跡 備前国府関連遺跡	岡山市国府市場字西千在331-1，331-3，331-4	685	宅地造成及び個人住宅	20041101 ～20050331	個人	・立会調査	教文埋第677号 20040921
集落跡・生産遺跡（水田） 津島新野遺跡	岡山市学南町二丁目796番の1ほか	756.85	集合住宅建設	200409 ～20050331	岡山市今四丁目14番35号 ビ・ウェル今１Ｆ 和建設株式会社岡山支店 常務取締役支店長　堀　敬夫	・確認調査の上協議 ・20040915確認調査実施。GL-1.7m付近に弥生時代前期水田層。基礎はGL-1.4m付近までのため支障なし。	教文埋第679号 20040921
集落跡 津島岡大遺跡	岡山市津島中一丁目1番1号	300	岡山大学津島地区ガス配管工事	200409 ～20041031	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	・立会調査 ・岡山大学調査研究センター職員が立会。	教文埋第706号 20041001
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	300	岡山大学鹿田地区ガス配管工事	200409 ～20041031	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	・立会調査 ・岡山大学調査研究センター職員が立会。	教文埋第707号 20041001
集落跡・生産遺跡（水田） 北方遺跡	岡山市大和町二丁目730番2ほか	326.03	宅地造成	20040924 ～20041015	岡山市門田屋敷一丁目7番38号 大倉建設株式会社岡山支店 支店長　内田康雄	・慎重工事	教文埋第743号 20041006
城館跡 一国山城跡	岡山市下足守624ほか	30,633	土採取	20050401 ～20070331	岡山市福島二丁目9番10号 株式会社フジモト 代表取締役　藤本正勝	・発掘調査	教文埋第760号 20041013
散布地 津寺遺跡ほか	岡山市加茂字加茂宮1254番8	294.49	宅地造成及び個人住宅	20050112 ～20050331	個人	・立会調査	教文埋第791号 20041021
散布地 名称未定 （岡山市775）	岡山市雄町521番1	281.01	宅地造成及び個人住宅	20041205 ～20041225	個人	・慎重工事	教文埋第792号 20041021
散布地 備前国府関連遺跡ほか	岡山市平山字窪436-4	495.35	宅地造成	20050115 ～20050228	個人	・立会調査	教文埋第809号 20041025
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市いずみ町（総合グランド南東）		ガス管布設	20041101 ～20041220	岡山市桜橋二丁目1番1号 岡山ガス株式会社 取締役社長　岡崎　彬	・立会調査	教文埋第852号 20041029
集落跡 天瀬遺跡 城館跡 岡山城三之外曲輪	岡山市京橋南町21番14、21番19	939.57	有料老人ホーム建設	20041201 ～20050410	岡山市森下町1番14号 岡崎共同株式会社 代表取締役　岡崎　彬	・立会調査	教文埋第860号 20041101
集落跡 上伊福遺跡	岡山市清心町304番16	237.27	個人住宅	20041105 ～20041119	個人	・確認調査の上協議 ・20041109確認調査。基礎が包蔵層に到達せず。	教文埋第887号 20041109
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市いずみ町２－１	7	有森裕子像建立	～20041222	岡山市新屋敷町一丁目1番18号 株式会社山陽新聞 取締役社長　佐々木勝美	・慎重工事	教文埋第932号 20041122
城館跡 岡山城二之丸跡	岡山市内山下一丁目14-109、14-110、14-111、14-112、14-113、14-114、14-115、14-116、14-122、14-123、14-124	691.32	集合住宅	20041120 ～20050520	岡山市南中央町10番10号 セントラル殖産株式会社 代表取締役　近藤廣右	・立会調査	教文埋第957号 20041126
集落跡・生産遺跡（水田） 百間川遺跡群	岡山市藤原西町二丁目116番6、116番9、116番14	311.03	宅地造成及び個人住宅	20041125 ～20041225	個人	・慎重工事	教文埋第961号 20041125
集落跡 赤田東遺跡	岡山市赤田字クルシ免164-5、164-7、字下中田167-1、167-12、167-13、167-14、167-15、167-17、1167-19、167-21、167-22、167-23、167-25、168-1、168-8、168-9、168-10	1457.77	宅地造成	20041210 ～20050130	岡山市赤田85番地 有限会社永代開発 代表取締役　古原鶴二	・立会調査 ・20041221立会調査実施。包蔵層確認せず。	教文埋第981号 20041203
集落跡 津島岡大遺跡	岡山市津島中一丁目1番1号	3200	岡山大学（津島）キャンパス環境整備	20041220 ～20050318	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	・立会調査 ・岡山大学調査研究センター職員が立会。	教文埋第1008号 20041206

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
散布地 津寺遺跡ほか	岡山市加茂字加茂宮1254-12、1254-13	484.33	宅地造成及び個人住宅	20050312 ～20050531	個人	・立会調査	教文埋第1027号 20041214
散布地 津寺遺跡ほか	岡山市加茂字加茂宮1254-10、1254-11	398.61	宅地造成及び個人住宅	20050312 ～20050531	個人	・立会調査	教文埋第1028号 20041214
集落跡 上伊福遺跡	岡山市伊福町三丁目847-2、847-3、850	1451.35	宅地造成	～20050331	岡山市柳町二丁目4番23号 山陽地所株式会社 代表取締役　大山忠淳	・慎重工事 ・20041124、既存建物解体に伴い立会。GL-70cmより包含層。	教文埋第1060号 20041221
集落跡 津島江道遺跡	岡山市学南町三丁目936-1ほか	5277.58	宅地造成	20050104 ～20050331	岡山市大元一丁目13番20号 大和ハウス工業株式会社 岡山支店支店長　浜本正克	・慎重工事	教文埋第1108号 20041228
古代山城跡 大廻小廻山城跡	岡山市草ヶ部1815-14、1815-34	2510	産業廃棄物選別施設	200412～	兵庫県姫路市花田町加納原田395番地の1 株式会社篠崎建材 代表取締役　関口眞由美	・慎重工事 ・史跡指定対象地。掘削を伴わない構造に協議、調整。	教文埋第1115号 20050105
集落跡 兼基遺跡	岡山市兼基50番地、33番地2	2286.97	店舗建設	20041220 ～20050220	岡山市野田二丁目1番38号 岡山ダイハツ販売株式会社 代表取締役　原　祥治	・発掘調査 ・20050124浄化槽部分発掘調査。包蔵層確認せず。	教文埋第1117号 20050105
散布地 名称未定(岡山市1719・1720)	岡山市高屋字松ノ木394番地1	379.89	宅地造成及び個人住宅	20050118 ～20050603	個人	・立会調査 ・20050502浄化槽立会。弥生末水田確認。	教文埋第1151号 20050114
散布地 名称未定(岡山市1719・1720)	岡山市高屋字松ノ木394番7、394番8	363.31	宅地造成及び個人住宅	20050118 ～20050603	個人	・立会調査	教文埋第1152号 20050114
集落跡・生産遺跡(水田) 百間川遺跡群	岡山市藤原西町二丁目213番3ほか	224.25	宅地造成及び個人住宅	20041125 ～20041225	岡山市野田三丁目16番1号 下電開発株式会社 代表取締役　永山靖人	・慎重工事	教文埋第1168号 20050119
散布地 名称未定 (岡山市2281)	岡山市大供二丁目138-1	725.20	オフィスビル建設	20050119 ～20051115	個人	・慎重工事	教文埋第1183号 20050119
貝塚 朝寝鼻貝塚	岡山市津島東三丁目2636-1、2635-2、2635-4、2635-6	224.61	集合住宅建設	20050105 ～20050326	岡山市岩田町6番11号 吉原乳業有限会社 代表取締役　吉原千代子	・慎重工事 ・20041222確認調査実施。包蔵層確認せず。	教文埋第1220号 200501318
集落跡 乙多見遺跡	岡山市雄町187-1、187-2、187-3、187-4、187-5、187-6、187-7 関字四ノ宮381-1、381-2、381-3、381-4、381-5、381-6、381-7、384-9、384-10、384-11、384-12	1416.46	宅地造成		岡山市矢坂西町6番6号 有限会社ケイ・ワイ・エス 代表取締役　竹内久美子	・慎重工事	教文埋第1249号 20050208
散布地 名称未定 (岡山市1705)	岡山市国府市場字辻堂480番6	310.79	宅地造成及び個人住宅	20050405 ～20050430	個人	・立会調査	教文埋第1295号 20050218
散布地 高田遺跡	岡山市惣爪字宮田266番4、266番5	235.40	個人住宅・宅地造成	20050410 ～20050510	個人	・立会調査	教文埋第1337号 20050225
集落跡 南方遺跡	岡山市番町一丁目14-2	79.10	個人住宅	20050221 ～20050630	個人	・慎重工事	教文埋第1341号 20050225
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	2150	岡山大学(医病)病棟整備に伴う仮設工事	20050228 ～20050310	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	・立会調査 ・岡山大学調査研究センター職員が立会。	教文埋第1348号 20050302
散布地 名称未定 (岡山市2281)	岡山市大供二丁目3-140	995	画像診断センター建設	20050502 ～20060130	岡山市田町一丁目2番10号 三井生命田町ビル 鹿島建設株式会社 岡山営業所長　桑田豪宏	・慎重工事 ・20050214確認調査実施。包蔵層確認せず。	教文埋第1373号 20050308
散布地 五反地・国長遺跡	岡山市高島新屋敷字広町123番1	2188.61	集合住宅建設	20050420 ～20050920	個人	・発掘調査	教文埋第1384号 20050309
官衙跡 備前国府関連遺跡	岡山市国府市場字西千在321番1、321番4	390.36	宅地造成及び個人住宅	20050311 ～20050720	個人	・立会調査	教文埋第1385号 20050309

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
散布地 名称未定 (岡山市1746)	岡山市宍甘1284番、1285番、1286番、1287番1、1289番1、1290番、1291番、1292番、1293番1、1291番地先農道、1291番地先水路	2591.43	土採取	未定	個人	・立会調査	教文埋第1388号 20050309
集落跡 上沼遺跡	岡山市高松原古才584-1	3750.19	病院建設	20059515 ～20060331	岡山市伊福町一丁目17番18号 社会福祉法人恩賜財団 済生会 支部岡山県済生会 支部業務担当理事 岩本一壽	・発掘調査	教文埋第1405号 20050309
散布地 三野宮之段遺跡	岡山市北方三丁目66番2の一部、66番4の一部、67番1	874.70	分譲住宅地造成	20050401 ～20050430	岡山市円山222番地6 有限会社中国ハウジング 代表取締役　田中保全	・慎重工事	教文埋第1434号 20050317
城館跡 撫川城跡・庭瀬城跡	岡山市撫川字城ノ内436-17、436-21、440-5、440-8、440-9、445-4、445-8、446-20、446-21	876.41	宅地造成及び個人住宅	20050401 ～20050630	個人	・立会調査	教文埋第1465号 20050329
集落跡 鹿田遺跡	岡山市鹿田町二丁目5番1号	10	耐震診断に伴う基礎調査	20050330 ～20050331	岡山市津島中一丁目1番1号 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	・立会調査 ・岡山大学調査研究センター職員が立会。	教文埋第1466号 20050329

埋蔵文化財発掘の通知（第57条の３）　66件

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
社寺跡 長野廃寺	岡山市長野899地先～323地先	69.58	配水管埋設	200404下旬 ～200406末	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査	教文埋第41号 20040414
集落跡・生産遺跡（水田） 津島岡大遺跡	岡山市津島福居一丁目2-3地先～津島中三丁目1-1地先	332.2	配水管埋設	20040401 ～20040616	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・20040412に施工中を発見。通知提出を指示。 ・厳重注意	教文埋第95号 20040419
散布地 名称未定 (岡山市1472)	岡山市津島福居二丁目12-12地先～14-15地先	129.0	配水管埋設	～20040820	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査 ・20040720立会調査。包蔵層確認せず。	教文埋第107号 20040426
集落跡 中井遺跡	岡山市中井22番地～35-5番地先	8.18	汚水管敷設	200404下旬 ～20041029	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20040614～立会調査実施。包蔵層確認。	教文埋第132号 20040427
散布地 名称未定 (岡山市1778)	岡山市米田41地先～46-1地先	40	配水管埋設	200405中旬 ～20040630	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査	教文埋第134号 20040427
集落跡 乙多見遺跡	岡山市乙多見1-13地先～193地先	151	配水管埋設	200405下旬 ～	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第194号 20040518
集落跡 天瀬遺跡・新道遺跡	岡山市京町3-5地先～清輝橋一丁目4-17地先	161.7	配水管埋設	20040601 ～20040927	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第200号 20040518
集落跡 雄町遺跡	岡山市雄町122番地～306-8番地先	137	汚水管敷設	200407上旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第317号 20040614
集落跡 乙多見遺跡	岡山市関264-4地先から305-2地先	427	配水管埋設	200407上旬 ～200411上旬	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査 ・20040714立会。包蔵層に到達せず。	教文埋第328号 20040616
散布地・生産遺跡（水田） 津島新野遺跡	岡山市津島新野一丁目7-1番地～7-15番地先	85	汚水管敷設	200407上旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20040720～立会調査実施。	教文埋第329号 20040616
散布地・生産遺跡（水田） 津島岡大遺跡	岡山市津島中２丁目1番地～津島東１丁目4-1-1番地	40.5	試験掘工	200407下旬 ～20040931	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第340号 20040624
集落跡 川入遺跡	岡山市中撫川465-4地先～498地先	164.6	配水管埋設	20040701 ～20041112	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査 ・20040702～立会調査実施。	教文埋第360号 20040629

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
散布地 津島東遺跡	岡山市津島福居二丁目2-11地先～津島東四丁目5-11地先	147.3	配水管埋設	～20041109	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査	教文埋第476号 20040730
集落跡 吉野口遺跡	岡山市吉備津1444番地	92.75	児童クラブ室新築	200407下旬 ～20040931	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・慎重工事	教文埋第477号 20040730
集落跡 赤田東遺跡・清水遺跡	岡山市清水446-1地先～赤田189-1地先	303	配水管埋設	200408中旬 ～200411上旬	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査	教文埋第478号 20040730
集落跡 雄町遺跡	岡山市雄町95地先～158地先	212	配水管埋設	200409中旬 ～	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査	教文埋第601号 20040901
集落跡 津寺遺跡	岡山市津寺517番地	1559.2	加茂小学校プール改築	200409 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・20040130確認調査実施。包蔵層確認。 ・慎重工事	教文埋第603号 20040901
集落跡・散布地 幸利神社遺跡・名称未定 （岡山市933）	岡山市加茂573番地先～260-18番地先	238	道路改良工事	～20050228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第607号 20040901
集落跡 津寺遺跡	岡山市津寺325番地の1先～325番地の6	280	道路改良工事	20040827 ～20041220	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20040908立会。包蔵層に到達せず。	教文埋第608号 20040826
城館跡 旧足守陣屋跡	岡山市足守878番地先～914番地先	94.51	汚水管敷設	200410下旬 ～200503下旬	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・慎重工事	教文埋第637号 20040913
集落跡 雄町遺跡	岡山市雄町389-1番地先～394-3番地先	118	配水管埋設	200409初旬 ～200410下旬	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第638号 20040913
散布地 名称未定 （岡山市1483）	岡山市津島東二丁目1-28地先～3-14地先	92.0	配水管埋設	200410中旬 ～20050215	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査	教文埋第704号 200410013
集落跡 津島江道遺跡	岡山市学南町二丁目10-30地先～津島東一丁目3-31地先	215.4	配水管埋設	200409下旬 ～20041210	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査 ・20041207～立会。包蔵層に到達せず。	教文埋第705号 20041001
集落跡 乙多見遺跡・関遺跡	岡山市関334-1地先～470-2地先	304	配水管埋設	200410中旬 ～20050215	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第727号 20041005
集落跡・生産遺跡（水田） 原尾島遺跡	岡山市藤原光町一丁目2-2地先～藤原西町一丁目6-28地先	160	配水管埋設	200410中旬 ～20050118	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第728号 20041005
集落跡・生産遺跡（水田） 高屋遺跡	岡山市高屋4-2地先～17地先	181	配水管埋設	200410中旬 ～20050114	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第729号 20041005
散布地・生産遺跡（水田） 津島新野遺跡	岡山市津島新野一丁目3-23番地先～2-5番地先	181	汚水管敷設	200407下旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第741号 20041006
散布地・集落跡 中井遺跡・清水遺跡・雄町遺跡	岡山市清水400-5番地～雄町385-1番地先	71.2	汚水管敷設	200410中旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20041119～立会。	教文埋第766号 20041015
散布地 中井遺跡	岡山市中井138地先～167-4地先	537	配水管埋設	200411中旬 ～20050318	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第808号 20041025
散布地 中井遺跡	岡山市中井285-1番地～237-1番地先	92.9	汚水管埋設	200411上旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20041221立会。包蔵層確認せず。	教文埋第830号 20041027
集落跡 乙多見遺跡	岡山市乙多見1-14番地～193番地先	50.4	汚水管埋設	200411上旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20041110立会。包蔵層確認。	教文埋第831号 20041027
城館跡・散布地 加茂城跡・名称未定（岡山市933）	岡山市加茂188-1番地先	45.0	水路改修	～20050228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20041208立会。東端側は低位湿地状粘質土。西側に微高地。３～４ｍ幅の溝状遺構確認。	教文埋第930号 20041122

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
集落跡・生産遺跡（水田） 津島江道遺跡ほか	岡山市学南町二丁目5-12地先～学南町三丁目5-6地先	156.9	配水管埋設	～20040315	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第931号 20041122
散布地 名称未定 （岡山市712）	岡山市高塚102-1番地先～福崎103-3番地先	269.0	水路改修	～20050228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第933号 20041122
散布地 名称未定 （岡山市727）	岡山市門前27番地先～171番地先	465.0	道路改良	～20050228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第934号 20041122
散布地 名称未定 （岡山市212）	岡山市福崎102-1番地先～103-3番地先	269.0	道路改良	～20050228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第935号 20041122
散布地 高田遺跡	岡山市惣爪321-7番地先～293番地先	53.0	道路改良	～20041220	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第936号 20041122
集落跡 赤田西遺跡	岡山市赤田94-1地先～清水446-1地先	228	配水管埋設	200412上旬 ～20050318	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第937号 20041122
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市いずみ町	0.49	災害時避難誘導標識の設置	200412中旬	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・慎重工事	教文埋第960号 20041130
散布地 中井遺跡	岡山市清水600-8地先～604-9地先	68	配水管埋設	200412中旬 ～20050318	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第982号 20041203
散布地 足守深茂遺跡	岡山市足守1742番地～1695番地先	53.0	汚水管埋設	200501上旬 ～20050731	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・慎重工事	教文埋第983号 20041203
散布地 名称未定 （岡山市711）	岡山市下土田137番地先～同141番地先	500	道路改良	～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1018号 20041210
集落跡 関遺跡・乙多見遺跡	岡山市関333-21番地先～470-6番地先	335.1	汚水管埋設	200503上旬 ～20060331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1052号 20041217
集落跡 乙多見遺跡	岡山市関296-9番地～305-1番地先	56.6	汚水管埋設	200412中旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20050119～立会。	教文埋第1054号 20041217
集落跡 乙多見遺跡	岡山市関259-10番地～305-2番地先	69.2	汚水管埋設	200412中旬 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20050119～立会。 包蔵層、遺構等確認。	教文埋第1055号 20041217
散布地 東岡山遺跡	岡山市長岡224番地～260-7番地先	75.2	汚水管埋設	200501下旬 ～20050729	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1056号 20041217
散布地 清水遺跡	岡山市清水513-10番地～515-10番地先	66.4	汚水管埋設	200501下旬 ～20050729	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1057号 20041217
集落跡・生産遺跡（水田） 百間川遺跡群	岡山市藤原15-3地先～高屋11-8地先	247	配水管埋設	200501中旬 ～20050425	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第1058号 20041217
散布地 中井遺跡	岡山市中井51-2番地～202-12番地先	48.6	汚水管埋設	200501上旬 ～20050729	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1101号 20041228
散布地 中井遺跡	岡山市中井128番地～雄町28番地先	234.4	汚水管埋設	200502上旬 ～20060331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1132号 20050112
散布地 東岡山遺跡	岡山市長岡582番地1、583番地1、584番地３	280	（都）東岡山駅前線建設に伴う仮設水路掘削	20050114 ～20050531	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1150号 20050114
散布地 三野宮之段遺跡	岡山市三野一丁目２番１号	1219.79	急速ろ過池新設	20050601 ～20080225	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査 ・20031113確認調査実施。包蔵層確認。計画部分は既存緩速ろ過池により既に消滅。	教文埋第1221号 20050131
集落跡・生産遺跡（水田） 百間川原尾島遺跡	岡山市東川原地先（百間川河川敷）	16800	公園整備	200502 ～200503	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査 ・20050323立会。包蔵層確認せず。	教文埋第1246号 20050208

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
集落跡・生産遺跡（水田） 百間川遺跡群	岡山市高屋84-2地先～184-1地先	186	配水管埋設	200502下旬～20050510	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第1247号 20050208
散布地 名称未定（岡山市1721・1722）	岡山市神下133-5地先～172-4地先ほか	247	配水管埋設	200502下旬～20050630	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事	教文埋第1248号 20050208
古墳 名称未定 （岡山市1404）	岡山市横井上1389地先～1447-3地先	423.0	配水管埋設	200503下旬～20050729	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・慎重工事 ・道路部分であり古墳遺構には影響なし。	教文埋第1274号 20050214
散布地 清水遺跡	岡山市清水479-5番地～532-17番地先	83.5	汚水管埋設	200503下旬～20051228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1336号 20050225
散布地 名称未定 （岡山市2281）	岡山市西古松81地先～大供本町468-3地先	5923.0	配水管埋設	20050401～20051031	岡山市鹿田町二丁目1番1号 岡山市水道事業管理者 水道局長　植松　健	・立会調査 ・北半部は道路建築に際し発掘調査実施。南半部は確認調査により調査対象外、立会調査対応。	教文埋第1338号 20050225
集落跡 赤田西遺跡	岡山市赤田108-5番地～159-1番地先	116.6	汚水管埋設	200504下旬～20060228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1342号 20050302
集落跡 赤田西遺跡・赤田東遺跡	岡山市赤田223-1番地～302-10番地先	118.1	汚水管埋設	200504下旬～20060228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1343号 20050302
集落跡 赤田東遺跡 散布地 名称未定 （岡山市1719）	岡山市高屋437-5番地～赤田259-2番地先	107.9	汚水管埋設	200504下旬～20060228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1344号 20050302
集落跡・生産遺跡（水田） 百間川遺跡群	岡山市高屋84-7番地～115-1番地	81.1	汚水管埋設	200504下旬～20060228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1345号 20050302
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡	岡山市学南町二丁目5-28番地～6-76番地先	500	汚水管埋設	200505下旬～20060331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1417号 20050317
集落跡・生産遺跡（水田） 津島遺跡・北方中溝遺跡	岡山市学南町三丁目4-2番地～10-2番地先	229	汚水管埋設	200505下旬～20060331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1418号 20050317
集落跡・生産遺跡（水田） 津島江道遺跡・津島岡大遺跡	岡山市津島東一丁目4-3番地～5-16番地先	420	汚水管埋設	200505下旬～20060331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1419号 20050317
散布地・生産遺跡（水田） 津島新野遺跡	岡山市津島本町1-5番地～津島南二丁目5-1番地先	328	汚水管埋設	200505下旬～20060331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1420号 20050317
集落跡・生産遺跡（水田） 津島岡大遺跡	岡山市津島中２丁目、津島中３丁目地内	328	汚水管埋設	200504中旬～200601下旬	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査	教文埋第1433号 20050317

埋蔵文化財発見の通知（第57条の６）　1件

遺跡名	所在地	面積（㎡）	工事の目的	工事期間	届出者	対応・指導事項等	岡山県文書番号 日　付
散布地 名称未定	岡山市福崎地内（市道福崎12号線）	－	道路改良工事	20040913～20040930	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・立会調査にて発見	教文埋第710号 20040917

埋蔵文化財発掘調査の報告（第58条の２）　6件

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
集落跡 兼基遺跡	岡山市兼基字四反地90ほか	100	集合住宅建設（浄化槽）	20040413～20040423	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事 高橋伸二	岡教文第67号 20040426

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
集落跡 赤田西遺跡	岡山市赤田字シモク田120-1、103-1、103-2、103-7	28.5	集合住宅建設（浄化槽）	20040601 ～20040630	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主任　草原孝典	岡教文第159号 20040601
集落跡・生産遺跡（水田） 兼基遺跡	岡山市兼基字黒中52	約20	店舗建設（浄化槽）	20040712 ～20040714	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主任　草原孝典 文化財保護主事　西田和浩	岡教文第275号 20040721
集落跡 東岡山遺跡	岡山市下248-1ほか	1500	都市計画道路東岡山駅前線建設	20040921 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主任　草原孝典	岡教文第424号 20040927
集落跡 天瀬遺跡	岡山市天瀬3-7、3-8、3-9	150	ガソリンスタンド改修（地下タンク）	20041019 ～20041025	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主査　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡教文第575号 20041110
集落跡・生産遺跡（水田） 兼基遺跡	岡山市兼基50番地、33番地2	15.5	店舗建設（浄化槽）	20050124	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第756号 20050126

埋蔵文化財試掘確認調査の報告（第57条・第58条の２）　16件

種類及び遺跡名	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	調査期間	包蔵地の有無	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
集落跡 北方地蔵遺跡	岡山市中井町一丁目283-1、274-5、280-2、270-2	6	店舗建設	20040416	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 副専門監　神谷正義	岡教文第47号 20040422
城館跡 岡山城三之外曲輪	岡山市天神町6-103	6	教会建設	20040512	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 副専門監　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡教文第113号 20040514
（未周知）	岡山市小山字棚橋38-8、40-16、40-17、49-3、49-4、51-1、51-2、51-4、52-1、及び地先農道	2	店舗建設	20040517	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第131号 20040518
城館跡 岡山城三之外曲輪	岡山市弓之町13-127	5	集合住宅建設	20040621	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第211号 20040621
城館跡 岡山城三之外曲輪	岡山市中山下一丁目3-101	5	集合住宅建設	20040706	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第247号 20040708
集落跡・生産遺跡（水田） 津島江道遺跡	岡山市学南町三丁目953-1の一部	5	集合住宅建設	20040827	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第337号 20040830
集落跡・生産遺跡（水田） 津島新野遺跡	岡山市学南町二丁目796番1ほか	5	集合住宅建設	20040915	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第406号 20040916
散布地 名称未定	岡山市大供本町地内	20	都市計画道路青江津島線建設	20041008	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 副専門監　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡教文第546号 20041101
集落跡 上伊福遺跡	岡山市清心町304番16	5	個人住宅	20041109	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第581号 20041111
集落跡 小丸山遺跡	岡山市辛川市場159	2	学校施設建設	20041119	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 副専門監　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡教文第606号 20041124
集落跡 上沼遺跡	岡山市高松原古才584-1	9	病院建設	20041127	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 副専門監　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡教文第630号 20041130
貝塚 朝寝鼻貝塚	岡山市津島東三丁目2636-1ほか	2	集合住宅建設	20041222	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第703号 20041227

種類及び遺跡名	所在地	面積(㎡)	目的及び原因	調査期間	包蔵地の有無	調査主体者	担当者	文書番号 日　付
集落跡 南方遺跡	岡山市国体町3番12号	6	介護老人保健施設建設	20050117	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第743号 20050118
集落跡・古墳・生産遺跡(製鉄関連) 名称未定	岡山市日近地内	12	農業基盤整備事業	20050209	有	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 主任　草原孝典 文化財保護主事　安川満	岡教文第805号 20050215
散布地 名称未定	岡山市大供二丁目3-140	4	画像診断センター建設	20050214	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 文化財保護主事　安川満	岡教文第815号 20050217
(未周知)	岡山市小山字棚橋9-1ほか	8	店舗建設	20050303	無	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市教育委員会 副専門監　神谷正義 文化財保護主事　安川満	岡教文第874号 20050307

埋蔵文化財発見通知（第59条）・埋蔵文化財監査（第61条）　9件

物件名・数量	発見の場所	発見年月日	発見者	土地所有者	保管場所	文書番号 日付
土器類　383箱 瓦類　26箱 陶磁器　4箱 土錘　17箱 石製品　1箱 骨製品　1箱 金属器　1箱 木製品　1箱 基壇化粧石　5箱 合計　439箱	岡山市中撫川436-1ほか	20020801 ～ 20040430	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第88号 20040511
弥生土器・石器類　12箱 合計　12箱	岡山市兼基字四反地90、91-1、91-2	20040413 ～20040423	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	事業者	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第91号 20040511
弥生土器類　1箱 合計　1箱	岡山市兼基字黒中52	20040712 ～20040713	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	事業者	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第276号 20040721
近世陶磁器・瓦など　59箱 弥生土器・土師器など　1箱 鉄製品　1箱 木製品　3箱 合計　64箱	岡山市蕃山町6-10	20040308 ～20040930	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第465号 20041005
弥生土器類　1箱 合計　1箱	岡山市天瀬3-7、3-8、3-9	20041019 ～20041025	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第576号 20041101
弥生土器・石器類　8箱 合計　8箱	岡山市清心町357-7ほか	20041118 ～20041201	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第649号 20041203
土器(弥生～近世)　1箱 合計　1箱	岡山市鹿田町二丁目5番1号	20041124	岡山市津島中一丁目1-1 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	岡山市津島中一丁目1-1 国立大学法人岡山大学 学長　河野伊一郎	岡山大学埋蔵文化財調査研究センター	岡教文第684-1号 20041216
弥生土器　5箱 土師器　20箱 須恵器　5箱 備前焼　15箱 陶磁器　2箱 合計　47箱 獣骨　15点 石器　10点 鉄滓　5点 鉄器　5点 合計　35点	岡山市下248-1ほか	20040921 ～20050128	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第769号 20050201

物件名・数量	発見の場所	発見年月日	発見者	土地所有者	保管場所	文書番号 日付
中世土器　7箱 土師器・須恵器　1箱 弥生土器　5箱 金属器・石製品　1箱 合計　17箱 ガラス小玉　20点 石製勾玉　1点 石製管玉　1点 銅鏡　1点 埴輪　3点 鉄刀　2点 合計　28点	岡山市下足守字隠地1012、字一国山634ほか	20041012 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	事業者	岡山市埋蔵文化財センター	岡教文第950号 20050331

記念物現状変更申請（第80条）　27件

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	申請者	対応・指導事項等	許可文書番号 許可日
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	―	芝の移植	許可の日 ～20040630	岡山市内山下二丁目4番6号 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ハに該当。 ・平成17年2月18日付け都計第511号で完了報告。	岡教文第103-1号 20040512
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （岡山市賞田地内・中田川）	―	渇水期における一時保護	許可の日～	岡山市賞田 岡山市賞田町内会	・施行令第5条第4項第1号ートに該当。 ・アユモドキの生存に十分注意。	岡教文第145-1号 20040525
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町1-1	―	雨水排水管改修	許可の日 ～20040831	岡山市内山下二丁目4番6号 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第一号ホに該当。 ・平成17年2月18日付け都計第512号で完了報告。	岡教文第196-1号 20040614
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （旭川水系砂川・秋芳川・倉安川）	―	河川環境調査に伴う一時捕獲	許可の日 ～20040930	岡山市内山下二丁目4番6号 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第一号トに該当。 ・アユモドキの生存に十分注意。	岡教文第235-1号 20040705
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町1-1	57.4	スロープ設置工事	許可の日 ～20040930	岡山市内山下二丁目4番6号 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・岡山県教育委員会の埋蔵文化財担当の立会を求めること。 ・県教育委員会の指示を受けること。 ・平成17年2月18日付け都計第513号で完了報告。	16委庁財第4の860号 20040917
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目3-901ほか	―	おかやま菊花大会に伴う仮設物設置	20041010 ～20041121	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・施行令第5条第4項第一号ハに該当。 ・平成16年11月30日付け岡観第697号で完了報告。	岡教文第351-1号 20040901
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず （祇園地内・祇園用水）	―	農村自然環境整備事業（祇園用水路改修）実施に伴う一時捕獲	許可の日 ～20050331	岡山市弓之町６－１ 岡山県岡山地方振興局 局長　赤木　匠	・施行令第5条第4項第一号トに該当。 ・アユモドキの生存に十分注意。 ・平成17年3月31日付け岡地振農第5-71号で終了報告。	岡教文第396-1号 20040914
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	―	スポーツの塔等説明版設置	許可の日 ～20041130	岡山市新屋敷町一丁目1番18号 山陽新聞社 代表取締役社長 佐々木勝美	・掘削工事に際しては、岡山県教育委員会の職員の立会を求めること。 ・その他、実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。	16委庁財第4の1096号 20041029
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目３番901他19筆及び岡山市後楽園278番他	―	史跡岡山城跡保存整備（本丸中の段歴史的環境整備）	許可の日 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・工事に際しては、岡山市教育委員会職員の立会を求めること。 ・その他、実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。 ・平成17年3月31日付け岡教文第953号で終了報告。	16委庁財第4の1192号 20041119

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	申請者	対応・指導事項等	許可文書番号 許可日
史跡 真金一里塚(北塚)	岡山市吉備津字東畑563，字大鳥居601	－	枯死に伴うクロマツの植替	許可の日 ～20050331	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	・工事に際しては、岡山市教育委員会職員の立会を求めること。 ・その他、実施に当たっては、岡山県教育委員会の指示を受けること。 ・平成17年3月31日付け岡教文第947号で終了報告。	16委庁財第4の1129号 20041029
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	－	倉庫撤去	許可の日 ～20041130	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・遺構、景観等への影響なし。 ・平成17年2月18日付け都計第514号で終了報告。	岡教文第502-1号 20041015
特別名勝 岡山後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園１番５号	－	後楽園外園トイレ整備	許可の日 ～20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・岡山県教育委員会職員の立会を求めること。 ・重要な遺構などが発見された場合は、設計変更等により、その保存を図ること。 ・県教育委員会の指示を受けること。 ・平成17年3月24日付け都計第574号で終了報告。	16委庁財第4の1193号 20041119
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	－	旧補助陸上競技場等フェンス等撤去	許可の日 ～20041228	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・遺構、景観等への影響なし。 ・平成17年2月18日付け都計第515号で終了報告。	岡教文第592-1号 20041115
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	－	水道管破損修理	許可の日 ～20041228	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーホに該当。 ・遺構、景観等への影響なし。 ・平成17年2月18日付け都計第516号で終了報告。	岡教文第593-1号 20041115
史跡 岡山城跡	岡山市丸の内二丁目3番901ほか	－	看板撤去	許可の日の翌日 ～20041228	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・遺構等を破損することのないよう注意。 ・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・平成16年12月20日付け岡観第776号で終了報告。	岡教文第682-1号 20041215
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	240㎡	残土仮置き	許可の日 ～20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・遺構、景観等への影響なし。 ・平成17年5月11日付け都計第186号で終了報告。	岡教文第741-1号 20050117
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	－	史跡整備	許可の日 ～20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・岡山県教育委員会職員の立会を求めること。 ・重要な遺構などが発見された場合は、設計変更等により、その保存を図ること。 ・県教育委員会の指示を受けること。 ・平成17年4月25日付け教文保第144号で終了報告。	16委庁財第4の1521号 20050121
史跡 賞田廃寺跡	岡山市賞田471-1ほか	約5,000㎡	史跡整備（南東部基盤整備・園路造成）		岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・岡山市教育委員会職員の立会を求めること。 ・重要な遺構などが発見された場合は、設計変更等により、その保存を図ること。 ・市教育委員会の指示を受けること。 ・平成17年3月31日付け岡教文第954号で終了報告。	16委庁財第4の1461号 20050121
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	－	ランニングコース標識板撤去	許可の日 ～20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・遺構等を破損することのないよう注意。	岡教文第776-1号 20050201

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	申請者	対応・指導事項等	許可文書番号 許可日
特別名勝 岡山後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園１番５号	168㎡	園路修繕	許可の日 ～20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・遺構等を破損することのないよう注意。 ・平成17年3月31日付け後第76号で終了報告。	岡教文第840-1号 20050224
特別名勝 岡山後楽園 史跡 岡山城跡	岡山市後楽園１番５号	―	掲示板の設置	許可の日 ～20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・遺構等を破損することのないよう注意。 ・平成17年3月31日付け後第77号で終了報告。	岡教文第854-1号 20050228
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	―	園路アスファルト舗装修繕	許可の日 ～20050331	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・施行令第5条第4項第1号ーハに該当。 ・遺構等を破損することのないよう注意。	岡教文第886-1号 20050308
特別天然記念物 タンチョウ	地域を定めず（和気郡佐伯町田賀730 岡山県自然保護センター）	―	４羽の飼育場所の移動（岡山市後楽園1番5号 岡山後楽園）	許可の日～ 200511下旬	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・県教育委員会の指示を受けること。	16委庁財第4の1746号 20050318
天然記念物 アユモドキ	地域を定めず（岡山市祇園地内・祇園用水）	―	農村自然環境整備事業（祇園用水路改修）実施に伴う一時捕獲	許可の日 ～20050630	岡山県岡山地方振興局 局長　赤木　匠	・施行令第5条第4項第1号ートに該当。 ・生息可能な水量を確保し、生存に十分に注意を払って実施。 ・保護のため一時捕獲した際は、必要な記録計測の後すみやかに放流。 ・平成１７年3月31日付け岡地振農第5-71号で終了報告。	岡教文第948-1号 20050331
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	―	国体イベントに伴うボート池整備	許可の日 ～20051220	岡山市内山下2-4-6 「晴れの国おかやま国体・輝いて！おかやま大会」実行委員会会長 岡山県知事　石井正弘	・岡山県教育委員会職員の立会を求めること。 ・県教育委員会の指示を受けること。	16委庁財第4の1831号 20050422
史跡 津島遺跡	岡山市いずみ町	―	第5回全国障害者スポーツ大会リハーサル大会に伴うテント設置	20050519 ～20050525	岡山市内山下2-4-6 「晴れの国おかやま国体・輝いて！おかやま大会」実行委員会会長 岡山県知事　石井正弘	・岡山県教育委員会職員の立会を求めること。 ・県教育委員会の指示を受けること。 ・平成17年5月26日付け、おか国障第202号で終了報告。	16委庁財第4の1890号 20050422
特別天然記念物 タンチョウ	地域を定めず（和気郡佐伯町田賀730 岡山県自然保護センター）	―	２羽の飼育場所の移動（岡山市いずみ町岡山県総合グラウンドボート池）	20051015 ～20051110	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・県教育委員会の指示を受けること。	16委庁財第4の1854号 20050617

その他の届出・申請等　10件

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	通知者等	対応・指導事項等	文書番号 日　付
文化財保護法第３２条第１項（所有者変更の届出）							
重要文化財 信長記	岡山市津島中１丁目1-1	―	岡山大学の国立大学法人化に伴う所有者の変更	20040401	国立大学法人 岡山大学 学長　河野伊一郎		岡大情企第1号 200404212
文化財保護法第３３条第１項（滅失・き損の届出）							
重要文化財 旧犬養家住宅	岡山市川入102番地	―	台風21号による屋根下漆喰の一部剥離	20040930	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘		文第335号 20041001
重要文化財 旧犬養家住宅	岡山市川入102番地	―	台風23号による屋根下漆喰の一部剥離	20041020	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘		文第357号 20041021

種別及び名称	所在地	面積（㎡）	目的及び原因	期間	通知者等	対応・指導事項等	文書番号 日　付
岡山県文化財保護条例第８条第１項（滅失・き損の届出）							
県指定重要文化財 旧足守藩侍屋敷遺構	岡山市足守752番地	－	台風及び大雨による母屋棟覆いの破損、内蔵母屋端漆喰の剥落。	20041008	岡山市大供一丁目１番１号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾		岡教文第512号 20041012
岡山県文化財保護条例第１３条第１項（修理の届出）							
県指定重要文化財 吉備津彦神社本殿	岡山市一宮1043番地	12㎡	屋根（品軒付）腐朽部分の積み直し。	20040517 ～20040527	岡山市一宮1043番地 宗教法人 吉備津彦神社 代表役員　守分清身	・平成16年7月17日付けで完了届。	20040428
県指定重要文化財 旧足守藩侍屋敷遺構	岡山市足守752番地	－	台風及び大雨による破損部分の修繕。		岡山市大供一丁目１番１号 岡山市教育委員会 教育長　玉光源爾	・平成17年10月12日付け岡教文第512号で届出たき損部分の修繕。	岡教文第594号 20041116
岡山県文化財保護条例第３５条第１項（現状変更許可申請）							
岡山県史跡 倉安川吉井水門	岡山市吉井496番地先	18㎡	亀裂を生じた市道の舗装修繕。	許可の日 ～20050131	岡山市大供一丁目1番1号 岡山市長　萩原誠司	・平成17年3月4日付け岡西支建第1390号で完了届。	岡山県教育委員会指令教文保第925号 20041122
岡山県史跡 犬養家旧宅	岡山市川入102番地		案内看板修繕	許可の日 ～20041210	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘	・平成16年12月13日付け文第420号で完了届。	岡山県教育委員会指令教文保第987号 20041203
岡山県文化財保護条例第３６条第１項　（滅失・き損の届出）							
岡山県史跡 犬養家旧宅	岡山市川入102番地	－	台風21号による屋根下漆喰の一部剥離。	20040930	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘		文第335号 20041001
岡山県史跡 犬養家旧宅	岡山市川入102番地	－	台風23号による屋根下漆喰の一部剥離。	20041020	岡山市内山下2-4-6 岡山県 岡山県知事　石井正弘		文第357号 20041021

V　岡山市南方遺跡出土土器付着物の^{14}C年代測定（その２）

小林謙一・春成秀爾・坂本　稔・尾嵜大真・新免歳靖・扇崎　由
国立歴史民俗博物館　研究部
岡山市埋蔵文化財センター

2004年３月に報告した南方遺跡済生会病院地点出土弥生土器の、土器付着炭化物の^{14}C年代測定について、2005年に追加で土器付着物を採取し、再び年代測定を試みた。試料番号はOKMとし、前回の続きとしてOKM21～34とした。ただし、OKM26～33は南方遺跡以外の岡山市内遺跡の試料であり、未測定である。

2004年度の調査として、岡山市埋蔵文化財センターにおいて、６点の南方遺跡出土弥生時代中期土器から、小林・春成が測定用の炭化物を採取した。このうち、OKM21は充分な炭素量が回収できず、５点について^{14}C年代を得た。なお、OKM23については、内面と外面の２試料を採取したが、結果的には外面の付着物のみが測定可能であった。測定を試みた試料は、表１及び図１に示す。以下に、処理方法、測定及び暦年較正年代を報告する。

表１　対象試料一覧

試料番号	種類	時期	種類	出土区・層位	付着状況
OKM　22	土器付着	弥生中期Ⅲ期古	甕	Ｃブロック　SD162 上層	胴上部外面　スス
OKM　23	土器付着	弥生中期Ⅲ期中	甕	Ｄブロック　木材集積２	胴上部外面　スス
OKM　24	土器付着	弥生中期Ⅲ期中	甕	Ｄブロック　14 中	胴上部外面　スス
OKM　25	土器付着	弥生中期Ⅲ期新	甕	トレンチ１　14 層上部	胴上部外面　スス
OKM　34	土器付着	弥生中期Ⅲ期中	壺	河道 14 層	胴下部内面　焦

１　炭化物の処理

試料については、以下の手順で試料処理を行った。すべての試料の（１）の作業は、国立歴史民俗博物館の年代測定資料実験室において新免が行った。OKM25は、（２）（３）の作業を、地球科学研究所を通してベータアナリティック社へ委託し、その他の試料は、（２）（３）の作業を坂本・尾嵜が行った。

（１）前処理：有機溶媒による油脂成分等の除去、酸・アルカリ・酸による化学洗浄（AAA処理）。

まずアセトンに浸け振とうし、油分など汚染の可能性のある不純物を溶解させ除去した（３回）。AAA処理として、80℃、各1時間で、希塩酸溶液（1N-HCl）で岩石などに含まれる炭酸カルシウム等を除去（３回）し、さらにアルカリ溶液（１回目0.01N-NaOH、3回目以降0.1N）でフミン酸等を除去する。４～７回処理を行い、ほとんど着色がなくなったことを確認した。さらに充分（８時間以上）に酸処理を行い中和後、水により洗浄した（４回）。各試料は、採集した総重量（表２の採取量（mg）以下同じ）、AAA前処理を行った量（処理量）、前処理後回収した量（回収量）、二酸化炭素化精製に供した量（精製）、二酸化炭素の炭素相当量（ガス）を、それぞれ表２に示す。前処理のうち、最初のアルカリ溶液を保存してある。これらの試料では、炭素含有率２が50%以上であり、年代測定用試料として良好な炭化物である。

（２）二酸化炭素化と精製：酸化銅により試料を酸化（二酸化炭素化）、真空ラインを用いて不純物を除去。

AAA処理の済んだ乾燥試料を、500mgの酸化銅とともに石英ガラス管に投じ、真空に引いてガスバーナーで封じ切った。このガラス管を電気炉で加熱して試料を完全に燃焼させた。得られた二酸化炭素には水などの不純物が混在しているので、ガラス真空ラインを用いてこれを分離・精製した。

（3）グラファイト化：鉄（またはコバルト）触媒のもとで水素還元しグラファイト炭素に転換。アルミ製カソードに充填。

1.5mgのグラファイトに相当する二酸化炭素を分取し、水素ガスとともに石英ガラス管に封じた。これを電気炉で加熱してグラファイトを得た。管にはあらかじめ触媒となる鉄粉が投じてあり、グラファイトはこの鉄粉の周囲に析出する。グラファイトは鉄粉とよく混合した後、穴径1mmのアルミニウム製カソードに600Nの圧力で充填した。

3　測定結果と暦年の較正

AMSによる^{14}C測定は、OKM25以外は、加速器分析研究所（測定機関番号IAAA）に依頼して、国立歴史民俗博物館で調整した標準試料とともに測定した。OKM25については、地球科学研究所を通してベータアナリティック社（測定機関番号Beta）へ委託した。

年代データの^{14}C BPという表示は、西暦1950年を基点にして計算した^{14}C年代（モデル年代）であることを示す（BPまたはyr BPと記すことも多いが、本稿では^{14}C BPとする）。^{14}Cの半減期は国際的に5,568年を用いて計算することになっている。誤差は測定における統計誤差（1標準偏差、68%信頼限界）である。

AMSでは、グラファイト炭素試料の^{14}C/^{12}C比を加速器により測定する。正確な年代を得るには、試料の同位体効果を測定し補正する必要がある。同時に加速器で測定した^{13}C/^{12}C比により、^{14}C/^{12}C比に対する同位体効果を調べ補正する。OKM25は、ベータアナリティック社により、^{13}C用ガス試料を質量分析計により測定した^{13}C/^{12}C比の値を示してある。OKM22のδ^{13}C値は、加速器分析研究所による同位体効果補正のための加速器による測定で、試料のδ^{13}C値としては正確ではないため、加速器分析研究所による誤差を付したδ^{13}C値については（ ）で参考として記す。他の試料については、（株）明光通商に委託して、質量分析計により測定したδ^{13}C 値を示す。^{13}C/^{12}C比は通常、標準体（古生物belemnite化石の炭酸カルシウムの^{13}C/^{12}C比）偏差値に対する千分率δ^{13}C(パーミル，‰)で示され、この値を-25‰に規格化して得られる^{14}C/^{12}C比によって補正する。補正した^{14}C/^{12}C比から、^{14}C年代値（モデル年代）が得られる（英語表記ではConventional Ageとされることが多い）。

表2　試料の重量・炭素含有率

試料番号	採取量	処理量	回収量	含有率1	前処理後	精製	ｶﾞｽ	含有率2	含有率3
OKM　21	112.6	34.8	1.85	5.3%	量不足	－	－	－	－
OKM　22	22.0	22.0	4.35	19.8%	良	3.82	2.39	62.4%	12.3%
OKM　23a	207.8	36.8	0.74	2.0%	量不足	－	－	－	－
OKM　23b	236.7	37.3	14.03	37.6%	良	5.31	3.19	60.1%	22.6%
OKM　24	18.4	18.4	5.92	32.2%	良	5.35	3.50	65.4%	21.0%
OKM　25	39.2	39.2	2.10	5.4%	良	1.80	0.91	50.6%	2.7%
OKM　34	121.8	42.0	10.23	24.4%	良	5.24	2.73	52.1%	12.7%

註）ガス*は、二酸化炭素ガス圧からの炭素換算量（mg）。
含有率1は回収量/処理量、含有率2はガス相当量/精製用重量、含有率3は含有率1×含有率2。

暦年較正

測定値を較正曲線INTCAL04（暦年代と炭素14年代を暦年代に修正するためのデータベース、2004年版）（Reimer,et.al. 2004）と比較することによって実年代（暦年代）を推定できる。両者に統計誤差があるため、統計数理的に扱う方がより正確に年代を表現できる。すなわち、測定値と較正曲線データベースとの一致の度合いを確率で示すことにより、暦年代の推定値確率分布として表す。暦年較正プログラムは、OxCal Programに準じた方法で作成したプログラムを用いている。統計誤差は2標準偏差に相当する、95%信頼限界で計算した。年代は、較正された西暦 cal BCで示す。（ ）内は推定確率である。図は、各試料の暦年較正の確率分布である。なお、前回報告したOKM20までのデータについても、INTOCAL04で較正し直した確率密度分布を図示する。

表3　測定結果

試料番号	測定機関番号	炭素年代 δ^{13}C‰	^{14}C BP（補正値）	暦年較正 cal BC	(%)は確率密度
OKM - 22	IAAA-40527	(-27.8±0.8)	2300 ±30	400-350	68.8%
				285-255	19.7%
				250-230	5.6%
				215-210	1.0%
OKM - 23b	IAAA-40528	-26.7	2230 ±40	385-195	95.1%
OKM - 24	IAAA-40529	-27.1	2230 ±30	380-330	22.5%
				320-200	72.1%
OKM - 25	Beta-195737	-25.9	2160 ±40	355-270	33.5%
				260-90	60.2%
				70-60	1.3
OKM - 34	IAAA-40530	-20.8	2280 ±40	400-345	43.5%
				315-225	46.7%
				220-205	5.2%

註）IAAA-40527のδ^{13}C値は、加速器による測定、Betaは質量分析計により測定。

年代についての考察

暦年較正年代を、検討する。今年度は第3様式の土器付着物を中心に測定したが、前回報告分を含め、検討することとする。

弥生時代中期の土器群が測定されている年代は、「2200年問題」といわれる較正曲線が大きく逆行する年代にあたり、較正年代が幅広く出てしまうため暦年代をしぼりにくい時期である。

口唇端部に面取りが見られず、第3段階古段階の可能性があるOKM22は、炭素14年代で2300±30^{14}CBP、暦年較正年代で400-210cal BCの年代幅のなかの1時点で、確率密度としては、400-350cal

BCの年代に含まれる可能性が最も高いということになってしまう。前回報告した第3様式古段階と捉えられるOKM13・4が、炭素年代で2340^{14}CBPより古い年代と、今回のOKM22の結果とおおむね同様で、暦年較正年代で750-250cal BCに含まれる。OKM12など他の土器付着物の測定結果を含め検討すると、土器型式上もっとも古い第1様式末のOKM12・5などの土器付着物について較正年代で前390～350年頃で2つが一致して比較的高い確率で重なっており、第2様式前半のOKM11・14が前370-340年ころで高い確率で重なっているのであるから、第1様式から第2様式への移行年代は前350年頃であると仮定できる。その点から考えれば、第3様式に属するOKM22が前300年代とするのは古すぎるという推測が成り立つ。較正年代で示される年代幅のうちの新しい方の年代が実際の土器付着物の年代と捉えれば、前200年代の較正年代と考えるのが妥当といえる。OKM22の暦年較正年代確率密度を見ると、前285～255年に含まれる確率が20%、さらにやや広く取ると前285～210年に含まれる確率が26%の確率密度となる。やや確率は低いものの、総合的に判断すれば、前3世紀と捉えてよいであろう。

第3様式に含まれる壺であるOKM34、甕であるOKM23・24は、前回報告の第3様式の土器付着物とおおむね同じ2200～2280^{14}CBPころの炭素14年代である。前回のなかでは、OKM6の胴内面付着物がδ^{13}C値が-22‰と重く、年代も炭素14年代で2630±40^{14}CBPと、他の同時期の土器付着物測定結果と比べ、炭素14年で300～400年程度古い年代となっている。これは、海洋リザーブ効果を受けていると考えるのがもっとも合理的であり、OKM6の付着物が海産物の煮焦げである可能性が強いと報告しておいた（小林他2004）が、これまでに他の遺跡でも測定を重ねてきた結果を考えても、現在でも妥当な推測と考えられる。

口唇端部が明確に面取りされる特徴から、第3様式の新段階の可能性があるOKM25は、炭素14年代としても、もっとも新しい年代である2160±40^{14}CBP、暦年較正年代で355-60cal BCとなり、その中でも260-90cal BCの年代幅のなかの1時点である可能性が、確率密度分布で60%と最も高く、前2世紀までは及ぶ可能性が見て取れる。

第3様式の年代について、今回の測定結果と前回の結果を重ねて考えると、第3様式前半については前300年代後半以降おそらくは前300年代末以降で紀元前200年台の幅の中に収まり、第3様式後半は、それよりも新しく前100年代に及ぶ可能性がある。

なお、今回の測定した試料のδ^{13}C値をみると、OKM34以外は-25‰以上とC3植物に由来する可能性が高いのに対し、OKM34は-20‰と重い値である。これは、海洋リザーバー効果によるものか、C4植物に由来する可能性を検討する必要がある数値である。OKM34について、（株）明光通商に委託して安定質量分析計で測定したδ^{15}Nは、1.322、C/N比は9.94である。これは、壺形土器の内面付着物という他と異なる付着物であること、拡大写真をみても、やや繊維状に組織が認められる部分があり、他と異なること、結果としての測定年代は他の試料とほぼ整合的な年代であることが指摘できる。窒素が比較的少なく、δ^{15}N値も低いことから海洋に由来する可能性は少なく、C4植物のお焦げである可能性が考えられる。このような付着物の正確については、今後とも検討していく必要がある（坂本2005）。

なお、昨年度報告分については、較正曲線INTCAL98を用いて暦年較正しているが、INTCAL04を用いた場合と大きな齟齬はないことを確認している。

この報告は、平成17年度文部科学省・科学研究費補助金　学術創成研究「弥生農耕の起源と東アジ

ア－炭素年代測定による高精度編年体系の構築－」（研究代表　西本豊弘）の成果の一部である。本稿を草するに当たり、国立歴史民俗博物館今村峯雄教授には、暦年較正についてご協力を得ている。

参考文献

小林謙一・春成秀爾・坂本　稔・今村峯雄・松崎浩之・扇崎　由2004「岡山市南方遺跡出土土器付着物の^{14}C年代測定」『岡山市埋蔵文化財センター年報』3

坂本稔・小林謙一・今村峯雄・松崎浩之・西田茂2005「土器付着物に見られる海洋リザーバー効果」『日本文化財科学会第22回大会研究発表要旨集』

春成秀爾・藤尾慎一郎・今村峯雄・坂本稔　2003「弥生時代の開始年代　－^{14}C年代の測定結果について」『日本考古学境界第69回総会』研究発表要旨　日本考古学協会　65-68

春成秀爾・今村峯雄編2004『弥生時代の実年代』学生社

春成秀爾・今村峯雄・藤尾慎一郎・小林謙一・坂本稔・西本豊弘2005「弥生時代中期の実年代－^{14}C年代の測定結果について－」『日本考古学協会第71回総会研究発表要旨』

Reimer, Paula J.; Baillie, Mike G.L.; Bard, Edouard; Bayliss, Alex; Beck, J Warren; Bertrand, Chanda J.H.; Blackwell, Paul G.; Buck, Caitlin E.; Burr, George S.; Cutler, Kirsten B.; Damon, Paul E.; Edwards, R Lawrence; Fairbanks, Richard G.; Friedrich, Michael; Guilderson, Thomas P.; Hogg, Alan G.; Hughen, Konrad A.; Kromer, Bernd; McCormac, Gerry; Manning, Sturt; Ramsey, Christopher Bronk; Reimer, Ron W.; Remmele, Sabine; Southon, John R.; Stuiver, Minze; Talamo, Sahra; Taylor, F.W.; van der Plicht, Johannes; Weyhenmeyer, Constanze E. 2004 IntCal04 Terrestrial Radiocarbon Age Calibration, 0-26 Cal Kyr BP　Radiocarbon 46(3), 1029-1058(30).

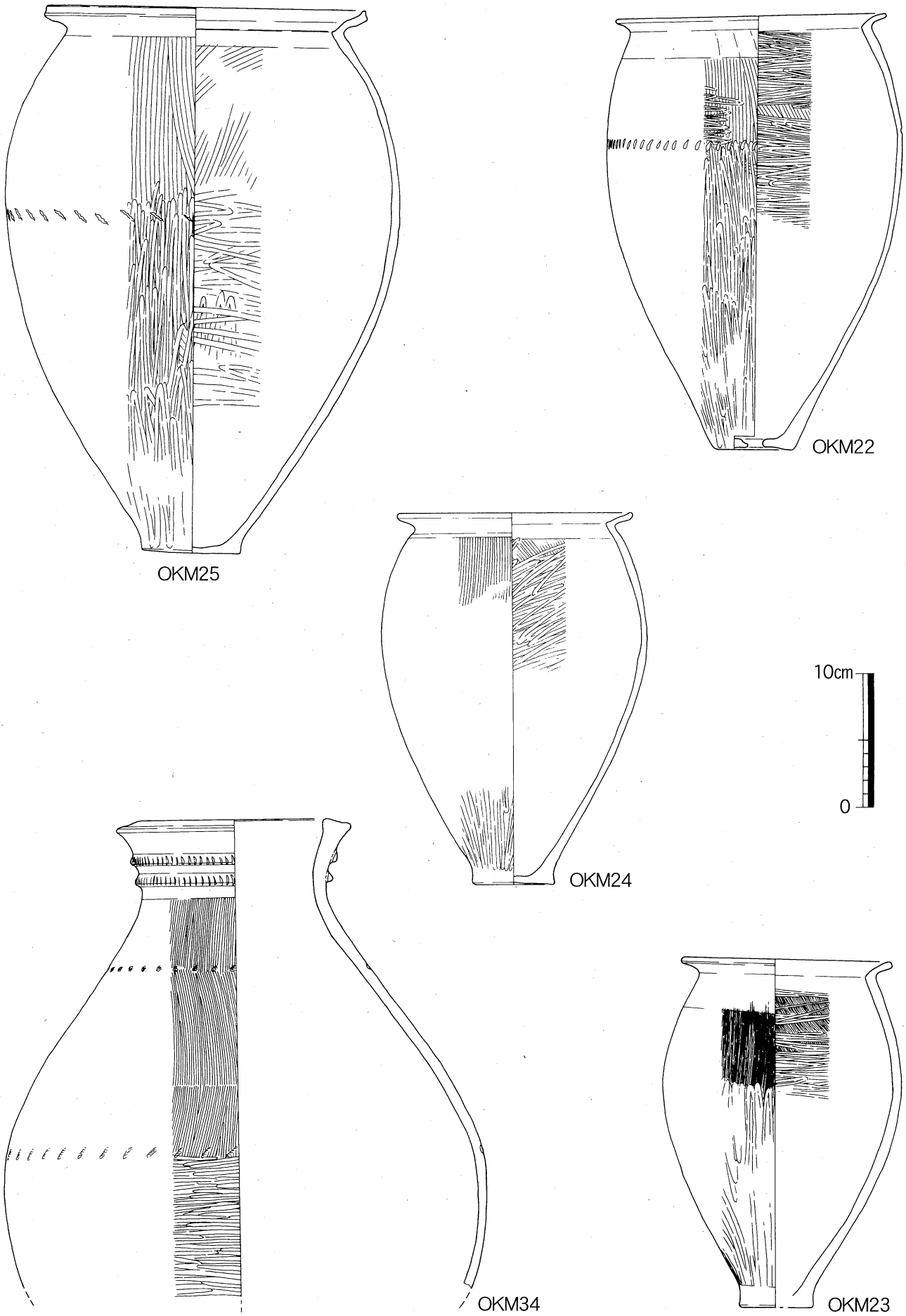
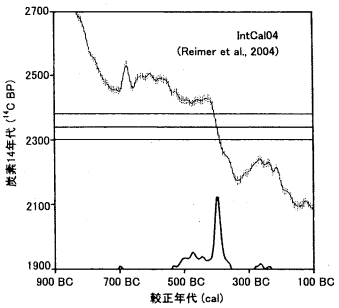
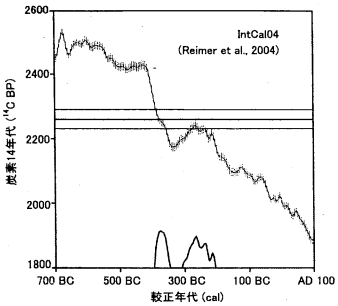


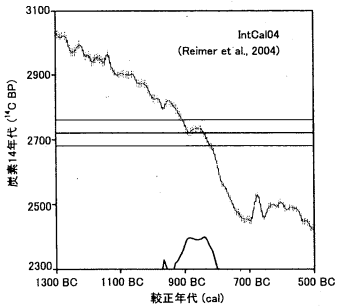
図１　測定土器実測図（S＝1／4）



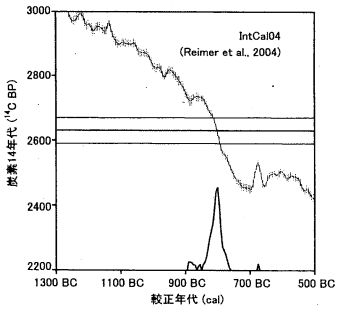
試料番号	OKM-4			
機関番号	Beta-187233			
炭素14年代	2340 ± 40 ^{14}C BP			
較正年代	705 cal BC	-	695 cal BC	0.8%
	540 cal BC	-	355 cal BC	90.4%
	285 cal BC	-	255 cal BC	3.2%
	245 cal BC	-	230 cal BC	1.1%
				95.4%
中央値	410 cal BC			
最頻値	400 cal BC			



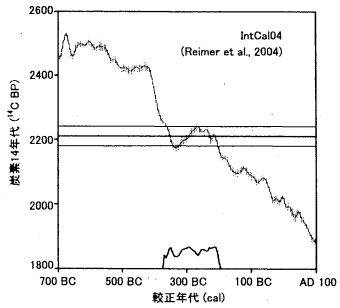
試料番号	OKM-5			
機関番号	Beta-178708			
炭素14年代	2260 ± 30 ^{14}C BP			
較正年代	395 cal BC	-	350 cal BC	38.8%
	305 cal BC	-	205 cal BC	56.2%
				95.0%
中央値	290 cal BC			
最頻値	375 cal BC			



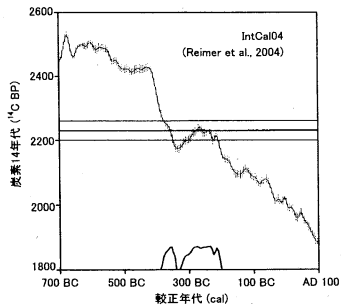
試料番号	OKM-6			
機関番号	Beta-183450			
炭素14年代	2720 ± 40 ^{14}C BP			
較正年代	970 cal BC	-	960 cal BC	2.0%
	935 cal BC	-	805 cal BC	93.4%
				95.4%
中央値	870 cal BC			
最頻値	840 cal BC			



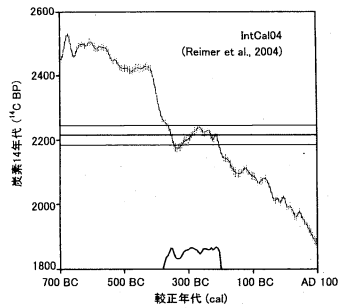
試料番号	OKM-6ad			
機関番号	Beta-187232			
炭素14年代	2630 ± 40 ^{14}C BP			
較正年代	895 cal BC	-	865 cal BC	5.5%
	865 cal BC	-	850 cal BC	1.6%
	850 cal BC	-	765 cal BC	87.4%
	680 cal BC	-	670 cal BC	1.0%
				95.4%
中央値	810 cal BC			
最頻値	800 cal BC			



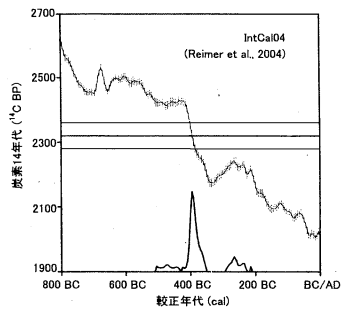
試料番号	OKM-7			
機関番号	Beta-178709			
炭素14年代	2210 ± 30 ^{14}C BP			
較正年代	375 cal BC	-	200 cal BC	95.3%
				95.3%
中央値	290 cal BC			
最頻値	295 cal BC			



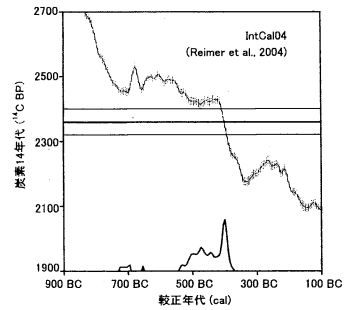
試料番号	OKM-8			
機関番号	Beta-178710			
炭素14年代	2230 ± 30 ^{14}C BP			
較正年代	385 cal BC	-	340 cal BC	23.1%
	325 cal BC	-	205 cal BC	72.2%
				95.4%
中央値	280 cal BC			
最頻値	235 cal BC			



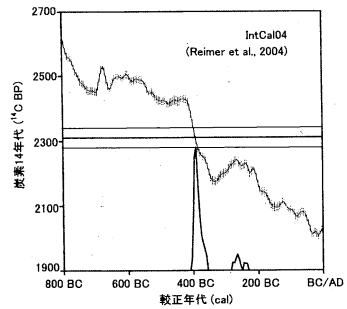
試料番号	OKM-11			
機関番号	MTC-03615			
炭素14年代	2215 ± 30 ^{14}C BP			
較正年代	375 cal BC	-	200 cal BC	95.4%
				95.4%
中央値	285 cal BC			
最頻値	215 cal BC			



試料番号	OKM-12			
機関番号	Beta-178711			
炭素14年代	2320 ± 40 ^{14}C BP			
較正年代	510 cal BC	-	435 cal BC	10.8%
	430 cal BC	-	350 cal BC	67.4%
	290 cal BC	-	230 cal BC	16.1%
	220 cal BC	-	210 cal BC	0.8%
				95.2%
中央値	395 cal BC			
最頻値	395 cal BC			

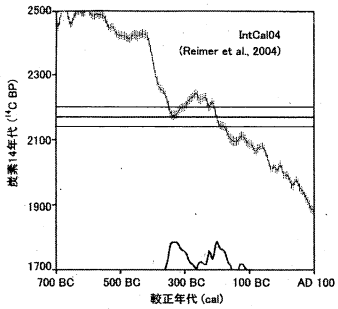


試料番号	OKM-13			
機関番号	Beta-187231			
炭素14年代	2360 ± 40 ^{14}C BP			
較正年代	730 cal BC	-	690 cal BC	4.9%
	660 cal BC	-	650 cal BC	0.8%
	545 cal BC	-	375 cal BC	89.7%
				95.4%
中央値	450 cal BC			
最頻値	400 cal BC			

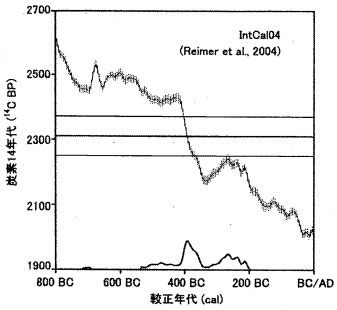


試料番号	OKM-14			
機関番号	Beta-178712			
炭素14年代	2310 ± 30 ^{14}C BP			
較正年代	405 cal BC	-	355 cal BC	83.1%
	285 cal BC	-	255 cal BC	9.1%
	250 cal BC	-	230 cal BC	3.3%
				95.4%
中央値	390 cal BC			
最頻値	390 cal BC			

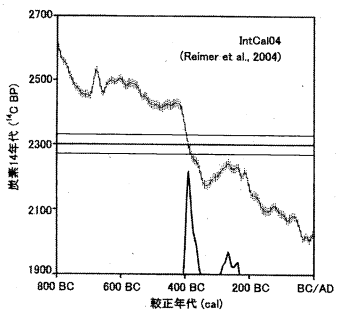
図２　確率密度分布（OKM４～20は前回報告分のINTCAL04での再計算）



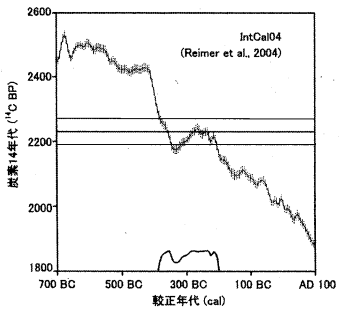
試料番号	OKM-17			
機関番号	Beta-178713			
炭素14年代	2170 ± 30 14C BP			
較正年代	360 cal BC	-	270 cal BC	48.6%
	265 cal BC	-	155 cal BC	43.9%
	135 cal BC	-	115 cal BC	2.9%
				95.4%
中央値	280 cal BC			
最頻値	200 cal BC			



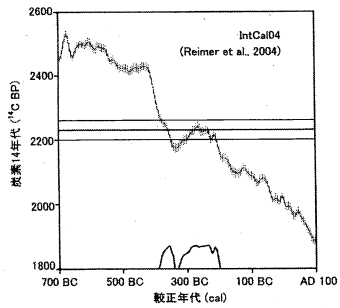
試料番号	OKM-20			
機関番号	MTC-03793			
炭素14年代	2310 ± 60 14C BP			
較正年代	715 cal BC	-	695 cal BC	1.4%
	540 cal BC	-	200 cal BC	94.1%
				95.4%
中央値	375 cal BC			
最頻値	390 cal BC			



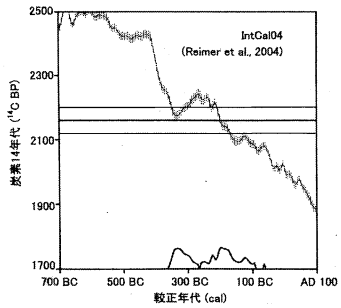
試料番号	OKM-22			
機関番号	IAAA-40527			
炭素14年代	2300 ± 30 14C BP			
較正年代	405 cal BC	-	355 cal BC	75.2%
	285 cal BC	-	230 cal BC	20.3%
				95.4%
中央値	385 cal BC			
最頻値	390 cal BC			



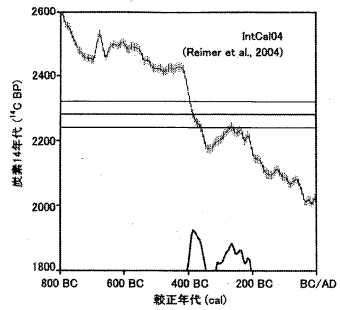
試料番号	OKM-23b			
機関番号	IAAA-40528			
炭素14年代	2230 ± 40 14C BP			
較正年代	385 cal BC	-	200 cal BC	95.5%
				95.5%
中央値	290 cal BC			
最頻値	235 cal BC			



試料番号	OKM-24			
機関番号	IAAA-40529			
炭素14年代	2230 ± 30 14C BP			
較正年代	385 cal BC	-	340 cal BC	23.1%
	325 cal BC	-	205 cal BC	72.2%
				95.4%
中央値	280 cal BC			
最頻値	235 cal BC			

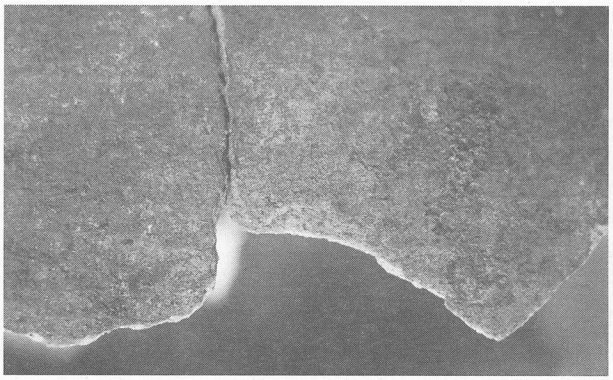


試料番号	OKM-25			
機関番号	Beta-195737			
炭素14年代	2160 ± 40 14C BP			
較正年代	360 cal BC	-	265 cal BC	37.5%
	265 cal BC	-	90 cal BC	57.1%
	65 cal BC	-	60 cal BC	0.8%
				95.4%
中央値	225 cal BC			
最頻値	200 cal BC			

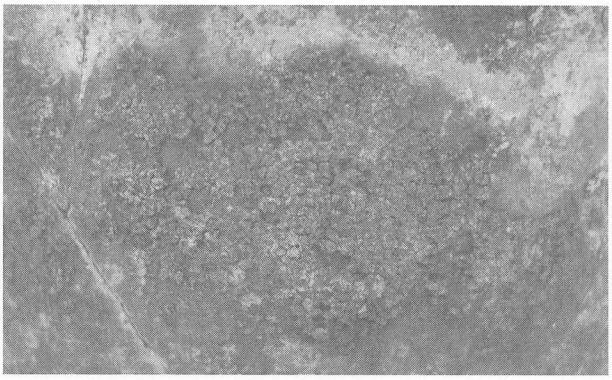


試料番号	OKM-34			
機関番号	IAAA-40530			
炭素14年代	2280 ± 40 14C BP			
較正年代	400 cal BC	-	350 cal BC	45.6%
	315 cal BC	-	205 cal BC	49.8%
				95.5%
中央値	310 cal BC			
最頻値	385 cal BC			

図３　確率密度分布（OKM４～20は前回報告分のINTCAL04での再計算）

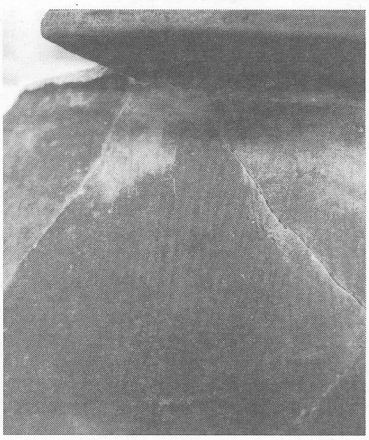


No.22　胴部外面スス付着状態



No.23　胴部外面スス付着状態

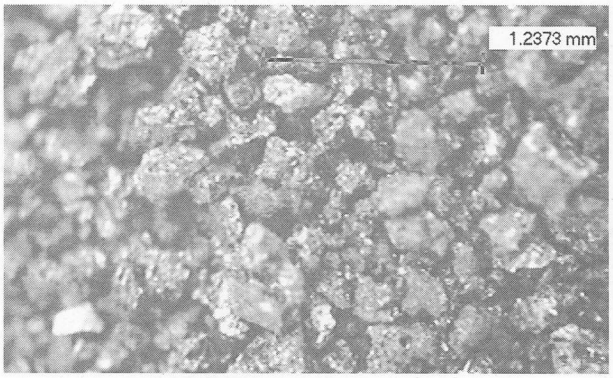
No.24　胴部外面
スス付着状況



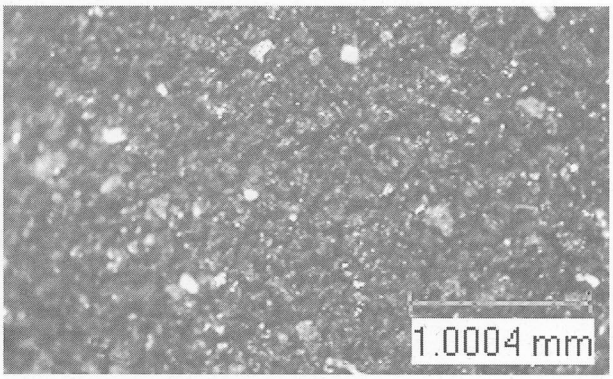
No.25　胴部外面
スス付着状況

No.34　胴部内面焦げ付着状態

No.34　胴部内面焦げ付着状態



No.22　AAA処理前　22倍



No.22　AAA処理後　22倍

南方遺跡出土土器炭化物付着状態